

Accuphase

A/V CONTROL CENTER

A/V コントロール・センター

VX-700 取扱説明書



ご使用の前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読み
のうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引き
かえにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

* 本機の機能を変更・追加する場合、VX-700ファームウェアのバージョン・アップが可能です。お客様が現在ご使用中のファームウェア・バージョンを管理し、バージョン・アップご案内のため、『お客様カード』が必要になります。このため付属の『お客様カード』を必ずご返送ください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
います。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、
個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、
その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このよう
な品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

未長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

3年間の品質保証と保証書

当社製品の品質保証は3年間です。付属のお客様
カードに必要事項を記入の上、お早めに（なるべく
10日以内に）ご返送ください。お客様カードと
引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。
特にVX-700の場合、ご購入時のファームウェア
のバージョン管理やその後のバージョン・アップ
ご案内のため、お客様カードの登録が必要となり
ます。

製品に関するお問い合わせや異常が認められると
きは、当社品質保証部またはお求めの当社製品取
扱店へ、直ちにご連絡ください。

尚、品質保証書につきましては日本国内のみ適用

Accuphase warranty is valid only in Japan.



マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を
生じる恐れがあることを示しています。お客様へ
の危害や、機器の損害を防止するため、表示の意
味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使
用ください。



警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、
人が死亡または重傷を負う可能性があり、その
危険を避けるための事項が示してあります。



注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、
人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生
じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が
示してあります。

付属品を確認します

取扱説明書 1冊
安全上のご注意 1冊
お客様カード 1枚
AC 電源コード (2m) 1本
マイクロフォン AM-28 1個
マイクロフォン・ケーブル (5m) 1本

マイクロフォン・ホルダー 1個
プラグ付オーディオ・ケーブル (1m)
..... 1組
単4形乾電池 2個
リモートコマンダー RC-31 1個

⚠ 警告 安全上必ずお守りください

ご使用前にこの「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読みの上、製品を安全にお使いください。

電源は必ずAC(交流)100V、50/60Hzを使用する。

AC100V (50Hz/60Hz) 以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。

付属の電源コード以外は絶対に使用しないでください。

付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全です。接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。

脚の交換は危険ですから行なわない。取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因になります。

密閉されたラック等には絶対に設置しない。通風が悪いと機器の温度が上がり、火災や故障の原因となります。

ケースや底板は絶対にはずさない。内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。

次の場合には、まず本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。発煙など異常がなくなったことを確認して、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

内部に水や薬品がかかった場合。
内部に異物(ヘアピン、釘、硬貨などや燃えやすい物)が入った場合。
故障や異常(発煙やおおいなど)と思われる場合。
落したり、破損した場合。

⚠ 注意

設置場所について

次のような場所への設置は避けてください。

- 通風が悪く、湿度やほこりの多い場所
- 直射日光の当たるところ
- 暖房器具の近く
- 振動や傾斜のある不安定な場所

オプション・ユニットを抜き差しする場合には、必ずVX-700の電源を“OFF”にする。

パワーアンプなど他の機器と直接重ねて使用しない。

長期間使用しないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜く。

電源スイッチのOFF直後(10秒以内)に再びONしない。ノイズ発生の原因となることがあります。

バランス用とアンバランス用ケーブルは同時に接続して使用しない。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

入・出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切る。

RCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは、一瞬グラウンド側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となります。

出力端子などに接点保護剤などを絶対に使用しない。樹脂部が経年変化で破損して感電や故障の原因となることがあります。

お手入れ

お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。

本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。固く絞った布で水拭きし、その後乾いた布で拭いてください。ベンジン、シンナー系の液体は、表面を傷めますので使わないでください。

目次

付属品を確認します表紙裏頁

⚠ 警告 安全上お守りください..... 1

各部の名前と動作説明

フロントパネル、リアパネル 4

ディスプレイ部/リモート・コマンダー 5

各部の動作説明 6, 7

スピーカー・セッティング

各スピーカーシステムの基本レイアウト

フロント・スピーカー (L, R) 8

センター (C) 9

サブウーファー D (SubW, LFE) 9

サラウンド A/B (SR-L, SR-R) 10

サラウンド・バック E/F (SRBK) 10

演奏のソースとスピーカー配置例 11

接続のしかた

端子と接続ケーブル 12, 13

ビデオ機器の音声信号や
オーディオ機器などの入力接続例 14

ビデオ機器の入・出力接続例 15

DF-35を使用したフロントのマルチアンプ接続例 ... 16

DG28/DG-38を接続して
各スピーカーを音場補正 17

外部DACを使用したサラウンド演奏 18

パワーアンプ、スピーカーの接続例 19

設定の前に演奏してみましょう

(初期設定のままですら簡単に演奏)

2chシステムでの簡単なサラウンド演奏 20

5.1chシステムでの基本的なサラウンド演奏 21

メニュー構造

CONFIGモード 22

VIDEOモード 23

QUICKモード 23

AUDIOモード 24, 25

システムのセットアップ方法

設定順序 26

設定時のディスプレイ表示例 27

設定モードの解除 28

演奏前の必要な設定 29

スピーカー設定 30 ~ 32

Fチャンネルの出力設定 31

サブウーファー：Dチャンネルの設定 32

スピーカーの自動レベル調整 33 ~ 35

マイクロフォンの設置と接続 34

自動調整 35

スピーカーの手動調整 36

スピーカー・テスト信号の種類 37

スピーカー切替 (自動または手動) 38

スピーカーのレベル設定 39, 40

スピーカーのディレイ設定 41

オーディオ入力に対するビデオ入力端子の割り当て ... 42

一般の環境・機能設定 43

各オーディオ入力端子の設定

オーディオ・メモリーの割り当て 44

アナログ入力のサンプリング周波数設定

アナログ8,9番端子の設定 45

アナログ10番端子の設定 45

各オーディオ入力端子に機種名を表示 46

希望の文字を入力する 46

入力切替時のポジション・スキップ 47

Sビデオ端子の入力信号方式の切替 47

ディスプレイ設定

ディスプレイ文字の明るさ 48

ビットレートやDN係数の表示 48

アッテネーター・レベルの設定 49

設定内容の保護 (セーフティ・ロック) 50

ボリュームの表示単位を設定 51

オーディオ・メモリーの名称変更 52

AUDIO(オーディオ)メモリー・データ

メモリー内のデータの呼び出し 53

設定したオーディオ・データをメモリーに保存 ... 54

メモリー間のデータのコピー 55

オーディオ・メモリーを

初期(出荷時)設定に戻す 55

VIDEO(ビデオ)データ

ビデオ・データの呼び出し 56

設定したビデオ・データをビデオ入力端子に保存 ... 57

ビデオ入力端子間のデータのコピー 58

ビデオ・データを初期(出荷時)設定に戻す 58

全ての設定を初期(出荷時)設定に戻す 59

各部の
動作説明

スピーカー・
セッティング

接続のしかた

簡単に演奏

メニュー構造

システムの
セットアップ

演奏前の
必要な設定

一般の環境・
機能設定

演奏方法

いろいろな演
奏と設定方法

参考資料

演奏方法

操作方法.....	60
入力ソースとエフェクト・モードの組み合わせ	61
エフェクト・モードの設定	61, 62
各種入力ソースと演奏ディスプレイの表示例	
DVDプレーヤーや衛星放送など デジタル・ソースの演奏	63
DVD/CDなど2chデジタル・ソース (リニアPCM)の演奏	64
DVD/CD/MDプレーヤーなど 2chアナログ・ソースの演奏	64
アナログ6chソース(10番端子)の演奏	64

いろいろな演奏と設定方法

AUDIO : 7パターンのメモリー内容を確認	65 ~ 67
VIDEO : ビデオ入力端子の設定内容を確認	68
QUICKモードの活用	
他のエフェクト・モードに変えて演奏	69
他のメモリー内容に変えて演奏.....	69
フロントL/R 信号の出力選択	70
センター・チャンネルのレベル調整	70
LFEのレベル調整.....	70
リア側チャンネルのレベル調整.....	71
画像に対して音声を遅らせる.....	71
Sビデオ端子の入力信号方式の切替	71
バイリンガル・モードの設定	72
Digital Audio 端子に外部機器を接続する	
外部DACの接続	73
DG-28/DG-38の接続	73
DG-28/DG-38による音場補正(調整)の方法	73
サラウンド・バック信号の再生方法	74
センター・チャンネルの調整	
レベル調整.....	75
センター・チャンネルの高さ調整	75
LFEチャンネルのレベル調整	76
サブウーファー・チャンネルのピーク・レベル設定... ..	77
ダイナミック・レンジ	78
アナログ10番端子の入力バランス	78
各スピーカーのイコライザー調整	
メモリー内のイコライザー・データの呼び出し	79
各スピーカーのイコライザー設定.....	80
画像に対して音声を遅らせる.....	81

ダウン・ミックス演奏	
スピーカー設定.....	82
センターとサブウーファー 各チャンネルのレベル調整.....	82

参考資料

リモート・コントロール	83
-------------------	----

各種サラウンド・フォーマットの特長

ドルビー・デジタル	84, 85
(Dolby Digital, Dolby Digital EX, Dolby Pro Logic)	
DTS	86, 87
(DTS, DTS-ES, DTS 96/24, DTS Neo: 6)	
SRS (Sound Retrieval System)	88
(Circle Surround , TruSurround)	
放送関係.....	89
(MPEG 2, AAC 5.1ch)	

オプション

オプションの種類	
VOX-2	90
VOX-3	90
VOX-1394.....	90
オプションの取り付け方法.....	91

ブロック・ダイアグラム

(1) オーディオ系のブロック・ダイアグラム	92
(2) 全体のブロック・ダイアグラム	93

故障かな?と思われるときは	94, 95
---------------------	--------

保証特性	96
------------	----

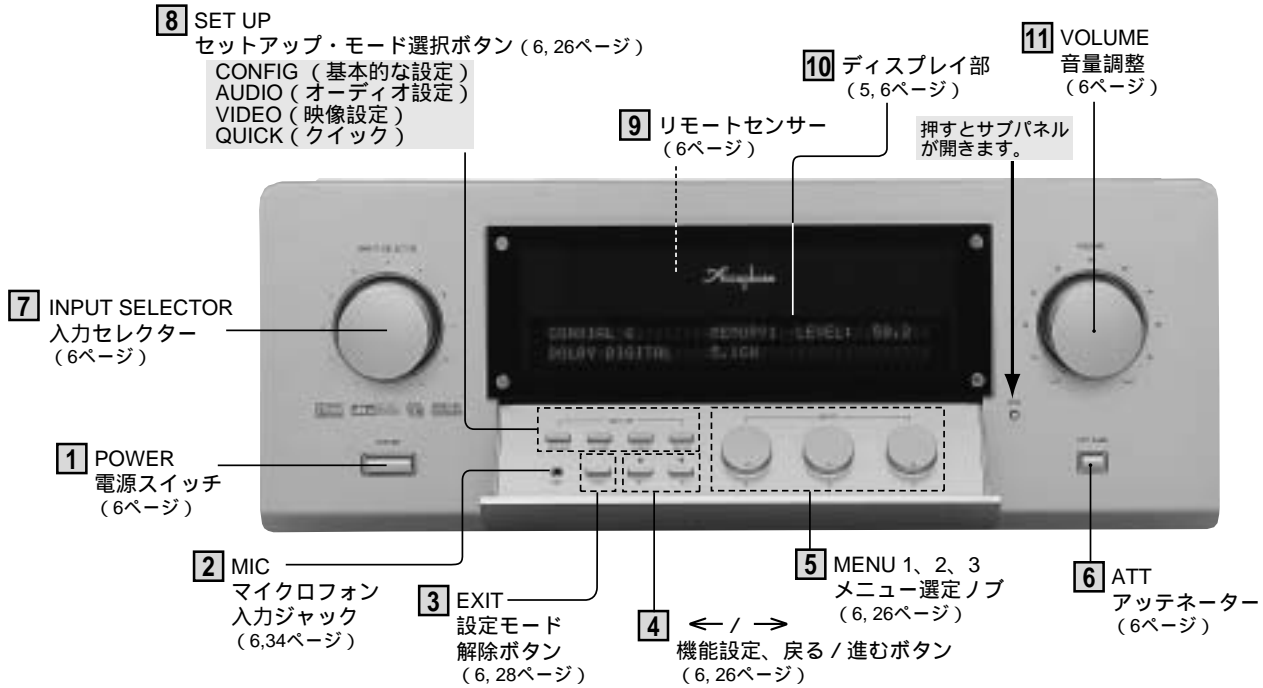
ファームウェアのアップデート	97 ~ 99
-----------------------	---------

アフターサービスについて.....	100
-------------------	-----

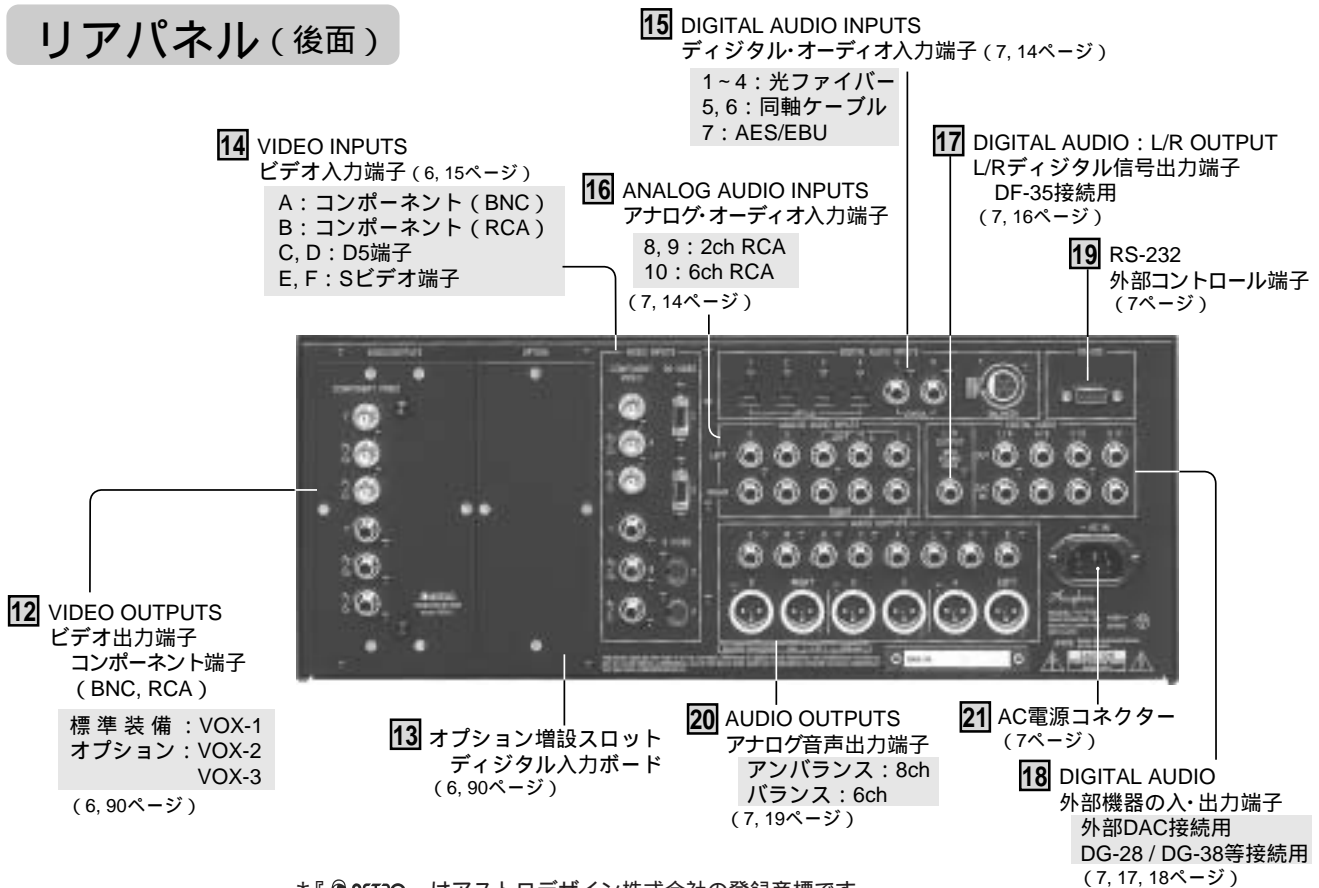
各部の名前

詳しい説明は、各項目の()内のページを参照してください。

フロントパネル(前面)



リアパネル(後面)



*『ASTRO』はアストロデザイン株式会社の登録商標です。

10 ディスプレイ部

演奏中の動作状態の表示、またセットアップの進行状況など全てこの画面で確認しながら設定します。

通常演奏時の表示例



設定時の表示例

セット・アップは次の4モードに分かれ、画面を見ながら各種設定を行います。

・・・ CONFIG ボタンを1秒以上押す

各入力端子の環境設定および一般設定
設定した機能は自動記憶

```
[CONFIG]
1IN-1 2OPTICAL 1 3AUDIO MEMORY 3MEMORY1
```

・・・ AUDIO ボタンを押して「CHECK」モード、
1秒以上押すと「設定」モード

音声関係全般の設定、
設定した機能は7パターンのメモリーに記憶

```
[AUDIO SETUP]
1EFFECT MODE 2SRS TruSurround
```

・・・ VIDEO ボタンを押して「CHECK」モード、
1秒以上押すと「設定」モード

映像関係全般の設定、
設定した機能は各ビデオ端子ごとに記憶

```
[VIDEO SETUP]
1LIP SYNC 2 0.0 FRAME
```

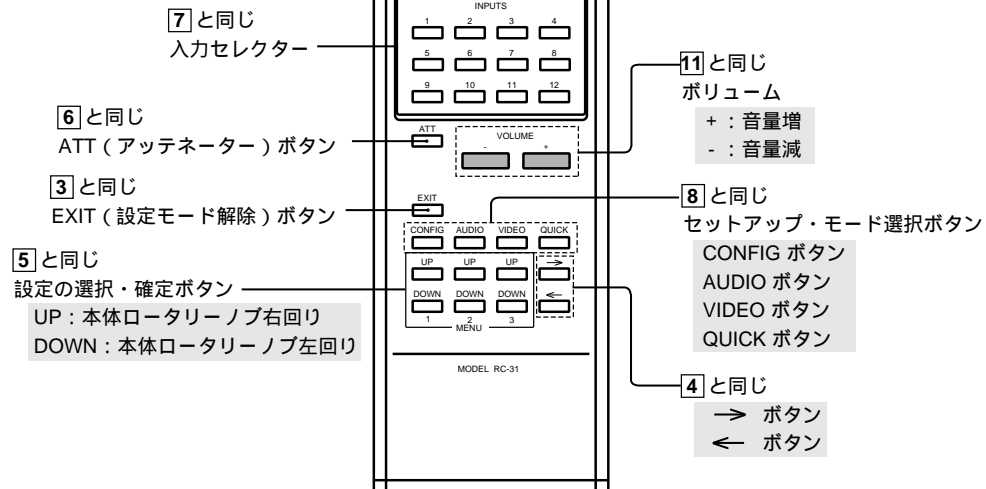
・・・ QUICK ボタンを押す

簡単に設定を変えて演奏、変更した機能は演奏中有効ですが、記憶はできません

```
[QUICK]
1CHANGE AUDIO MEMORY 2MEMORY1
```

リモート・コマンダー RC-31(付属)

* 83 ページ参照



各部の動作説明

1 POWER 電源スイッチ

押すと電源が入り、再び押すと切れます。
電源を入れてから回路が安定するまで約4秒間は、ミュート回路が作動しますので出力はありません。
設定モードで電源スイッチをOFFにした場合、設定は保存されません。
電源OFF後、10秒以内に再びONしない。



2 MIC マイクロフォン入力ジャック

スピーカーの自動レベル設定の場合に、マイクロフォンを接続します。
付属のマイクロフォンをこのジャックに入力します。

3 EXIT 設定モード解除ボタン

設定終了時または設定の途中でこのボタンを押すと、設定モードが解除され演奏ディスプレイ表示に戻ります。

4 ← / → 機能設定、戻る/進むボタン

メニュー3よりさらに深い階層にある設定項目は、 や  ボタンを押して設定を進めます。
← / → ボタンが有効な場合は、マークが画面に表示され、また各ボタンの上にLEDが点灯します。

5 MENU 1, 2, 3 メニュー設定ノブ 1, 2, 3

4種類の「SET UP」ボタンから一つを選択すると、設定モードに入ります。
各モードで、「MENU 1」⇄「MENU 2」⇄「MENU 3」を回して、設定項目を選択・確定します。
リモート・コマンダーの場合は、UPが右回り、DOWNが左回りになります。

6 ATT アッテネ - タ - ON/OFF スイッチ

本機の出カレベルを標準状態から瞬時に音量を下げるができます。
減衰レベルは初期設定で20dBです。設定で4段階に切り替えができます。

7 INPUT SELECTOR 入力セレクタ

リアパネルの各入力端子を選択します。選択したポジションのLEDが点灯し、ディスプレイに入力が表示されます。
リモート・コマンダーRC-31でも同様に切り替えできます。

- 1、2、3、4デジタル入力 : 光ファイバー
- 5、6デジタル入力 : 同軸ケーブル
- 7デジタル入力 : AES/EBUバランス
- 8、9アナログ入力 : RCAピンジャック
- 10アナログ入力 : 6ch RCAピンジャック
- 11、12オプション・ボード : VOX-1394

メモ “11、12”は、VOX-1394の仕様準ずる

8 SET UP セットアップ・モード選択ボタン

4種類のボタンから1つを選択して、機能設定モードに入ります。

- CONFIG : 全般的な設定
- AUDIO : オーディオ関連全ての設定
- VIDEO : ビデオ関連全ての設定
- QUICK : 演奏に応じて頻繁に変える設定項目

9 リモート・センサー

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-31の赤外線信号の受光部です。リモート・コマンダーを使用するときは発光部をここに向けてください。

10 ディスプレイ部

演奏状態、設定状態など全てこの画面上に表示されます。

11 VOLUME 音量調整

右へ回すと音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。
ツマミ外周に位置を示すLEDが点灯し、ディスプレイ上に音量が数字で表示されます。
リモート・コマンダーRC-31でも同様に作動させることができます。

12 標準装備：ビデオ出力端子 VOX-1

BNCとRCA、2系統のコンポーネント端子を装備しています。
コンポーネント(Y,Pb/Cb, Pr/Cr)映像入力端子のあるテレビまたはプロジェクターなどと接続します。
オプションでさらに高画質ビデオ出力端子(VOX-2,VOX-3)に変更できます。

13 オプション増設スロット

将来の拡張機能用に使用するオプション・ボード増設スロットで、IEEE1394接続端子用の『デジタル入力ボード』を増設することができます。

14 VIDEO INPUTS ビデオ入力端子

- A : BNCコンポーネント入力端子
- B : RCAコンポーネント入力端子
- C, D : D5入力端子
- E, F : S入力端子

15 DIGITAL AUDIO INPUTS デジタル・オーディオ入力端子

デジタル音声信号を入力します。

- 1、2、3、4 : 光ファイバー
- 5、6 : 同軸ケーブル
- 7 : AES/EBUバランス

16 ANALOG AUDIO INPUTS アナログ・オーディオ入力端子

入力信号は、A/Dコンバーターによってデジタル信号に変換されます。

- 8、9アナログ2ch入力 : RCAピンジャック
- 10アナログ6ch入力 : RCAピンジャック

17 L/R OUTPUT L/R デジタル信号出力端子

ボリューム情報を含んだデジタル信号出力端子です。デジタル・チャンネル・ディバイダーDF-35と接続、フロント・スピーカーをマルチアンプ・システムにグレードアップすることができます。

18 DIGITAL AUDIO 外部機器の入・出力端子

デジタル入・出力端子に外部デジタル機器を接続することができます。

- OUT 端子 : 外部機器のDACを接続する場合の出力端子
- DAC IN 端子 : OUT 端子とこの端子の間にDG-28またはDG-38を挿入して音場補正・再生が可能

19 RS-232 外部コントロール端子

AMXなど、家庭内統合コントロール・システム用の入・出力接続端子です。

20 AUDIO OUTPUTS アナログ音声出力端子

マルチチャンネル・アナログ音声出力端子です。パワーアンプの入力端子と接続します。

本機の各端子とパワーアンプ、スピーカー等の接続は次のようにしてください。

- L (LEFT) : フロント左
- R (RIGHT) : フロント右
- A : サラウンド左
- B : サラウンド右
- C : フロント・センター
- D : サブウーファー
- E : サラウンドバック左
- F : サラウンドバック (2) 右 またはサブウーファー (2) を設定

- RCA (アンバランス) ジャック : 8ch
通常のピンプラグ付オーディオ・ケーブルで接続します。
- XLR(バランス)コネクター : 6ch
E, F端子用バランス出力はありません。必要な場合は、RCAジャックのE, F端子を使用してください。

21 AC 電源コネクター

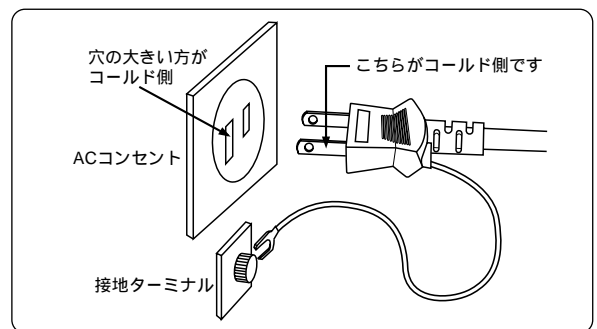
付属の電源コードを接続します。



警告

電源は必ずAC100V(50/60Hz)家庭用コンセントを使用する。

電源コードに付いているアース線の接続
付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全です。
接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。



電源コードの極性について

本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を厳密に管理して、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。

注意

- * 大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合電位が逆表示する場合があります。
- * 室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。

スピーカー・セッティング

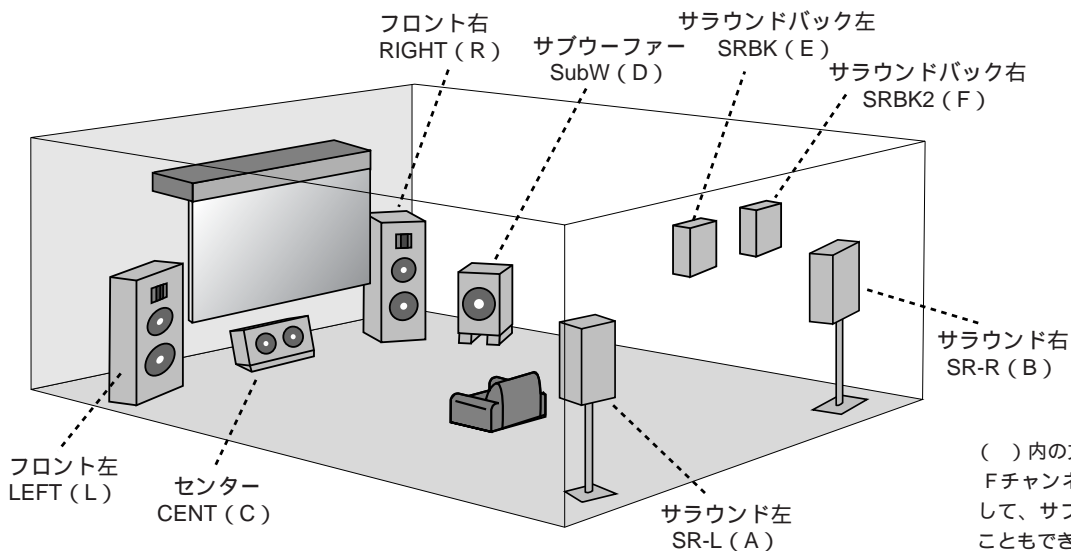
入力機器/VX-700/ディスプレイ/パワーアンプを接続して、最大8チャンネルのスピーカー・システムにより、各種フォーマットに対応したサラウンドを楽しむことができます。

映画と音楽関係などの演奏ジャンル、またそれらの音声フォーマットによってサラウンド用スピーカーのセッティングが異なります。1系統でオールマイティのレイアウトが無く、スピーカーのレイアウト（本数や配置）が異なるため、同一環境で各種の音声フォーマットを理想的に再生して楽しむことは難しいのが現状です。

主にどのようなソースをどのように聴くかによってレイアウトはある程度決まります。まず家庭環境に合わせた基本的なレイアウトでスピーカーをセッティングして、本機をセットアップしてください。その後各種入力ソースに合わせて最適なサラウンド再生ができるように、スピーカーの配置を変えたり、本機の設定を変えたりしてアレンジ、演奏を楽しみながらシステムを完成させてください。

各スピーカー・システムの基本レイアウト

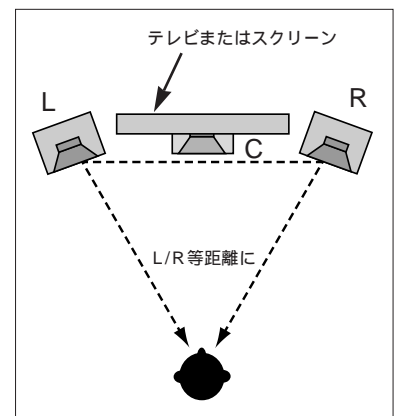
各スピーカーの配置は、下図が一般的な位置関係です。スピーカー8本全てを同一距離に置くのが理想ですが、通常の家環境では不可能です。このため、メニューの「スピーカー設定」で、各スピーカーと視聴ポイントまでの距離（ディレイタイム）の設定、またテストトーンを出して全てのスピーカーが同一距離・同音量で鳴っているように電氣的に調整します。



フロント・スピーカー (L, R)

映画はもちろん、音楽ソフトやミュージカルなどのサラウンドを楽しむ場合にはフロント・スピーカーが基本となります。ピュア・オーディオが楽しめる、再生能力の高いスピーカーを選択してください。

スピーカーと画面とをできるだけ高さを揃え、テレビやスクリーンの左右に配置します。ピュア・オーディオと同様に、正三角形の頂点に視聴ポイントがくるようにします。中抜け感を防ぐために多少内振りにしてください。テレビやスクリーンが音の障害とならないように、フロント・スピーカーは少し手前に出します。

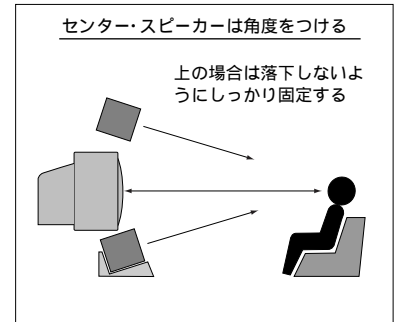


センター (C)

映画では台詞、音楽ではヴォーカルを担当、ソースの中で大切な部分を受け持つ重要なスピーカーです。サラウンドの移動感・包囲感再現の要になるので、フロントと3本一体と考え同音色・同音質のものを選択してください。

なるべく画面の近くで、フロント・スピーカーの中央に配置します。
 テレビの近くに置く場合は、色ズレ等を防ぐため防磁タイプのスピーカーを使用してください。
 テレビの上か下に設置する場合は視聴ポイント方向に振って角度を付けてください。
 スピーカー設定で、センターを《NONE：接続しない》に設定すると、センター成分はフロントL/Rに振り分けられて再生されます。
 画面と台詞の位置が合うように、VX-700には音（台詞）の縦位置を移動させて画面と一致させる設定機能があります。 ●●▶ P75
 センターchのレベル調整ができます。 ●●▶ P70, 75, 78
 サウンドスクリーン（音が通過するスクリーンで、スピーカーを裏側に設置）の場合は、音声の明瞭度や中・高域の減衰をイコライザー設定で補正することができます。

●●▶ P79, 80



サブウーファー D (SubW、LFE)

サブウーファーは映画再生時の迫力や重低音、臨場感を出すため、100～120Hz位より下の超低域、LFE (Low Frequency Effect：低域効果) 専用で0.1チャンネル分を再生します。

人間の耳は低音の指向性がそれほど強くないので置き場所は比較的ですが、一般的にはセンター・スピーカーの横かフロント・スピーカー側左右どちらかに配置します。

低音の音源位置が特定できないように、クロスオーバー周波数や音量を調節したり、実際に演奏しながら違和感のない置き場所に設置します。
 他のスピーカーとの低音の打ち消し合いが起きないように、向き等も注意してください。床に直置きにすると本体振動や床の反射を受けやすいので、ブロックやインシュレーターなどを敷いて床から少し離してください。
 レベル調整の場合、サブウーファー・レベルを他のスピーカーより音量を上げると不自然な音場となりやすいので、若干低めにレベル設定し、実際に演奏をしながら音量を微調してください。
 他のスピーカーが《small》に設定されていると、低域カット周波数で設定された各チャンネルの低音とLFEがミックスされて出力されます。
 より充実した重低音を楽しむように、サブウーファーを2本使用に設定変更することができます。 ●●▶ P31
 サブウーファーchのレベル調整ができます。 ●●▶ P70, 76, 78

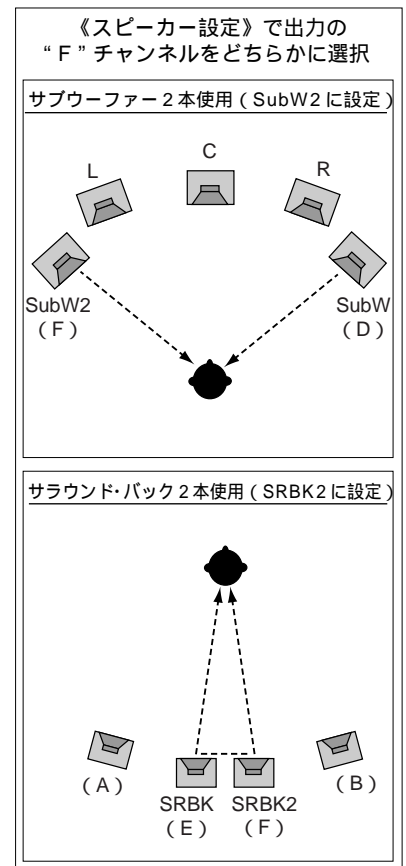
サブウーファーの接続

アクティブ型 (アンプ内蔵タイプ)

... VX-700の出力 (D) を直接サブウーファーに接続

パッシブ型 (アンプを内蔵していないタイプ)

... VX-700の出力 (D) をパワー・アンプに接続して、サブウーファーへ



サラウンド・スピーカー A/B (SR-L, SR-R)

音に包み込まれるような包囲感や移動感、音場効果などのサラウンド音声を再生します。

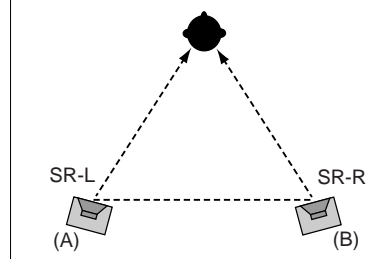
視聴ポイントから後方に左右等距離になるように配置して、視聴ポイント方向に振ってください。

映画の場合は、耳の高さより50cmから1m位高い位置に設置するとサラウンド感が出やすくなります。

音楽ソフトの場合は、逆に高い位置は違和感を生じる場合があるので、フロントと同じ位の高さに設置した方が好ましいようです。

サラウンドバック・スピーカーを使用する場合は、サラウンドバック・スピーカーより若干前方向に設置した方が、前後の音像がスムーズにつながります。

サラウンド・スピーカーL/Rは
後方で左右等距離に



サラウンドバック・スピーカー E/F (SRBK)

5.1chの再生環境に、サラウンドバック・スピーカー(SRBK)を追加して、サラウンド後方のより積極的なエフェクト効果や後方の明確な音像定位をねらいます。

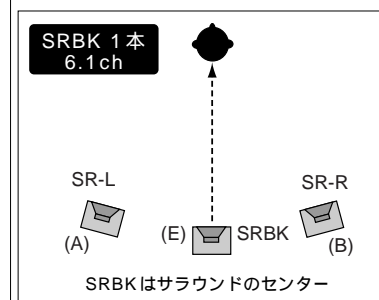
視聴ポイントのセンター後方に、サラウンド・スピーカーより高い位置に、少し下向きにして設置すると自然な空間の広がりが見られます。

サラウンド・バック信号はサラウンドL/Rchにマトリクス・エンコードされたモノラル音声です。(但し、DTS-ESディスクリット6.1は全てディスクリット処理)

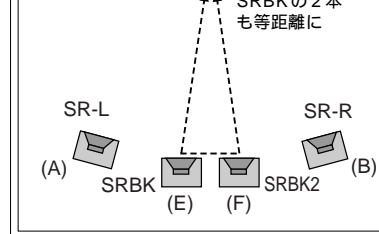
1本の場合は6.1chのサラウンド演奏で、サラウンド・スピーカーのセンターに設置します。2本の場合は7.1chのサラウンド演奏で、サラウンド・バック信号はモノラルのため平行で再生されます。

サラウンドバック・スピーカーの設定で《NONE : 接続しない》の場合は、サラウンド・バック信号は自動的にサラウンド・スピーカーL/Rに振り分けられます。

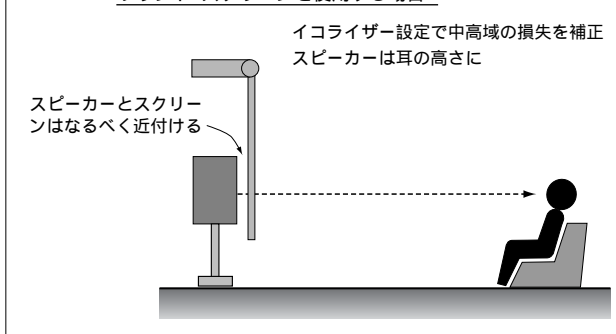
サラウンドバック・スピーカー (SRBK)
は後方センターに



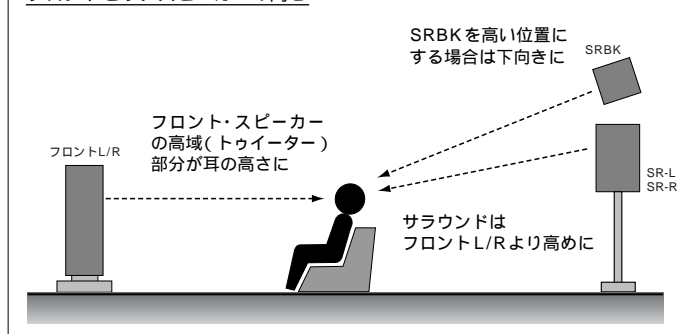
SRBK 2本
7.1ch



サラウンド・スクリーンを使用する場合



フロントとリアスピーカーの高さ



演奏のソースとスピーカー配置例

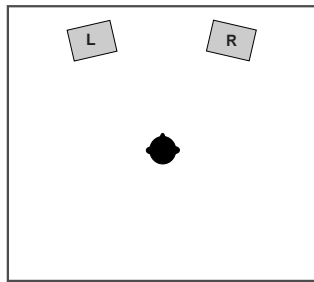
あらゆるサラウンド・フォーマットおよびメディア(映画・音楽)を同一の環境で楽しむのは難しいのが現状です。家庭での再生環境から、一番多く楽しむソフトを中心にスピーカー・セッティングを考えてください。

スピーカー設定で、《NONE》：接続しないに設定されたチャンネルの信号

- ・センター (C) ⇨ フロントL/R
- ・サラウンド (SR-L/SR-R) ⇨ フロントL/R
- ・サラウンド・バック (SRBK) ⇨ サラウンド (SR-L/SR-R) ⇨ フロントL/R

フロント、サラウンドがLARGE設定の場合

- ・サブウーファー (SubW) ⇨ フロントL/R + サラウンド (SR-L/SR-R) ⇨ フロントL/R



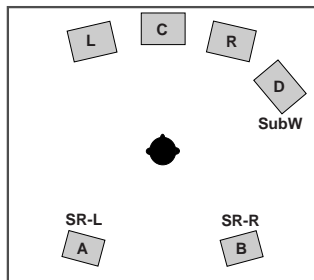
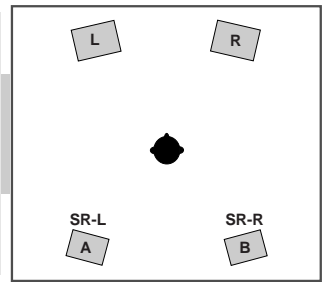
2ch : フロントL/R

* 他のスピーカーは《NONE》：接続しないに設定
 アナログ2ch演奏
 リニアPCM 2ch演奏
 ドルビーデジタル、DTS、MPEG2 AAC、MPEG2など2chソースの再生
 SRS TruSurroundモード：ディスクリート5.1ch入力を2本のスピーカーでバーチャル・サラウンド再生
 2.1ch以上のマルチ・ソースを2ch演奏

4.0ch : ダウンミックス

演奏 ●●▶ P82

* センター、サブウーファースピーカーは《NONE》：接続しないに設定

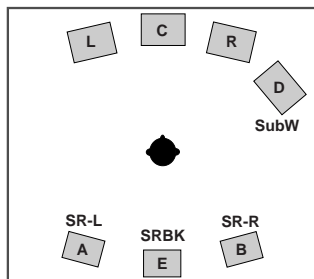
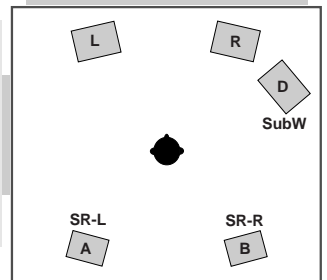


5.1ch : マルチチャンネルの標準的配置

ドルビーデジタル、DTS、DTS 96/24、MPEG2 AAC、MPEG2などの5.1chソースをサラウンド再生
 エフェクト・モードを設定して2chソースを5.1chサラウンド再生
 アナログ5.1chソースを5.1chサラウンド再生

4.1ch

* センタースピーカーは《NONE》：接続しないに設定

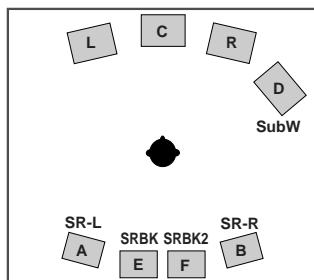
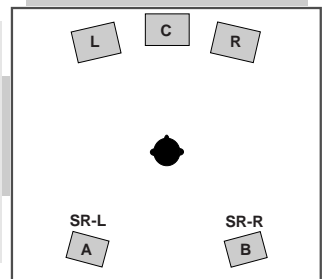


6.1ch : サラウンド・バック 1本追加

ドルビーデジタルEX、DTS-ESマトリックス6.1chソースの再生
 DTS-ESディスクリート6.1chソースをディスクリート6.1ch演奏)
 DTS NEO : 6モード : 2chソースを6.1chサラウンド再生
 SRS サークルサラウンド モード : 1chまたは2ch入力信号全てを6.1chバーチャルサラウンド再生

5.0ch

* サブウーファースピーカーは《NONE》：接続しないに設定

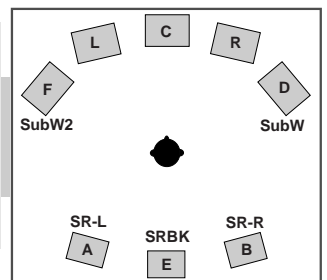


7.1ch : サラウンド・バック 2本使用

「スピーカー設定」で：
 「F」チャンネルをSRBK2に設定
 サラウンドバック信号は、モノラル音声なので2本で平行再生
 再生ソースは6.1chのサラウンド演奏のものと同様

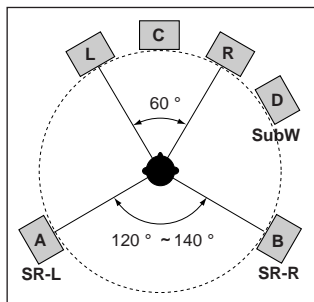
サブウーファーを2本使用

「スピーカー設定」で：
 「F」チャンネルをSubW2に設定



ITU-R 推奨セッティング

ITU-R : 国際電気通信連合の無線通信部門
 音楽ソフト再生をメインにした配置。
 放送・音楽制作サイドから提案されたスピーカー・レイアウトで、かなり広い部屋が必要
 同性能のフロントL/R,センター,リアL/Rの5本を視聴ポイントから等距離・等高配置。
 フロントL/Rは前方左右60°開いた同心円上、センターはその中央。リアL/Rは後方左右120°~140°開いた同心円上に配置。
 サブウーファーは明確な規定はない。



接続のしかた

⚠ 注意

接続する場合は必ず各機器の電源を切って、電源コードをコンセントから抜いてください。

接続例を参照して本機と入・出力機器を、音声関係、映像関係間違えないように、それぞれの端子形状に合わせたケーブルで接続します。接続後メニュー設定により、音声入力端子に対して、映像入力を割り当てますので、入力セレクターで音声機器を選択すれば、映像も同時に切り替えることができます。

音声関係は、デジタル/アナログ接続により、ケーブルの種類が異なります。

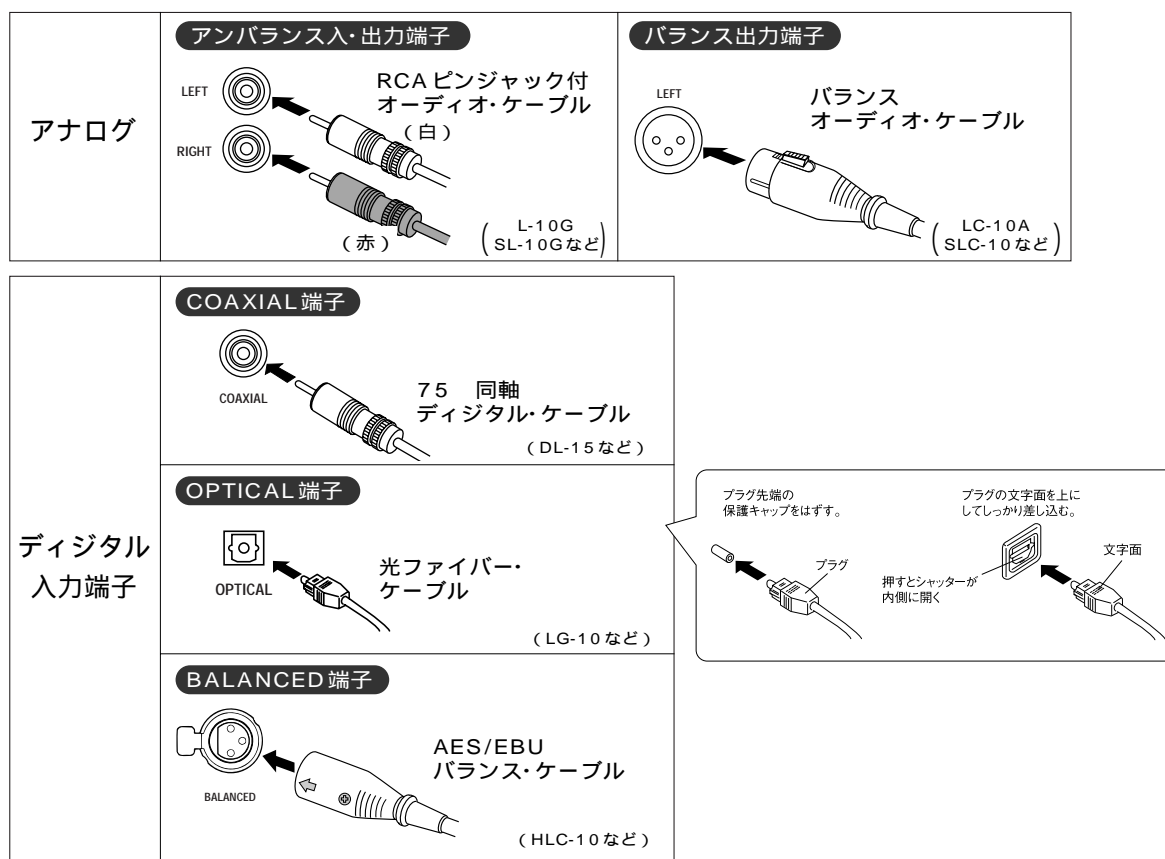
ドルビー・デジタル、DTS、AACなどマルチチャンネル信号を再生する場合は、デジタル音声で入力してください。

アナログ接続の場合は、オーディオ・ケーブルを使用して左チャンネル(LEFT)、右チャンネル(RIGHT)を正しくつないでください。

接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

端子と接続ケーブル

音声用 ケーブルはアキュフェーズで別売しています。



本機のデジタル入力端子は、以下のサンプリング周波数に対応しています。

32kHz : BSアナログ放送 (Aモード)

44.1kHz : CD、CD-R、MD

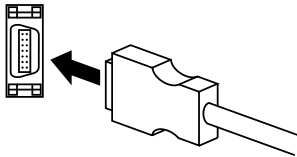
48kHz : DVD (48kHzモード)、BSアナログ放送 (Bモード)、BSデジタル放送

96kHz : DVD (96kHzモード)

映像用 市販のケーブルを使用してください

D 端子 ビデオ入力端子

D5 VIDEO



D端子ケーブル

コンポーネント信号やアスペクト比の切替制御信号など、異なる映像フォーマットの信号を、共通の14ピン仕様の端子を使用して伝送、1本のケーブルで入・出力の接続ができます。走査線数と走査方式の違い(画質のグレード)により、D1～D5まで5種類が規格化され、番号が大きいものほど高画質の映像に対応しています(現在はD4まで実用されています)。

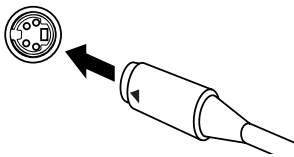
本機は将来のD5仕様まで対応していますので、全てのD端子との接続が可能です。

端子名称	対応映像信号 数字は有効走査線数、()内は走査線数
D1	480i(525i)まで
D2	480p(525p)まで
D3	1080i(1125i)まで
D4	1080i/720p(1125i/750p)まで
D5	1080p(1125p)まで

i : インターレース
p : プログレッシブ

S 端子 ビデオ入力端子

S VIDEO



Sビデオケーブル

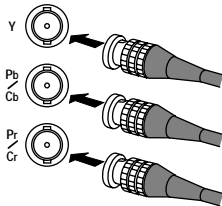
Sは『セパレート映像信号』の頭文字で、映像信号をY(輝度)信号とC(色)信号の2系統に分けて、独立した信号で伝送する4ピンの端子です。

アスペクト比(画面の横と縦の比率)など制御信号の違いによりS1, S2の規格がありますが、本機は、全てのS端子との接続が可能です。

S端子に入力された信号は、全てコンポーネント信号に変換され出力されます。

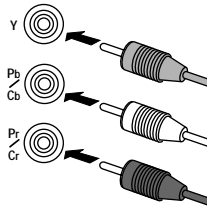
コンポーネント端子 ビデオ入・出力端子

COMPONENT VIDEO



BNCケーブル

COMPONENT VIDEO



RCAケーブル

カラー映像信号を、輝度(Y)信号と2系統の色差(B-Y, R-Y)信号に分け、3系統の独立信号として3本の75映像ケーブルで伝送するための端子です。信号の相互干渉がないため、高画質が得られます。

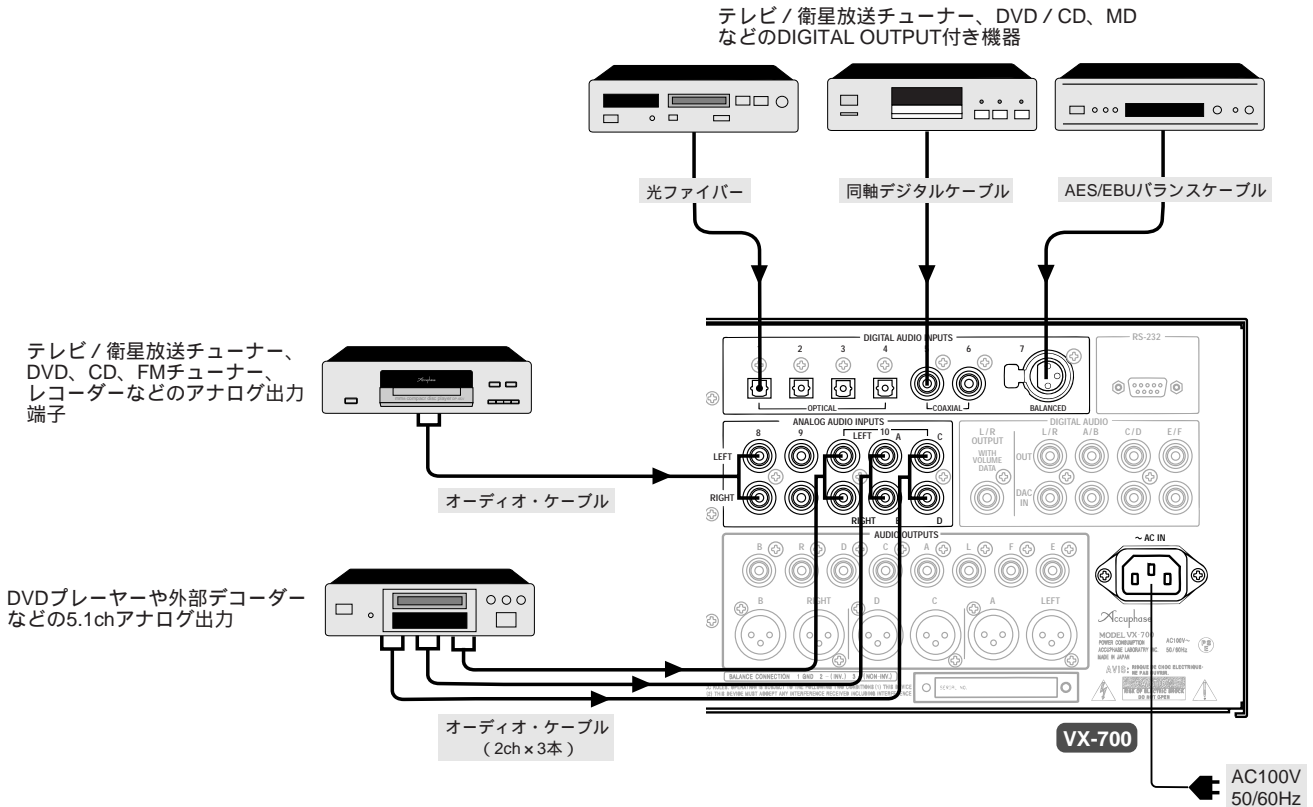
端子形状によりBNCとRCAの2系統あります。BNCは結合部がしっかりロックされ、正確に特性インピーダンスを保つことができ、高い周波数の信号を伝送するのに、信頼性が高く精密な映像が得られます。

コンポーネント映像端子の名称は[Y, Pb, Pr][Y, Cb, Cr][Y, B-Y, R-Y]など機種によって異なります。

メモ [Y, Pb/Cb, Pr/Cr]は、NTSC信号におけるカラーマトリックス規格。通常、(Y, Cb, Cr)はDVDの色差信号の伝達に使用、(Y, Pb, Pr)はハイビジョン信号に利用している規格。

ビデオ機器の音声信号やオーディオ機器などの入力接続例

映像機器(DVDプレーヤー、テレビ、衛星放送チューナー、ケーブルTVなど)の音声出力やオーディオ機器(CD/MDプレーヤー、FMチューナーなど)と接続します。
 接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



アナログでの接続

ソース側機器のアナログ出力端子

⇨ 本機の ANALOG AUDIO INPUTS

オーディオ・ケーブル(RCA ピンプラグ付)で接続します。

- 端子 8、9 : 2ch アナログ信号を入力
LEFT (左)、RIGHT (右)を確認して正しく接続してください。
- 端子 10 : 5.1ch アナログ信号を入力
 - LEFT、RIGHT : フロント L/R
 - A : サラウンド L
 - B : サラウンド R
 - C : センター
 - D : サブウーファー

* A/Dコンバーターのサンプリング周波数を設定します。

●●▶ P45

* 端子10は、2ch再生(フロントL/R)と6ch再生とを切り替えることができます。●●▶ P45

デジタルでの接続

ソース側機器のデジタル音声出力端子

⇨ 本機の DIGITAL AUDIO INPUTS

端子形状に合わせたケーブルで接続してください。
 サンプリング周波数96kHz/24bitまでの信号に対応しています。

- 端子 1、2、3、4 : 光ファイバー・ケーブル
- 端子 5、6 : 75 同軸デジタル・ケーブル
- 端子 7 : AES/EBU バランス・デジタル・ケーブル

ビデオ機器の入・出力の接続例

本機はビデオ・コンバーターを搭載していますから、映像機器の6系統のビデオ信号を任意に入力することができます。入力したビデオ信号は、設定メニューで音声信号（10系統）の入力にアサイン（割り当て）します。入力セレクターで音声入力端子を選択すれば、それに合ったビデオ信号が、2系統のコンポーネント端子からテレビやプロジェクターなどディスプレイ機器に出力されます。

映像入力

ビデオ機器のビデオ出力端子 ⇔ 本機の VIDEO INPUTS

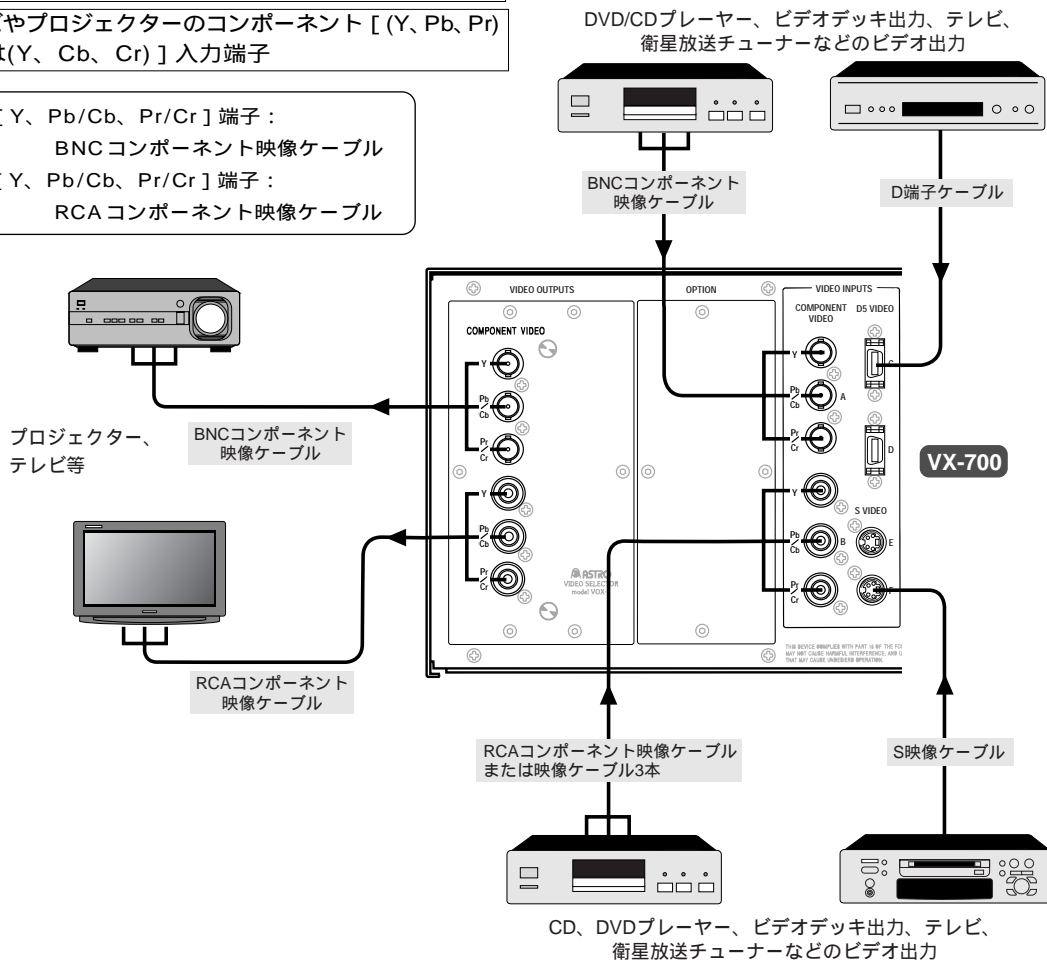
- A : BNCコンポーネント入力端子
(BNCコンポーネント映像ケーブル)
- B : RCAコンポーネント入力端子
(RCAコンポーネント映像ケーブル)
- C, D : D5端子 (D端子ケーブル)
- E, F : S端子 (Sビデオケーブル)

映像出力

本機の VIDEO OUTPUTS の [Y、Pb/Cb、Pr/Cr] 端子

⇨ テレビやプロジェクターのコンポーネント [(Y、Pb、Pr) または (Y、Cb、Cr)] 入力端子

- BNC [Y、Pb/Cb、Pr/Cr] 端子 :
BNCコンポーネント映像ケーブル
- RCA [Y、Pb/Cb、Pr/Cr] 端子 :
RCAコンポーネント映像ケーブル



接続のしかた

注意

Sビデオ端子の“E”、“F”への入力信号は、NTSC方式またはPAL方式に合わせないとビデオ出力端子に出力されません。初期（出荷時）設定は《NTSC》信号です。

CONFIGモード : VIDEO FORMAT ⇔ S端子のEまたはFを選択 ⇔ NTSCまたはPALを選択

●●▶ P47, 71

DF-35 を使用したフロントのマルチアンプ接続例

マルチチャンネル・ディバイダーDF-35を使用して、フロント・スピーカーをマルチアンプ駆動することができます。

DF-35の操作方法は、DF-35の取扱説明書を参照してください。

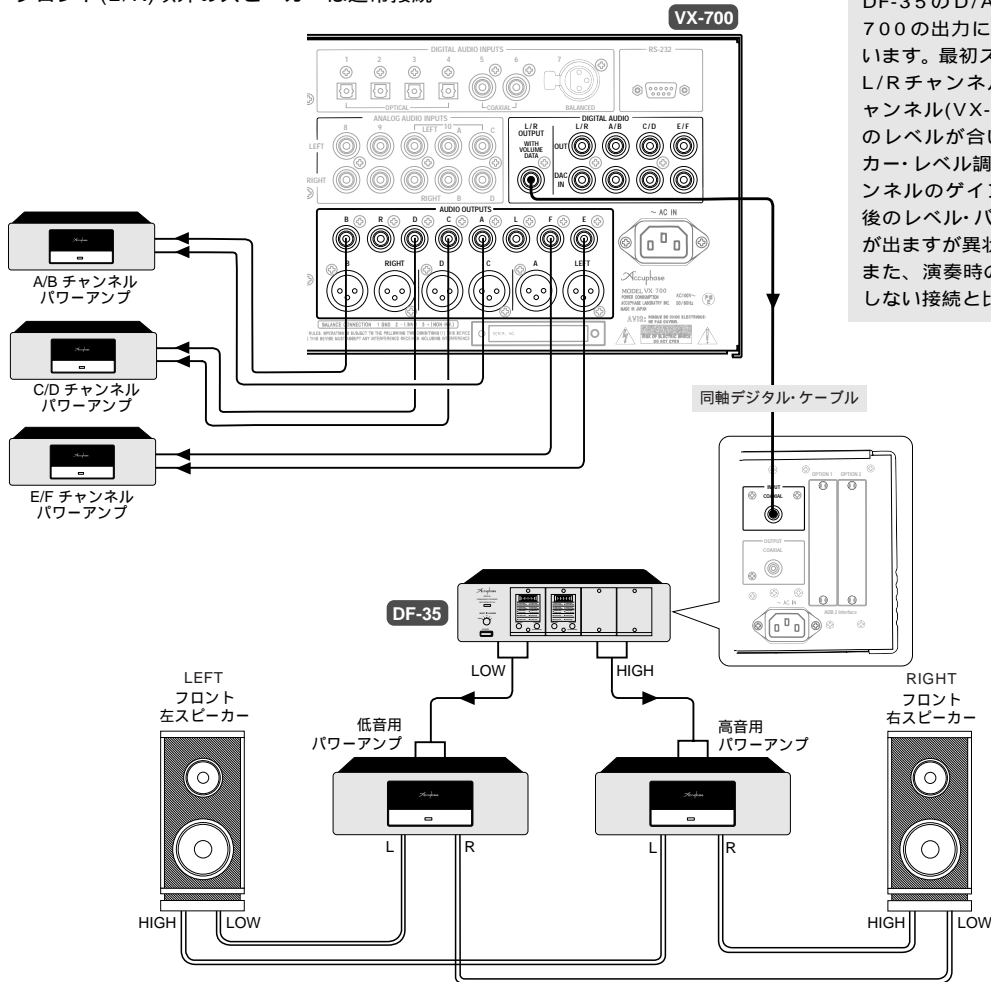
接続 本機のDIGITAL AUDIOの『L/R OUTPUT (WITH VOLUME DATA)』端子 ⇨ DF-35のINPUT : COAXIAL 端子

* フロントL/R以外の他のチャンネルは、マルチアンプ駆動することはできません。

* フロントL/Rをマルチアンプ駆動している場合には、DIGITAL AUDIO L/RのOUT端子に外部DACを接続した演奏(P18)はできません。従って、AUDIOモード: を《YES》に設定すると、DF-35を接続している「L/R OUTPUT」の出力はなくなります。

接続例

フロント(L/R)スピーカーをマルチアンプ駆動
フロント(L/R)以外のスピーカーは通常接続



注意

DF-35のD/Aコンバーター出力レベルは、VX-700の出力に比べて、およそ12dB低くなっています。最初スピーカー・レベル調整をする場合、L/Rチャンネル(DF-35のL,R)とそれ以外のチャンネル(VX-700のA,B,C,D,E,Fチャンネル)のレベルが合いません。このため、自動スピーカー・レベル調整をするとき、VX-700が各チャンネルのゲインを補正します。この結果、調整後のレベル・バランスは各チャンネルでバラツキが出ますが異常ではありません。また、演奏時のボリューム位置はDF-35を使用しない接続と比べて上がり気味になります。

⚠ 注意

DIGITAL AUDIOの『L/R OUTPUT (WITH VOLUME DATA)』端子からは、VX-700のボリューム情報が一緒に出力され、DF-35の出力をコントロールすることができます。これ以外の端子とDF-35を絶対に接続しないでください。VX-700のボリューム情報が伝送されないため、DF-35からフルレベル信号が出力されスピーカーを破損する場合があります。また、この端子 ⇨ DG-28/DG-38 ⇨ DF-35の接続も、VX-700のボリューム情報が伝送されないため、絶対に接続しないでください。

DG-28/DG-38 を接続して各スピーカーを音場補正

デジタル・ヴォイシング・イコライザー DG-28 または DG-38 を接続して、各スピーカーから部屋までを含めたトータル的な音場補正をしてサラウンド演奏を楽しむことができます。

2チャンネルずつ希望のチャンネルに DG-28/DG-38 を接続することができ、最大4台接続すれば8チャンネル全てのスピーカーに対する音場補正が可能です。

DG-28/DG-38 の詳しい説明は、DG-28/DG-38 の取扱説明書を参照してください。

* DG-28 の DSP 動作はサンプリング周波数 48kHz/24bit、DG-38 の DSP 動作は 192kHz/24bit です。DG-28 はサンプリング周波数 48kHz を超える信号にはロックしません。サンプリング周波数 48kHz を超えるソース (DTS 96/24 など) の演奏には、DG-38 を使用してください。

注意

DG-28/DG-38 でイコライザー補正を ON にすると、原理的にデジタルのフルレベルは変えられないため、DG-28/DG-38 の平均レベルを低下させます。従って DG-28/DG-38 を挿入したチャンネルの出力レベルは低くなり、レベル・バランスの調整結果は大幅なバラツキがでますが異常ではありません。スピーカー・レベル調整の場合には注意してください。

接続のしかた

本機の DIGITAL AUDIO の『OUT』端子

⇒ DG-28/DG-38 の DIGITAL INPUT : COAXIAL 端子

DG-28/DG-38 の DIGITAL OUTPUT : COAXIAL 端子

⇒ 本機の DIGITAL AUDIO の『DAC IN』端子

メニューの設定変更

DIGITAL AUDIO の希望する端子に、DG-28/DG-38 を接続するように設定をする。

初期設定は《NO CONNECTION : 接続しない》 ●●▶ P73

AUDIO モード :

さらに、DG-28/DG-38 を接続して信号がロック・インしないときは、 に設定する。

アナログ信号演奏の場合、DG-38 のみを接続する (DG-28 を接続しない) 時には、アナログ入力のア/Dコンバーターのサンプリング周波数を 96kHz に設定することができます。ただし、96kHz に設定すると、エフェクト・モードが無効になります。

初期設定は《48kHz》です。《96kHz》に設定する場合、

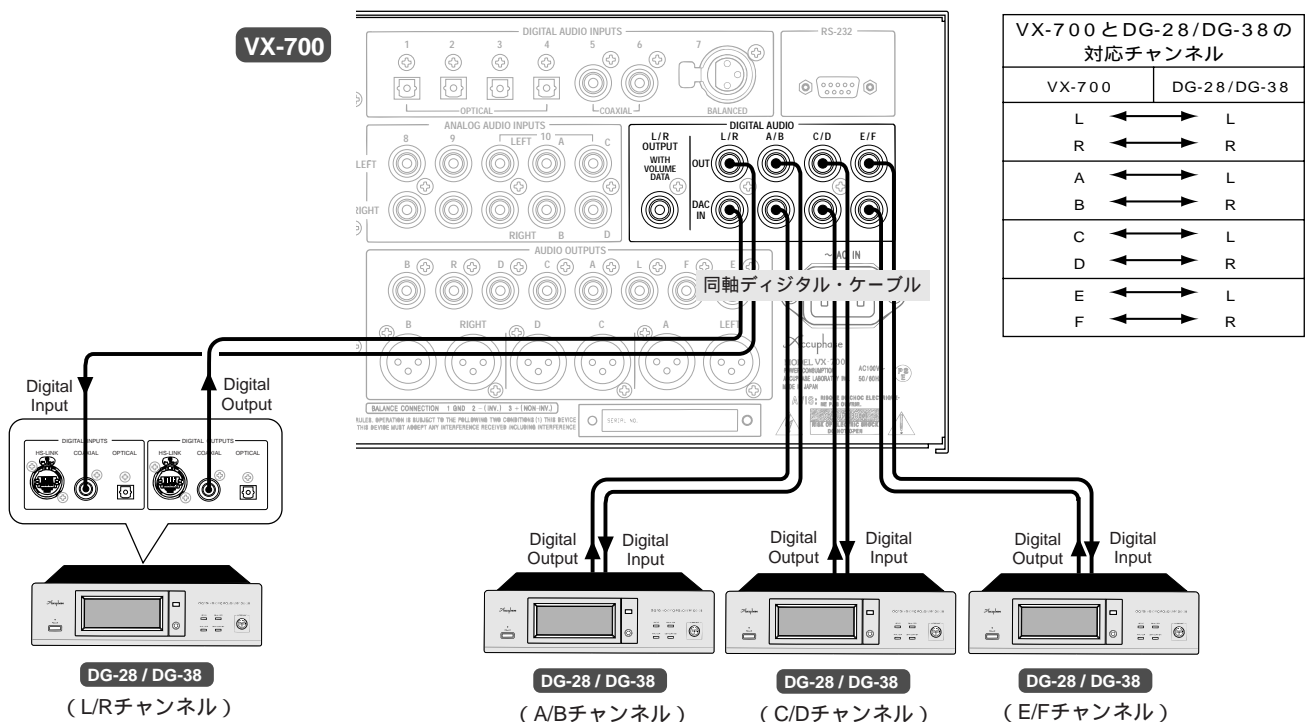
CONFIG モード : ●●▶ P45

音場補正 (調整) の方法 ●●▶ P73

DG-28/DG-38 音場補正用テスト・トーンの出力方法

AUDIO 設定モード : メニュー

から《DIGITAL EQ SETUP》ポジションにする。 ●●▶ P37



外部DACを接続したサラウンド演奏

2チャンネルずつ希望のチャンネルに外部DAC(最大4台)を接続して演奏することができます。DACを接続しないチャンネルには、DG-28/DG-38を接続して音場補正することができます。

接続する外部機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

外部機器と接続する場合

*メニューの設定変更

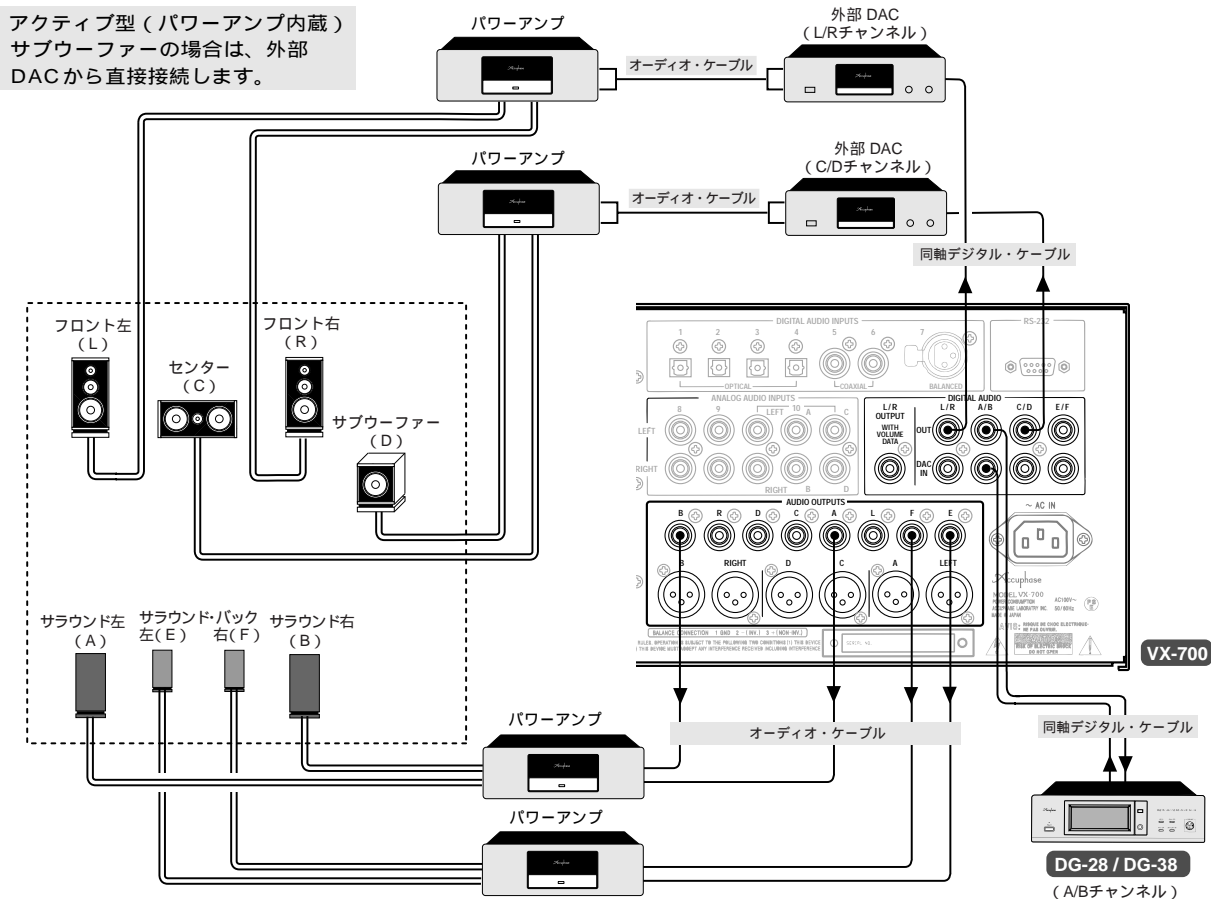
DIGITAL AUDIOの希望するチャンネル(端子)に、外部DACを接続するように設定をする。初期設定は、全てのチャンネル《NO CONNECTION:接続しない》●●▶ P73

AUDIO ⇄ EXT DAI ⇄ 希望のチャンネル(スピーカー) ⇄ EXT D/A

DG-28/DG-38を接続する場合には、●●▶ P73

接続例

フロント(L/R)、センター(C)、サブウーファー(D)チャンネルに外部DACを接続
サラウンド(A/B)チャンネルに、DG-28/DG-38を接続して音場補正



⚠ 注意

DIGITAL AUDIO端子に外部DACを接続する場合、必ず『外部DAC接続に設定』した後に配線してください。
AUDIOモードで変更 ●●▶ P73

EXT DAI ⇄ 外部DAC接続チャンネル ⇄ EXT D/A

*設定中は音声を出力しないでください。

*《NO CONNECTION》(初期設定)のまま接続すると、フルレベル信号がDIGITAL AUDIO端子から出力され、スピーカーを破損する場合があります。

*この『外部DAC接続に設定』は、オーディオ・メモリー全て(AUDIO MEMORY1~7)に設定してください。
AUDIOモードでデータのコピー ●●▶ P55

パワーアンプ、スピーカーの接続例

VX-700 ⇨ パワーアンプ (PX-600 など) ⇨ スピーカー の接続例です。

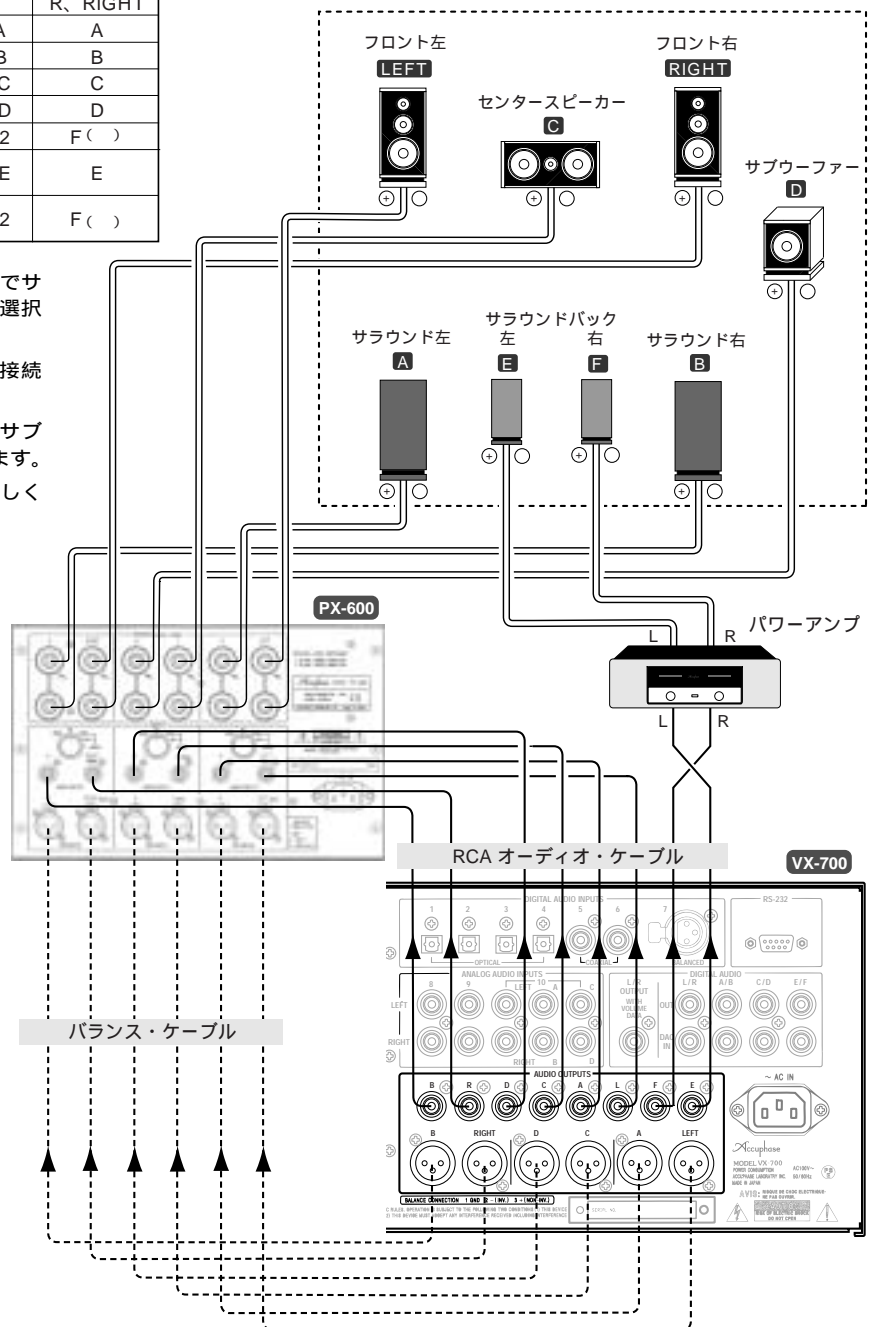
VX-700 は、アンバランスで最大 8 チャンネルの出力 (バランスは 6 チャンネル) を装備していますから、8 チャンネルのスピーカーを接続したサラウンドを楽しむことができます。

接続する機器によって、チャンネル端子表示名が異なります。各取扱説明書を参照してください。

入・出力機器やスピーカーのチャンネルと略名など	VX-700のチャンネル	VX-700のディスプレイ表示例	VX-700, PX-600の端子名称
フロント左チャンネル	L	LEFT	L、LEFT
フロント右チャンネル	R	RIGHT	R、RIGHT
サラウンド(リア)左チャンネル	SL	SR-L A	A
サラウンド(リア)右チャンネル	SR	SR-R B	B
フロント・センターチャンネル	C	CENT C	C
サブウーファー-1	SW, LFE	SubW D	D
サブウーファー-2	SW, LFE	SubW 2	F ()
サラウンドバック(リア・センター)左チャンネル	SBL	SRBK E	E
サラウンドバック(リア・センター)右チャンネル	SBR	SRBK 2	F ()

VX-700 と PX-600 の接続は、同じ名称のチャンネルどうしを正しく接続してください。

接続のしかた



出力の“F”チャンネルは、《スピーカー設定》でサブウーファーchか、サラウンド・バックchかを選択することができます。

・図は [F: サラウンド・バック ch] に設定した接続例です。

・ [F: サブウーファー ch] に設定した場合は、サブウーファー 2 本 (D, Fチャンネル) 使用となります。

* 各チャンネルのスピーカーの極性 (+, -) を正しく接続してください。

サブウーファーの接続

* 接続図のサブウーファーは、アンプを内蔵していない (パッシブ型) スピーカーの例です。

* パワーアンプ内蔵 (アクティブ型) サブウーファーを使用する場合は、VX-700 の “ D ” 出力端子とサブウーファーの入力端子をプラグ付オーディオケーブル (またはバランス・ケーブル) で直接接続してください。

* バランス用とアンバランス用ケーブルは、同一機器に同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

* オーディオケーブルはシールド線 (バランス用は 2 芯シールド) を使用してください。

設定の前に演奏してみましょう

(初期設定のままで簡単に演奏)

通常は入・出力機器やスピーカーを接続した後、サラウンド演奏を楽しむためには種々の設定が必要になります。VX-700はこの煩わしい設定を省略して、メニュー構造の中での初期（出荷時）設定のまま、簡単に演奏を楽しむことができます。

オーディオ・メモリーの初期設定は“2CH SYSTEM”がプリセットされています

購入後、設定を変更していない状態での演奏となります。

オーディオ設定を変更した場合は、メモリーを初期設定《2CH SYSTEM》に戻せば同様の演奏となります。(●●▶ P55)

設定を変更した場合、全ての設定を初期（出荷時）設定に戻すことができます。(●●▶ P59)

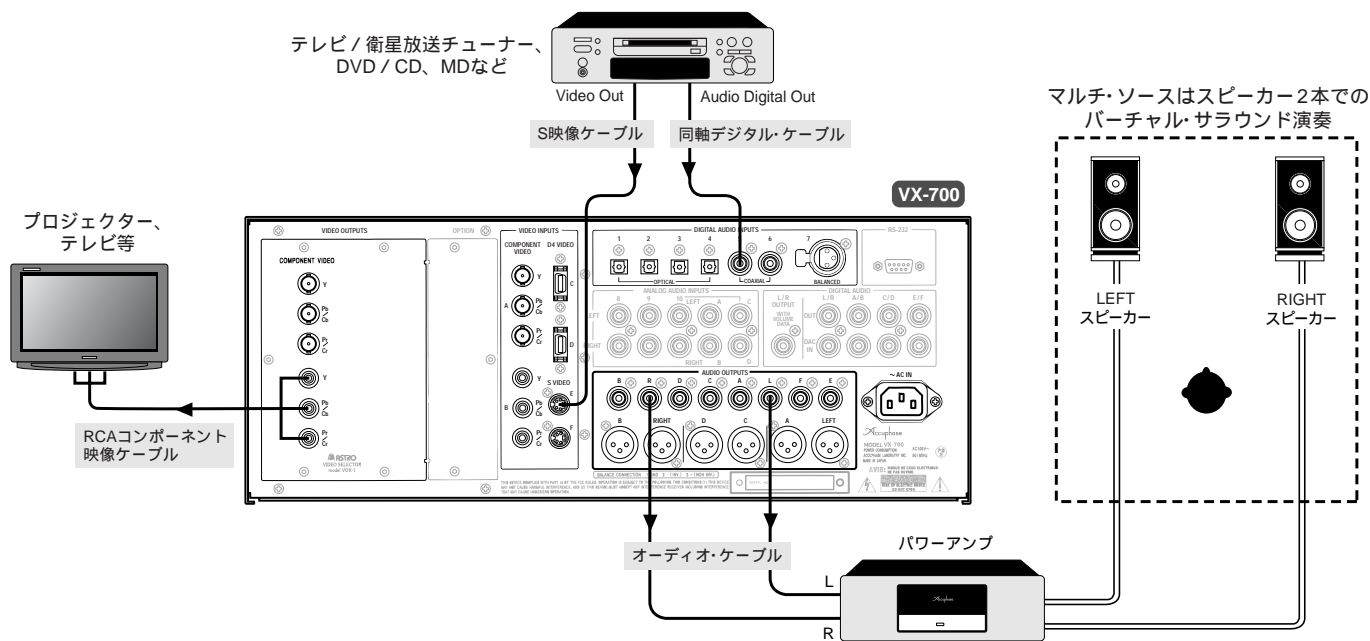
初期（出荷時）設定内容は『メニュー構造一覧表』を参照してください。(●●▶ P22 ~ 25)

2chシステムでの簡単なサラウンド演奏

スピーカーがフロントL/Rのシステムの場合、入力機器からオーディオとビデオ入力を接続、ビデオ出力からテレビ等を接続すれば、VX-700のセットアップをしなくても初期（出荷時）設定での演奏ができます。

接続例

オーディオ入力： デジタルは1～7番
アナログは8～10番 } 入力セレクターで選択
ビデオ入力： Sビデオ端子（E）...初期設定で割り当てられている
(ビデオ入力を変更する場合は ●●▶P42)



演奏の手順

- 1 入力セレクターでオーディオ入力を選択
- 2 ビデオ入力は“E”（S端子）が初期設定で割り当てられています。
- 3 Sビデオ端子（“E”）の入力信号方式（NTSCまたはPAL）を設定
●●▶ P47
- 4 ボリュームを上げると演奏が始まる



* エフェクト・モードの初期設定は、『TruSurround』（トゥルーサラウンド）です。 ●●▶ P88 参照

アナログ2chやリニアPCM 2ch信号の場合 ... 自動的に通常のステレオ演奏

アナログ6ch（48 kHz）やドルビー・デジタル、DTSなど2.1ch以上のマルチch信号の場合 ...

『TruSurround』によるフロント・スピーカー2本でのバーチャル・サラウンド演奏

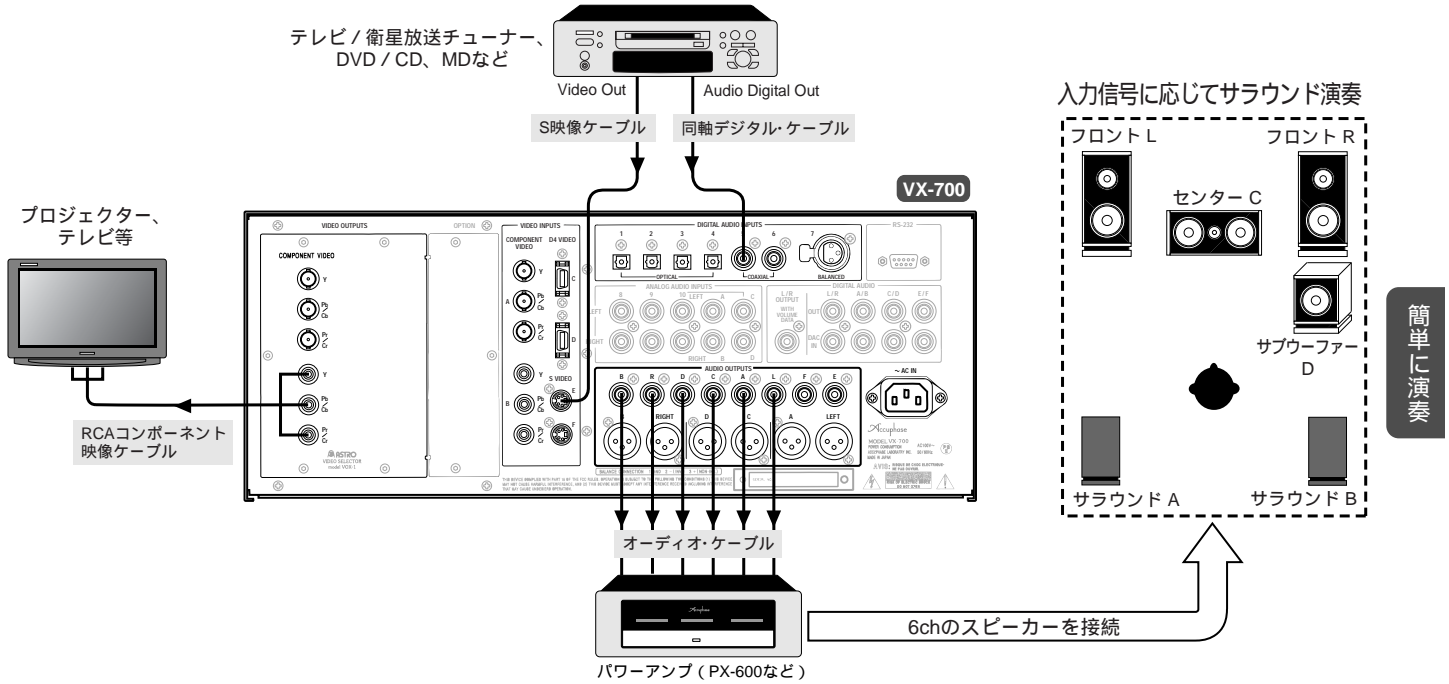
(表示例) `COAXIAL 5 MEMORY1 LEVEL: 50.0`
`DOLBY DIGITAL 5.1CH SRS TruSurround`

5.1chシステムでの基本的なサラウンド演奏

5.1chシステム用にスピーカーを接続している場合でも、設定を少し変更する（プリセットされている“5.1CH SYSTEM”を呼び出す）だけで、2chシステムと同じ様に演奏ができます。

接続例

2chシステム（●●▶ P20）の接続から、5.1chシステム用にパワーアンプとスピーカーの接続を変更します。



VX-700の設定変更

・詳しくはP53, 54 参照

AUDIO ボタンを1秒以上押す

『AUDIO SETUP』モードに変わる

MENU1で『LOAD AUDIO MEMORY』を選択

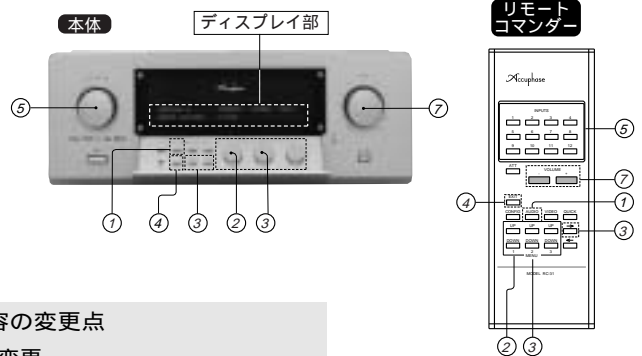
MENU2で『5.1CH SYSTEM』を選択して、**→** ボタンを押す

EXIT ボタンを押す。『SAVE』画面で『MEMORY 1』に保存して、演奏ディスプレイに戻る

『2CH SYSTEM』から『5.1CH SYSTEM』への設定内容の変更点

エフェクト・モード：『TruSurround』から『DIRECT』に変更

スピーカー設定：2chシステム（フロントL/R）から5.1chシステム（フロントL/R、サラウンドL/R、センター、サブウーファー）に変更



演奏の手順

入力セレクターでオーディオ入力を選択

ビデオ入力は“E”（S端子）が初期設定で割り当てられている。（変更する場合は●●▶ P42）

Sビデオ端子（“E”）の入力信号方式（NTSCまたはPAL）を設定 ●●▶ P47

ボリュームを上げると演奏が始まる

*エフェクト・モードは『DIRECT』（ダイレクト）設定になり、

アナログ2chやリニアPCM信号の場合 ... 通常のステレオ演奏

アナログ6ch（48kHz）やドルビー・デジタル、DTSなど2.1ch以上のマルチch信号の場合 ...

入力信号に応じたサラウンド演奏

（表示例）

```
COAXIAL 5      MEMORY1  LEVEL: 50.0
DOLBY DIGITAL  5.1CH
```

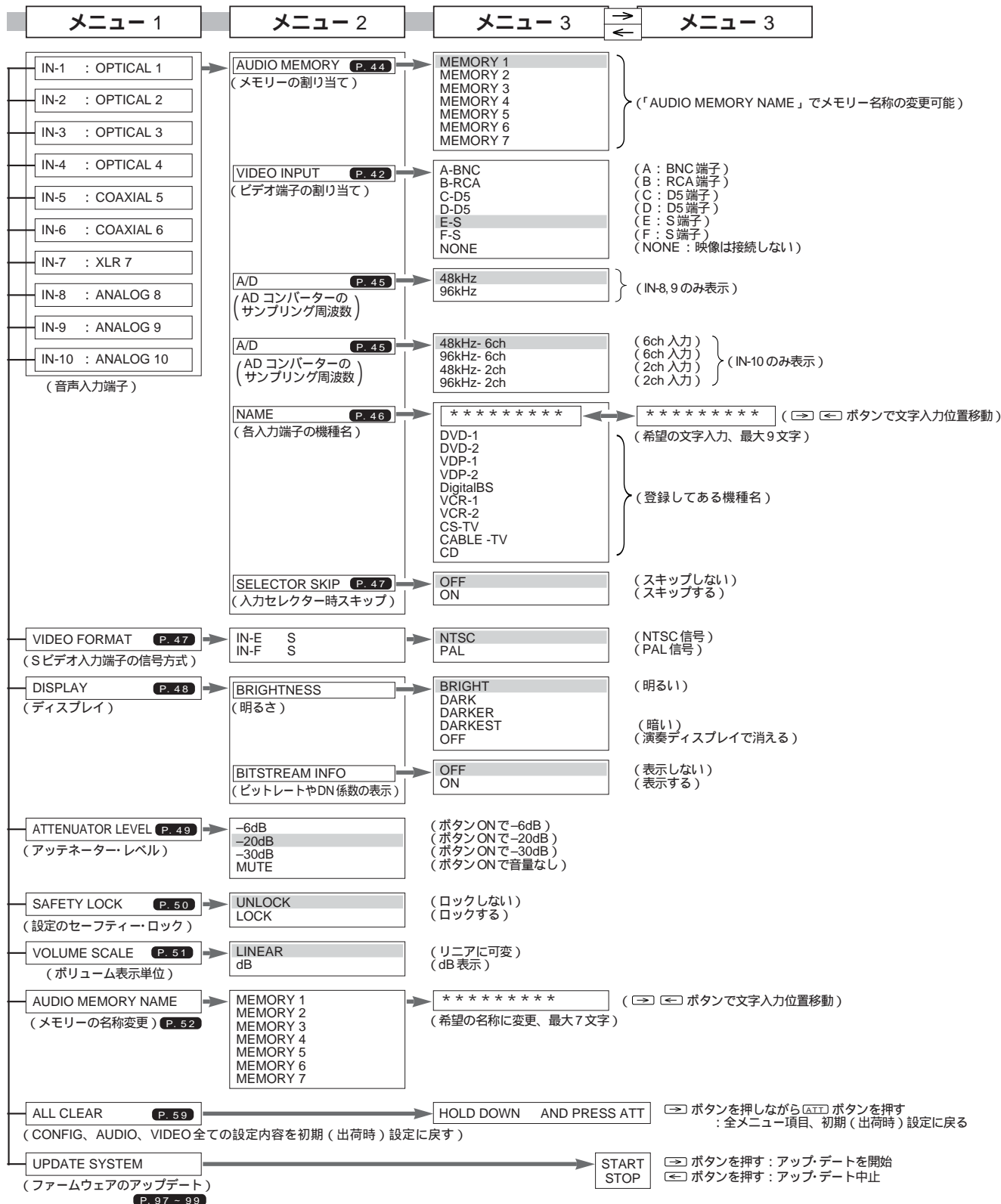
メニュー構造

* この表の文字は、実際のディスプレイ文字とは異なります。
 * 詳しい説明は各項目のページを参照してください。
 * 初期（出荷時）設定は■（アミ掛）内、または《 》内に表示。

《設定モードの解除は [EXIT] ボタンを押す ●●▶ P.28 》

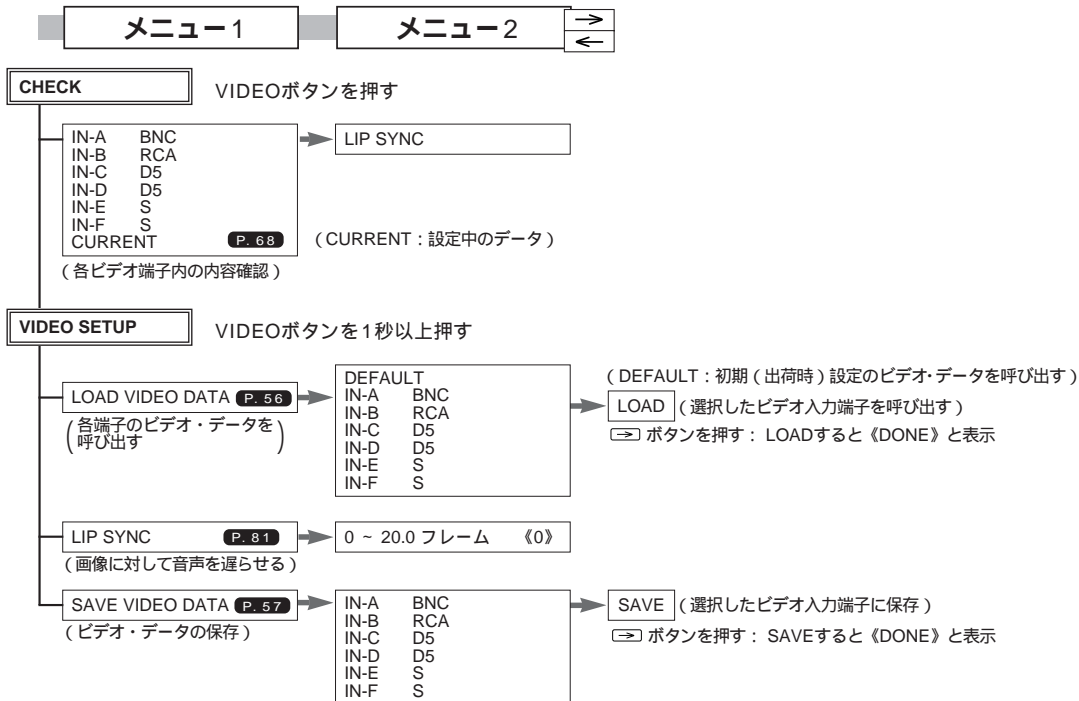
CONFIG モード

CONFIG ボタンを 1 秒以上押す
 変更した設定は自動的に記憶・保存されます。



VIDEOモード

変更した設定は「SAVE」で保存することができます。



メニュー構造

QUICKモード

QUICKボタンを押す
変更した設定は演奏中のみ有効です。記憶・保存はできません。



AUDIO モード

変更した設定は「SAVE」で保存することができます。

メニュー 1

メニュー 2

メニュー 3

メニュー 3

CHECK

AUDIO ボタンを押す

CURRENT
MEMORY 1
MEMORY 2
MEMORY 3
MEMORY 4
MEMORY 5
MEMORY 6
MEMORY 7

P. 65 - 67

(各メモリー内の内容確認
CURRENT : 設定中のメモリー)

EFFECT MODE
BILINGUAL MODE
EXT DAI
SPEAKER CONFIG
SRBK SIGNAL
SPEAKER LEVEL
SPEAKER DELAY
CENTER MANAGEMENT
LFE/SubW MANAGEMENT
DYNAMIC RANGE
IN-10 BALANCE
EQUALIZER

(エフェクト・モード)
(バイリンガル・モード)
(外部機器の接続)
(スピーカー設定)
(サラウンド・バック信号)
(スピーカー・レベル)
(スピーカー・ディレイ)
(センター調整)
(LFEレベルとサブウーファアのピークレベル)
(ダイナミック・レンジ)
(アナログ10番端子の入力レベル・バランス)
(イコライザー特性)

AUDIO SETUP

AUDIO ボタンを 1 秒以上押す

LOAD AUDIO MEMORY

(メモリー内のオーディオ・データ
呼び出し P. 53)

2CH SYSTEM
5.1CH SYSTEM
MEMORY1: MEMORY1
MEMORY2: MEMORY2
MEMORY3: MEMORY3
MEMORY4: MEMORY4
MEMORY5: MEMORY5
MEMORY6: MEMORY6
MEMORY7: MEMORY7

(2CH SYSTEM : 初期(出荷時)設定のオーディオ・データを呼び出す)
(5.1CH SYSTEM : 5.1chシステムでの簡単な演奏データを呼び出す)

LOAD

(選択したメモリー内のデータを呼び出す)

[⇒] ボタンを押す : LOAD すると《DONE》と表示が変わる。

EFFECT MODE P. 61, 62

(エフェクト・モードの設定)

DIRECT
DOLBY PL MUSIC
DOLBY PRO LOGIC
DTS NEO:6 CINEMA
DTS NEO:6 MUSIC
SRS CS CINEMA
SRS CS MUSIC
SRS CS MONO
SRS TruSurround

(DIRECT : 入力したフォーマットをそのまま演奏)

CENTER WIDTH

0 ~ 7

《0》

DIMENSION

0 ~ 6

《3》

PANORAMA MODE

OFF
ON

《DOLBY PL MUSIC》
のパラメーターは「メニュー2」と「メニュー3」
で操作

(SRS TruSurround : 5.1ch 2chのバーチャル・サラウンド)

BILINGUAL MODE P. 72

(バイリンガル・モード)

MAIN / MAIN
SUB / SUB
MAIN / SUB

(L/Rとも主音声)
(L/Rとも副音声)
(L主音声/R副音声)

EXT DAI P. 73

(外部機器接続)

L/R (フロント)
A/B (サラウンド)
C/D (センター/サブウーファア)
E/F (サラウンドバック/F端子)

NO CONNECTION
EXT D/A
EXT DSP: INT CLK
EXT DSP: EXT CLK

YES

(接続しない)
(外部のDACを使用)
(DG-28/DG-38を接続 : 内部クロック)
(DG-28/DG-38を接続 : 外部クロック)

[⇒] ボタンを押す。確定すると《DONE》と表示が変わる。]

SPEAKER CONFIG

(スピーカー設定) P. 30 - 32

FRONT
(フロントL/R)

LARGE
SMALL

[⇒] ボタン
[⇐] ボタン で「FREQ」と「SLOPE」の切替

LOW CUT FREQ → PASS, 10 ~ 355 Hz 《100 Hz》
LOW CUT SLOPE → 12/18/24/48dB 《48dB》

SR A/B
(サラウンドA/B)

NONE
LARGE
SMALL

(接続しない)

LOW CUT FREQ → PASS, 10 ~ 355 Hz 《100 Hz》
LOW CUT SLOPE → 12/18/24/48dB 《48dB》

CENT C
(センターC)

NONE
LARGE
SMALL

(接続しない)

LOW CUT FREQ → PASS, 10 ~ 355 Hz 《100 Hz》
LOW CUT SLOPE → 12/18/24/48dB 《48dB》

SubW D
(サブウーファアD)

NONE
SubW ONLY
SubW + FRONT

(接続しない)

HIGH CUT FREQ → 10 ~ 355 Hz, PASS 《PASS》
HIGH CUT SLOPE → 12/18/24/48dB 《48dB》

(サラウンドA/Bが《NONE》
の場合は表示なし)

SRBK E
(サラウンド・バックE)

NONE
LARGE
SMALL

(接続しない)

LOW CUT FREQ → PASS, 10 ~ 355 Hz 《100 Hz》
LOW CUT SLOPE → 12/18/24/48dB 《48dB》

(サブウーファアD、サラウンド・
バックEが《NONE》の
場合は表示なし)

ASSIGN F
(Fチャンネルの設定)

NONE
SubW 2
SRBK 2

(接続しない)

(サブウーファア2を接続)
(サラウンド・バック2を接続)

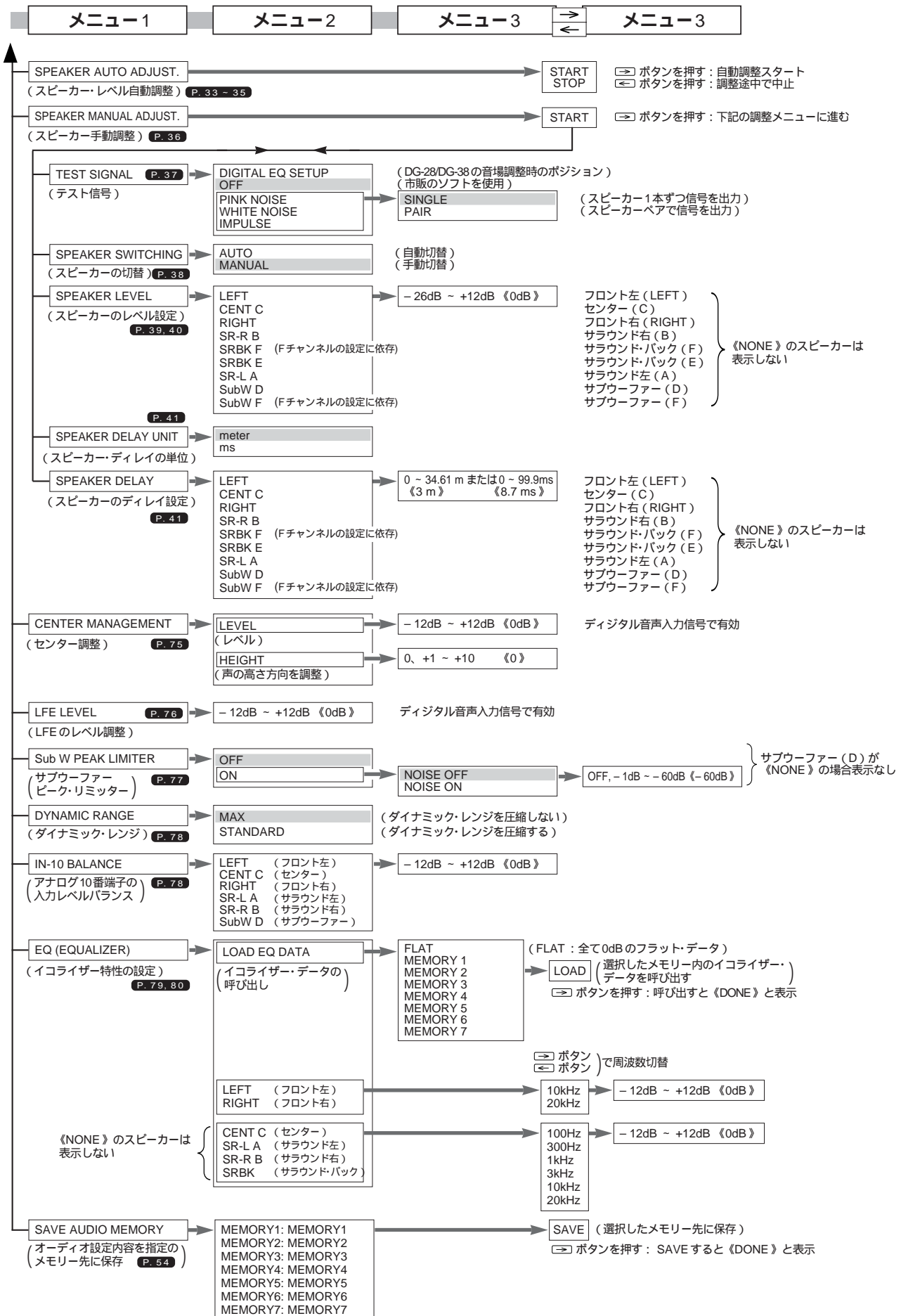
SRBK SIGNAL P. 74

(サラウンド・バック信号の再生方法)

AUTO DETECT
ON
OFF

(入力フォーマットに準じた再生)
(5.1ch入力でも6.1ch再生)
(サラウンド・バック信号を再生しない)

サラウンド・バック(E)が
《NONE》の場合表示なし



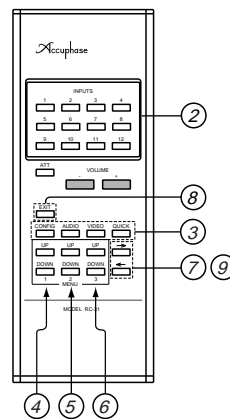
メニュー構造

システムのセットアップ方法

接続終了後は、「SET UP」ボタンを押して対話形式で本機の設定を行います。設定状況は、本機のディスプレイ上に項目や数値が表示されますので、メニュー構造一覧表を参照しながら、必要な項目を選択して設定して行きます。メニュー構造は階層式になっています。MENU 1 MENU 2 MENU 3 と進み、さらに深い階層にある項目は → ボタンまたは ← ボタンを押してMENU 3で設定します。

- *メニュー構造一覧表は22～25ページ参照
- *本体、リモート・コマンダーどちらでも設定できます。

リモート・コマンダー

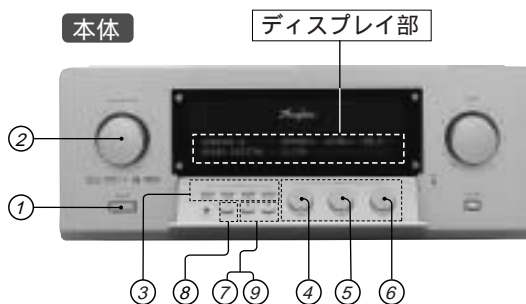


UP : 本体ロータリーノブ右回り
DOWN : 本体ロータリーノブ左回り

設定順序

1 本機の電源を入れる

2 入力端子を選択 (QUICK以外は任意)



3 「SET UP」ボタンの中から、1つのモードを選択して押す

CONFIGボタン : 1秒以上押す
AUDIOボタン : 押して「CHECK」、1秒以上押すと「AUDIO SETUP」
VIDEOボタン : 押して「CHECK」、1秒以上押すと「VIDEO SETUP」
QUICKボタン : 押す

4 メニュー1 大項目を選択

5 メニュー2 中項目を選択

6 メニュー3 小項目を選択

7 → : 階層進む
← : 階層戻る

(LEDが点灯しているボタンが有効)

AUDIOおよびVIDEOモードから他のモードへ移動する場合、のSAVE画面が表示されます。

8 設定モード解除

CONFIGモード AUDIOモード VIDEOモード QUICKモード

AUDIOおよびVIDEOモードは、それぞれのメニュー内でSAVE(保存)することもできます。そこで保存した場合、をジャンプしての演奏ディスプレイに戻ります。

9 → : 設定を保存
← : 設定を保存しない

自動保存 保存しない

10 通常の演奏ディスプレイに戻る

設定時のディスプレイ表示例

電源ON時：演奏ディスプレイ表示

```
OPTICAL-1      MEMORY1  LEVEL: MINIMUM
NO SIGNAL
```

入力信号なし

* 演奏中も「設定モード」にして設定を変更することができます。

** NO SIGNAL”はDVDソフトによっては頻繁に表示されることがあります。

QUICK モードの設定は、入力セレクターで演奏機種(入力端子)を選択。他のモードは任意の入力ポジションで設定できます。

「SET UP」の各ボタンを押すと、ディスプレイは各モードの設定画面になります。

CONFIGモード：1秒以上押す

```
[CONFIG]
1IN-1  2OPTICAL 1 3AUDIO MEMORY 4MEMORY1
```

AUDIOモード：押して「CHECK」、1秒以上押すと「SETUP」

```
[AUDIO SETUP]
1EFFECT MODE  2SRS TruSurround
```

VIDEOモード：押して「CHECK」、1秒以上押すと「SETUP」

```
[VIDEO SETUP]
1LIP SYNC  2 0.0 FRAME
```

QUICKモード：押す

```
[QUICK]
1CHANGE AUDIO MEMORY  2MEMORY1
```

MENU1で、大項目を選択

例：AUDIOモードの《SPEAKER CONFIG》設定を行う

```
1SPEAKER CONFIG  2FRONT  3LARGE
```

大項目（小文字の“1”表示）

MENU2で、中項目を選択

例：《SR A/B：サラウンド・スピーカー》の設定を行う

```
1SPEAKER CONFIG  2SR A/B  3LARGE
```

中項目（小文字の“2”表示）

MENU3で、小項目を選択

例：サラウンドは《SMALL》に設定する

さらに細かなメニューがある場合は を表示、また本体

→ ボタンのLED が点灯

```
1SPEAKER CONFIG  2SR A/B  3SMALL
```

小項目（小文字の“3”表示）

→ ボタンを押す

* 途中で他の項目に移動する場合は、MENU 2またはMENU 1を回す。ただし、それまでの設定は確定となりますから注意してください。

→ ボタンを押して階層を進める

例：MENU3で、“3”表示の項目《LOW CUT》低域カット周波数を100Hzに設定

```
← 1LOW CUT: 100Hz → 2SLOPE: -18dB/oct
```

← ボタンを押すと画面に戻る

→ ボタンを押すと《SLOPE》設定に進む

→ ボタンを押してさらに階層を進める

例：MENU3で、“3”表示の項目《SLOPE》スロープを-18dBに設定

```
LOW CUT: 100Hz ← 1SLOPE: -18dB/oct
```

← ボタンを押すと、再び《LOW CUT》設定画面に戻る

* 他のモードへ移動する場合は、希望するモードのボタンを押す。

CONFIGモードからは：今までの設定は自動的に記憶・保存して他の設定画面へ

AUDIOモードからは：に進む } ⇨ 他のモードへ

VIDEOモードからは：に進む } ⇨ 他のモードへ

QUICKモードからは：今までの設定は記憶・保存されないで他の設定画面へ

設定終了または途中で設定キャンセルする場合は [EXIT] ボタンを押す。

モードによって記憶・保存が異なります。

CONFIGモード：設定は全て自動的に記憶・保存

AUDIOモード：MENU 1で、記憶・保存するメモリー場所を選択

```
SAVE AS 1MEMORY2 *NO 2SAVE & EXIT
```

保存先のメモリー

← ボタン：設定内容を保存しない
→ ボタン：設定内容を保存する

VIDEOモード：MENU 1で、記憶・保存するビデオ端子を選択

```
SAVE AS 1IN-A *NO 2SAVE & EXIT
```

保存先のビデオ端子

← ボタン：設定内容を保存しない
→ ボタン：設定内容を保存する

QUICKモード：設定内容は保存されませんが、入力セレクターを切り替えるか電源スイッチを切るまで有効になります。

通常の演奏ディスプレイ表示 に戻る。

設定モードの解除 ... [EXIT] ボタンを押す

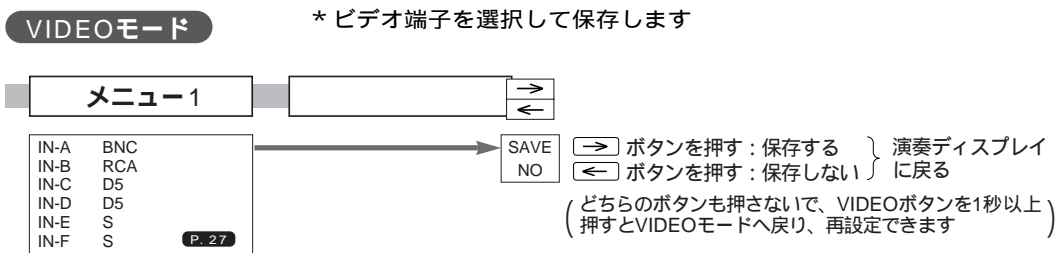
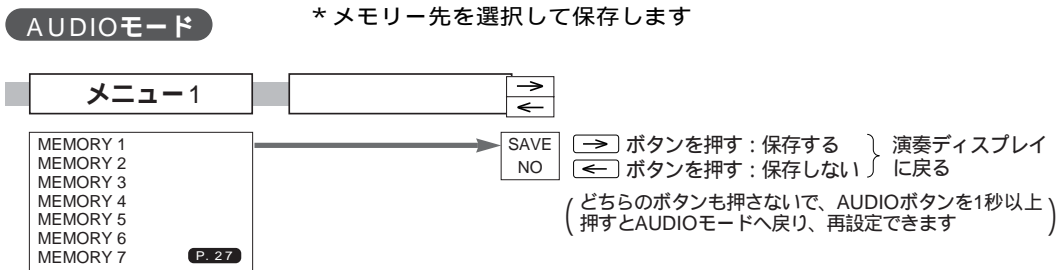
「CONFIG」, 「AUDIO」, 「VIDEO」, 「QUICK」の各設定モードから通常の演奏モードへ戻る場合は [EXIT] ボタンを押します。

1 AUDIOまたはVIDEOモードから [EXIT] ボタンを押す

設定変更している場合は、SAVE画面が表示され設定内容を保存できます。

各モード内のSAVE項目で保存してある場合、[EXIT] ボタンを押すと直接演奏モードに戻ります。

[EXIT] ボタンを押さないで他のモードへ移動する場合、設定変更があれば同様のSAVE画面が表示され、その後、他の設定モードへ移動します。



2 CONFIGモードから [EXIT] ボタンを押す

設定内容は全て自動保存され、[EXIT] ボタンを押すと直接演奏モードに戻ります。

3 QUICKモードから [EXIT] ボタンを押す

演奏モードに戻り、設定内容は入力セレクターを切り替えるか、電源スイッチを切るまで有効になります。

[EXIT] ボタンを押さないで、他の設定モードへ移動した場合、設定はキャンセルされます。

演奏前の必要な設定

VX-700は、オーディオ系と映像系それぞれの入力とその選択機能、およびボリューム調整機能を持つA/Vコントロール・センターです。VX-700が対応している各種音声サラウンド・フォーマットを使いこなし、最適なサラウンド演奏を楽しむためには、適切なスピーカー・セッティングと正しい機器の接続、演奏に適するVX-700の各種設定が重要になります。最初に、本機と他のAV機器やスピーカーを接続してから音と映像を出すまでに必要となる、基本的な『スピーカー関連の設定』と『音声入力に対するビデオ端子の割り当て』をします。

設定の前に

- 1 付属品を確認します。
- 2 付属リモート・コマンダーに電池を入れます。..... ●●▶ P 83
設定は、本体/リモート・コマンダーどちらでも可能
- 3 スピーカーの本数・配置を決めて設置します。
スピーカー・セッティングは ●●▶ P 8 ~ 11
- 4 「接続のしかた」に従って、本機と他のAV機器、スピーカーと
を接続します。 ●●▶ P 12 ~ 19

基本設定

メニュー構造を参照して次の項目をセットアップします。

スピーカー関連の設定結果（ ~ ）は、基本的に7パターンのメモリーそれぞれに必要となります。設定した内容は、いったん〔メモリー：MEMORY1〕に保存してください。必要に応じて、MEMORY1のデータを呼び出し、その内容を他のメモリーにコピーしてください。

各メモリーの初期(工場出荷)設定は、名称は異なりますが内容は7パターン全て同一になっています。

- スピーカー設定 (AUDIOモード) ●●▶ P 30 ~ 32
- スピーカーの自動レベル調整 (AUDIOモード) ●●▶ P 33 ~ 35
- スピーカーの手動調整 (AUDIOモード) ●●▶ P 36 ~ 41
- 音声入力に対するビデオ端子の割り当て (CONFIGモード：自動保存) ... ●●▶ P 42
- * メニュー構造一覧 ●●▶ P 22 ~ 25
- * システムのセットアップ方法 ●●▶ P 26 ~ 28
- * 設定モードの解除 ●●▶ P 28
- * メモリーの呼び出しと保存方法 ●●▶ P 53, 54
- * メモリー間のコピー方法 ●●▶ P 55

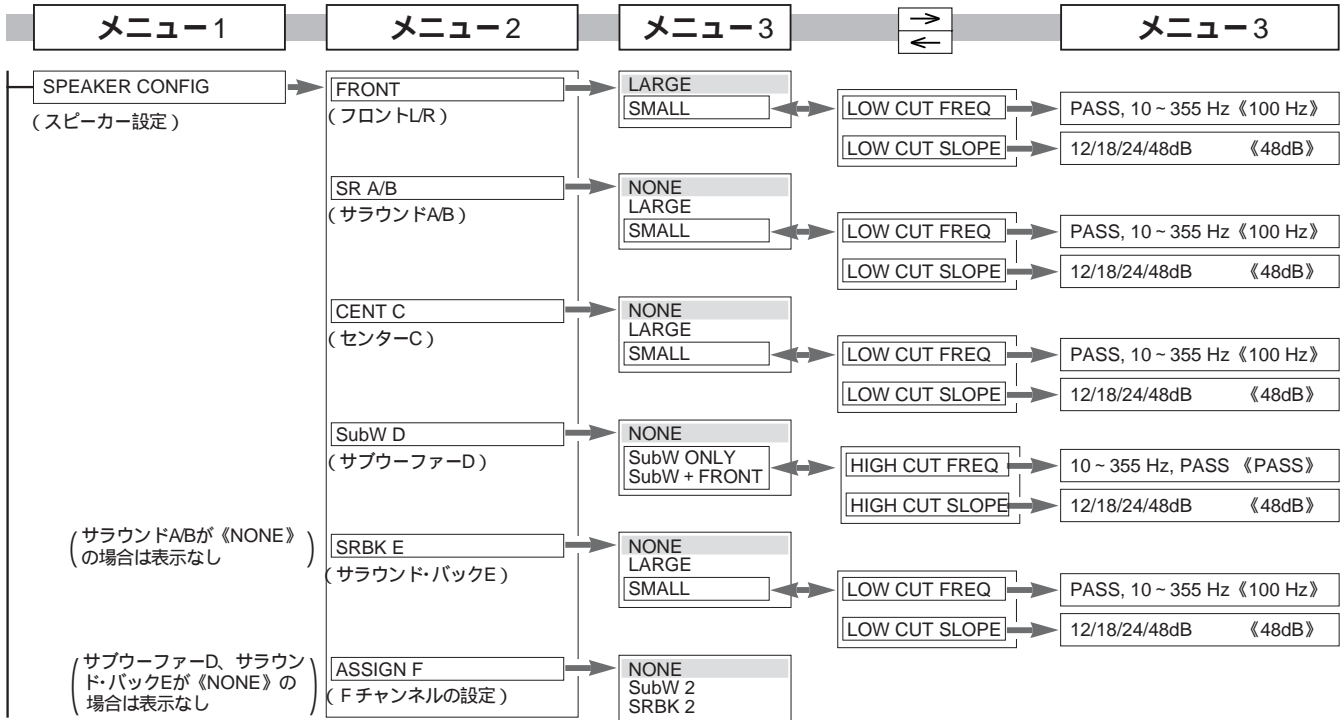
スピーカー設定 ・ SPEAKER CONFIG

スピーカーの種類、有・無、形状(ラージ/スモール)、スモールの場合の低域カット周波数、スロープなどを設定します。また、サブウーファー信号の出力方法、「F」チャンネルの出力設定も行います。

この設定は、ソースに含まれている音声成分の全てを再生する基本設定です。ここでの設定が正しく行われないと、あるチャンネルの音声再生がなかったり、低域周波数成分が欠落する等、最適なサウンド再生ができない場合がありますので正しく設定してください。

初期(出荷時)設定：FRONT L/R《LARGE》、他のスピーカー《NONE》：接続しない

* 設定後、お好みに合わない場合には実際の演奏を楽しみながら設定を変更してください。



AUDIO ボタンを1秒以上押す
画面はAUDIO設定モードに変わる

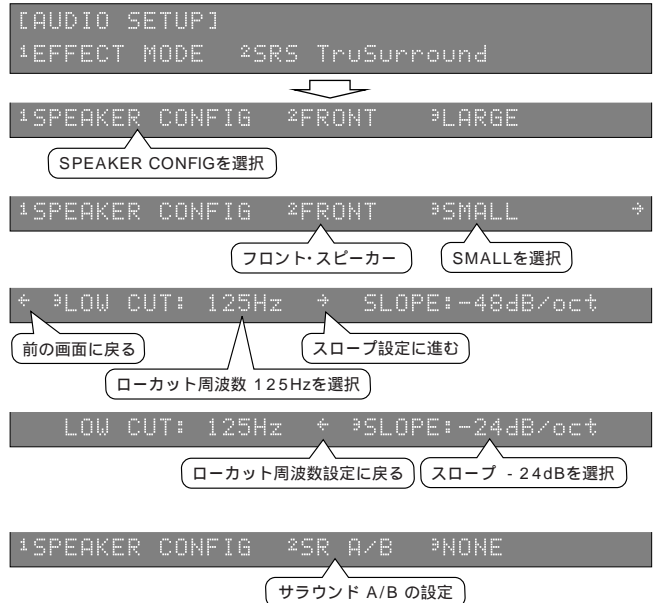
- MENU 1で 『SPEAKER CONFIG』を選択
- MENU 2で 各スピーカーを選択
- MENU 3で スピーカーの有・無、大きさを選択

SMALLを選択した場合

- ⑤a → ボタン押し、MENU 3で
《LOW CUT》：ローカット周波数を選択
- ⑤b → ボタン押し、MENU 3で
《SLOPE》：スロープを選択
(← ボタンを押すと⑤aに戻り、ローカット周波数を再設定)

MENU 2で次のスピーカー選択

* 同様に **A/B** **C** **D** **E** スピーカーの設定と
[Fチャンネルの設定]を行なう。



NONE

スピーカーを設置していないとき。また、接続してあっても《NONE》設定では音は出ません。

注意 : フロントを《SMALL》、サラウンドを《SMALL》または《NONE》に設定すると、《NONE》に設定されたサブウーファーは、自動的に《SubW ONLY》設定に変更されます。

《NONE》に設定されたチャンネルの音声
 センターが《NONE》に設定されていると、センターch成分をフロントL/Rに振り分けて(ファンタム再生)演奏します。フロントとサラウンドがLARGE設定の場合、サブウーファーが《NONE》に設定されていると、LFE信号はフロントとサラウンドに振り分けられます。サラウンドも無いときは、フロントに振り分けられます。
 サラウンド・バックを《NONE》に設定すると、サラウンド・バックch成分は自動的にサラウンドL/Rに振り分けられます。サラウンドも無いときは、フロントに振り分けられます。サラウンドA/Bが《NONE》に設定されると、サラウンド・バック(E)も自動的に《NONE》に設定されます。

LOW CUT FREQ (低域のカットオフ周波数)

SMALLに設定した場合、そのスピーカーからの低音域を何Hz以下でカットするかを設定します。各スピーカーの再生能力に応じて設定してください。

- 設定可能な周波数 :**
 PASS, 10, 20, 31.5, 35.5, 40, 45, 50, 56, 63, 71, 80, 90, 100, 112, 125, 140, 160, 180, 200, 224, 250, 280, 290, 315, 355Hz
初期設定 : 100 Hz

LOW CUT SLOPE (減衰スロープ)

低域のカットオフ周波数に対して、どの位のスロープで減衰させるかを設定します。
設定可能なスロープ : 12/18/24/48dB/オクターブ
初期設定 : 48 dB

LARGE (ラージ)

大型のスピーカー。
 目安として、ウーファーの口径が16cm以上で、100Hz以下の低音を十分な音量で再生できるもの。

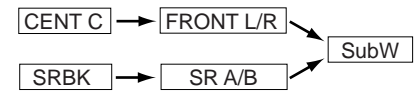
SMALL (スモール)

小形のスピーカー。
 目安として、ウーファーの口径が16cm以下で、100Hz以下の低音を十分な音量で再生できないもの。

注意 : Large/Smallの選択は低域の再生能力で判断しますが、最終的には実際の再生音で選択してください。ただし、小さなスピーカーをLargeに設定した場合、重低音が入ってスピーカーを壊さないように注意してください。

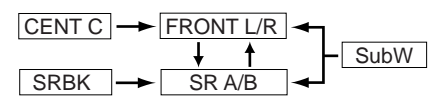
《LOW CUTされた低域信号の流れ》
 各チャンネルの信号は矢印のように振り分けられます。

① SubW (サブウーファー) がある場合



フロントまたはサラウンドがSMALL設定の場合はサブウーファーに振り分けられる。

② SubW (サブウーファー) がない場合

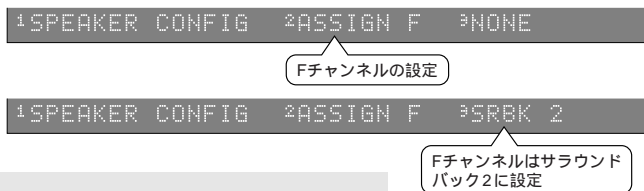


サブウーファー信号はフロントとサラウンドに振り分けられ、さらに、どちらかがSMALL設定の場合は、LARGE設定のスピーカーに振り分けられる。

注意 : フロント、サラウンドの両スピーカー共SMALL設定の場合は、サブウーファー信号の振り分けはできません。

ASSIGN F・Fチャンネルの出力設定、(D/Eチャンネル共《NONE》の場合は表示しません)

- MENU 2で 「ASSIGN F」を選択
 MENU 3で “F”チャンネル出力を設定



- 【NONE】 :**
 Fチャンネルにはスピーカーを接続しない
- 【SubW 2】 :**
- ・ Fチャンネルをサブウーファー出力にして、サブウーファー2本使用 (DとFチャンネル) に設定。
 - ・ サブウーファー(D)が《NONE》の場合表示しない。
 - ・ 出力内容はサブウーファー(D)の設定に準ずる
- 【SRBK 2】 :**
- ・ Fチャンネルをサラウンド・バック出力にしてサラウンド・バック2本使用 (EとFチャンネル) に設定
 - ・ サラウンド・バック(E)が《NONE》の場合表示しない。
 - ・ スピーカーの大きさはサラウンド・バック(E)の設定に準ずる

SubW D・サブウーファー：Dチャンネルの設定

MENU 2で 「SubW D」を選択

↑SPEAKER CONFIG *SubW D *NONE

サブウーファーDチャンネルの設定

MENU 3で サブウーファーの出力方法を選択

↑SPEAKER CONFIG *SubW D *SubW ONLY →

サブウーファー
出力方法

⇒ ボタンを押すと
「FREQ」と「SLOP」
の設定画面へ

【NONE】：

Dチャンネルにサブウーファー・スピーカーを接続しない

【SubW ONLY】：

Dチャンネルからサブウーファーchの信号を出力
さらに、SMALL 設定になっている他スピーカーの低域
成分を出力

【SubW + FRONT】：

Dチャンネルからサブウーファーchの信号を出力
さらに、フロントL/R からサブウーファー信号をミッ
クスして出力する

* 実際に演奏して、違和感が無く、量感のある低音域を
得られるモードを選択してください。

《NONE》以外は次のメニューに進む



ボタン押し、MENU 3で

《HIGH CUT》：ハイカット周波数を選択

← *HIGH CUT : 140Hz → SLOPE: -48dB/oct

前の画面
に戻る

ハイカット周波数
を設定

スロープ設定
に進む



ボタン押し、MENU 3で

《SLOPE》：スロープを選択



ボタンを押すと へ戻り、ハイカット周波数を再設定)

HIGH CUT : 140Hz ← *SLOPE: -48dB/oct

ハイカット周波数
設定に戻る

スロープを
設定

MENU 2で次のメニューに進む

HIGH CUT FREQ (高域のカットオフ周波数)

サブウーファーchの高音域の信号を何Hz 以上でカットす
るかを設定します。

設定可能な周波数：

10, 20, 31.5, 35.5, 40, 45, 50, 56, 63, 71,
80, 90, 100, 112, 125, 140, 160, 180,
200, 224, 250, 280, 290, 315, 355Hz,
PASS

初期設定：PASS

HIGH CUT SLOPE (減衰スロープ)

高域のカットオフ周波数に対して、どの位のスロープで減
衰させるかを設定します。

設定可能なスロープ：12/18/24/48dB/オクターブ

初期設定：48 dB

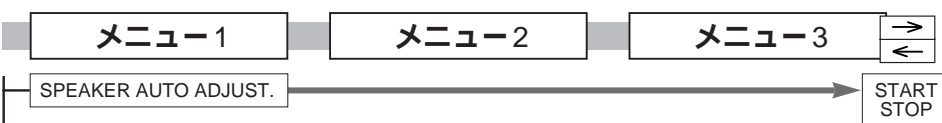
スピーカーの自動レベル調整・・SPEAKER AUTO ADJUST.

テスト・トーンの出力により自動測定を行ない、リスニング・ポジションで、各スピーカーからの音量レベルを一定に合わせます。サラウンドの場合、音の定位間や移動感を正確に再生するために重要な設定です。手動(聴感)でも設定できますが、本機は測定用マイクロフォンを付属していますので、自動調整による正確な設定が可能です。

手動で設定する場合は、《SPEAKER MANUAL ADJUST.》項目へ進みます。

次のメニューで設定変更している場合は、一旦初期設定《0dB》に戻し、レベル調整後再設定してください。

- 「CENTER MANAGEMENT」⇔「LEVEL」... ●●▶ P75
- 「LFE LEVEL」..... ●●▶ P76
- 「IN-10 BALANCE」..... ●●▶ P78
- 「EQ」..... ●●▶ P79, 80



注意

テスト・トーンの音量は本機のボリュームで調整します。最初、急に大きな音が出ないように注意してください。

[AUDIO] ボタンを1秒以上押す
画面はAUDIO設定モードに変わる

MENU 1で 『SPEAKER AUTO ADJUST.』を選択
➡ ボタンを押す 《START》自動調整スタート

調整中は《NOW ANALYZING...》と表示
⬅ ボタンを押す 《STOP》調整を途中で中止

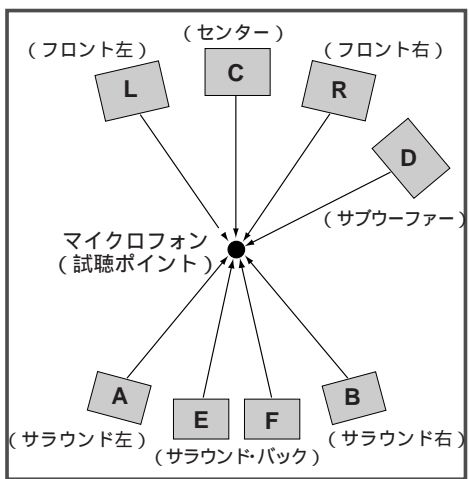
《SPEAKER AUTO ADJUST. COMPLETE》の表示で調整完了

➡ ボタンを押すと、各スピーカーからテスト・トーン(ノイズ音)が出力、これを3回繰り返します。
途中でエラー表示が出た場合は、不具合を修正後、手順 に戻り再スタートしてください。(●●▶ P35)
測定中にボリュームで音量を変えると、手順 に戻り、最初からスタートします。

調整完了後は、MENU 1で 次のメニューに進む

演奏前の必要な設定

スピーカーの設置と接続



- * 本機は、最大でスピーカー8本の設定が可能です。接続してあっても、《NONE》に設定されていると音がでませんので、スピーカー設定をもう一度確認してください。
- * 付属の測定用マイクロフォンを試聴ポイントの耳の高さに設置してVX-700に接続します。
- * マイクロフォンを設置していない場合は、自動測定をスタート後自動的に中止します。
- * 本機、パワーアンプ、スピーカーの接続を確認して、それぞれの電源を入れます。
- * アクティブ型サブウーファーを接続している場合は、その電源を入れボリュームを上げてください。ただし、急に大きな音が出ないように注意してください。

マイクロフォンの設置と接続

自動調整の場合は、付属のマイクロフォンを試聴ポイントに設置してVX-700に接続します。自動調整スタートを選択すると、スピーカーから本機内蔵のテスト・トーンが出力され、その音をマイクロフォンが拾い、各スピーカー・レベルを自動調整します。

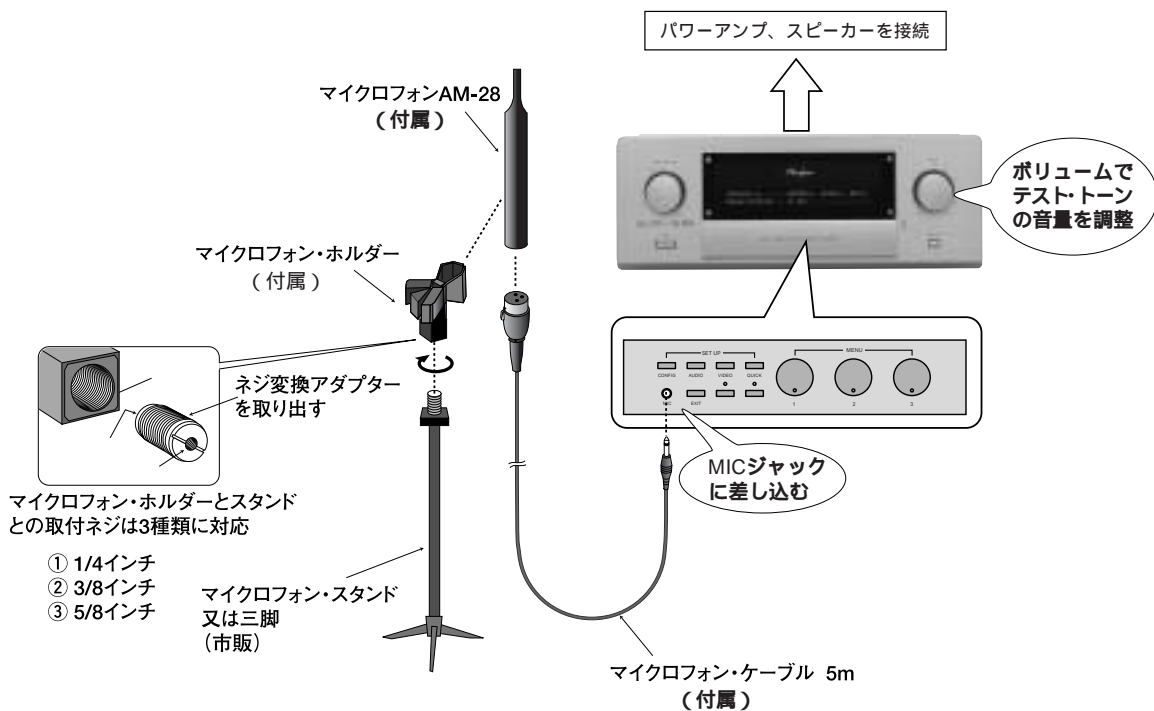
マイクロフォンを試聴ポイントの耳の高さに設置します。無指向性のマイクロフォンですから、マイクの向きは任意ですが、一般的には図のように上向きにしてください。

測定中は外部の雑音が入らないように静かにしてください。

特に、マイクロフォンの上にプロジェクターがあると、ファン・ノイズが大きいため測定できません。プロジェクターの電源は必ず切ってください。

各スピーカーと試聴ポイントとの間の障害物は取り除いてください。

測定中はリスニングポジションから離れて、各スピーカーの外側から音量等の操作をしてください。



注意

マイクロフォンは、必ず付属の『マイクロフォンAM-28』を使用してください。

マイクロフォンを耳の位置にする場合、市販品の三脚等を使用してください。

システムによって異なります

調整時間の合計 約 2 ~ 3分

(・テスト・トーンを各スピーカー3回繰り返す
(・テスト・トーンの長さや間隔は、チェックや調整過程によって異なる)

テスト・トーン開始

- 測定環境のチェック
- ・マイクの有無
- ・マイク感度 (テスト・トーンレベル)
- ・各スピーカーの有無
- ・暗騒音 (部屋のノイズ)

エラーメッセージを参照して修正後、再スタート

各スピーカーレベルのバランス補正

- ・各chのレベル測定
- ・各chのレベル・バランス補正

調整完了

- ・「SPEAKER LEVEL」メニューに記録 ●●▶ P39, 66

自動調整

エラーを修正後 START する (→) ボタンを押すと、音量ボリュームは“0”に戻っていますから、再度ボリュームを上げてください。

→ ボタンを押すと、最初にフロント左スピーカーからテスト・ノイズ音が出てマイクロフォンの有無をチェックします。このノイズ音が測定音量の基準となりますので、通常の演奏レベルになるように本機のボリュームで調整します。その後、順番にテスト・トーンが出力され、自動調整がスタートします。測定終了後、ボリュームは自動的に“0”になります。

テスト・トーンの出力量順序 ... フロント左から右回りで繰り返す

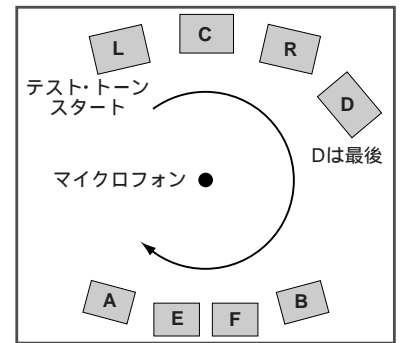
- * 《NONE》設定のスピーカーはスキップされ、テスト・トーンは出力しません。
- * サブウーファのノイズ再生音は、他のスピーカーより長く出力します。

① F端子がサラウンド・バック2の場合(右図)

L C R B F E A D
(サブウーファーDが一番最後になります。)

② F端子がサブウーファー2の場合

L C R B E A D F
(サブウーファーD, Fが最後になります。)



エラー・メッセージの表示例

測定完了まで、各スピーカーからのテスト・トーンが、3回繰り返し出力します。その間、測定エラーが生じた場合は、ディスプレイ上にエラー・メッセージを表示します。エラー・メッセージが表示したら、← ボタンを押して手順に戻り、不具合を修正後 → ボタンを押して再スタートします。

← CHECK MIC CONNECTION

← ADJUST NOISE LEVEL

例：《マイクと音量レベルのチェック》

マイクロフォンが設置されていない ⇨ マイクロフォンを設置する

フロント左スピーカーから音が出ない ⇨ アンプ、ケーブル等チェックする

暗騒音(部屋全体のノイズ)が大きく、最適な測定が不可能

⇨ ノイズ源をなくす。テスト・トーンを大きくする

テスト・トーンの音量が小さい場合は、自動的に音量が大きくなりますが、それでも音量が小さい

⇨ テスト・トーンを大きくする

← CENTER(C) SPEAKER NOT DETECTED

例：《センター(C)スピーカーが検出できない》

センター(C)スピーカーから音が出ない

パワーアンプの電源が入っていない

接続ケーブルの不具合(断線または接続してない)

パワーアンプまたはスピーカーの不具合

← SURR. RIGHT(B) SPEAKER NOT ADJUSTABLE

例：《サラウンド右(B)スピーカー調整不可》

サラウンド右(B)スピーカーが不良(ノイズが大きい、レベルが小さい等)で、良好な調整ができない

調整結果

メニューの《SPEAKER MANUAL ADJUST.》 《SPEAKER LEVEL》項目(●●▶ P39, 40)に記録されますので確認してください。その結果を確認しながら、手動で微調整することができます。

DG-28/DG-38を接続した場合

DG-28/DG-38を接続した場合でも、最初の自動レベル調整は、EXT DAIメニューの初期設定(NO CONNECTION: 接続しない)で測定して、他のメニューに進み、DG-28/DG-38を挿入していない状態での演奏環境を整えてください。

その後、

① 《EXT DAI》メニューでDG-28/DG-38の接続設定をする。 ●●▶ P73

② DG-28/DG-38を挿入した演奏(音場補正前)を確認する。

③ DG-28/DG-38を挿入したチャンネルの音場補正をする。音場補正の方法 ●●▶ P73

④ 音場補正後は再度スピーカー・レベルの自動調整をする。

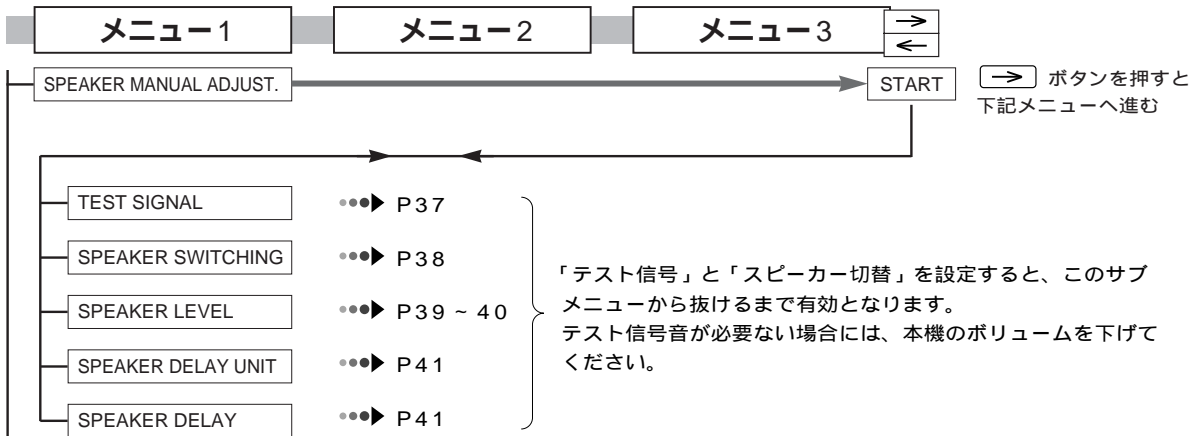
注意：DG-28/DG-38を挿入したチャンネルの出力レベルは低くなりますので、調整結果はかなりバラツキます。

スピーカーの手動調整・・・SPEAKER MANUAL ADJUST.

テスト信号の種類を決めて、手動でスピーカー・レベルやスピーカー・ディレイの設定を行うメニューです。

→ ボタンを押すと、《TEST SIGNAL》《SPEAKER SWITCHING》《SPEAKER LEVEL》《SPEAKER DELAY UNIT》《SPEAKER DELAY》の項目に進みます。

注意：《SPEAKER AUTO ADJUST.》で自動調整が終了している場合、このメニューにある《SPEAKER LEVEL》に調整の結果が表示されています。



[AUDIO] ボタンを1秒以上押す
画面はAUDIO設定モードに変わる

MENU 1で 『SPEAKER MANUAL ADJUST.』を
選択

[AUDIO SETUP]
↑SPEAKER MANUAL ADJUST. →START

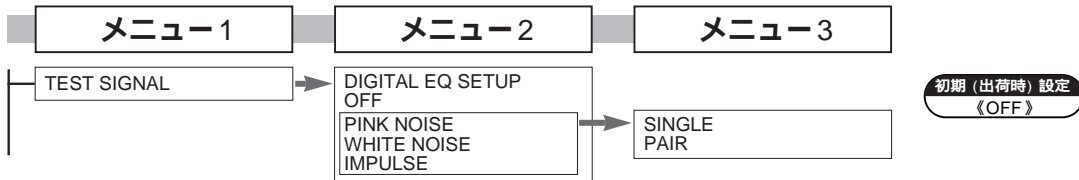
スピーカーの手動調整

→ ボタンを押すと
次の設定メニューに進む

→ ボタンを押すと《TEST SIGNAL》スピーカー・テスト信号項目に進む

スピーカー・テスト信号の種類・TEST SIGNAL

スピーカー・レベルやディレイなどの調整用に、スピーカーから出力するテスト信号のON/OFF やテスト信号の種類等を設定します。《DIGITAL EQ SETUP》ポジションは《TEST SIGNAL》メニューとは無関係で、DG-28/DG-38 を音場調整する場合のみ使用します。



「SPEAKER MANUAL ADJUST.」で ボタンを押す
「TEST SIGNAL」画面になる



MENU 2 で 内蔵テスト信号の種類を選択



ピンク・ノイズ

シングル：1個のスピーカーからテスト信号を出力

信号の種類

- DIGITAL EQ SETUP : DG-28/DG-38 を「DIGITAL AUDIO」端子に接続、音場補正（調整）をするときはこのポジションにします。テスト信号は本機からではなく、DG-28/DG-38 より出力します。
DG-28/DG-38 の接続と設定は ●●▶ P17 参照
DG-28/DG-38 による音場補正（調整）の方法は ●●▶ P73 参照
- OFF : 本機内蔵のテスト信号を使用しないで、テスト信号ソフトやDVD ソフトを演奏しながらレベル調整をします。音は《NONE》以外の全チャンネルから出力します。
- PINK NOISE : ピンク・ノイズ・・・ [レベル設定で、耳で聴きながら調整する場合に推奨]
- WHITE NOISE : ホワイト・ノイズ・・・ [レベル設定で、レベルメーター等の測定器を使用する場合に推奨]
- IMPULSE : インパルス (広帯域な信号分布をもつ衝撃的な信号)
ディレイ設定で、スピーカー・ペアの音を聴きながら調整する場合に推奨

OFF 以外を選択の場合：

MENU 3 で SINGLE/ PAIR を選択

- ・ SINGLE : 1個のスピーカーから順番に音が出るモード
- ・ PAIR : スピーカー 2 個ずつペアで音が出るモード



ペア：2個のスピーカーからテスト信号を出力

測定順序 : 「SPEAKER LEVEL」および「SPEAKER DELAY」メニューに進むと、テスト・トーンが各スピーカーから順番に出力されます。

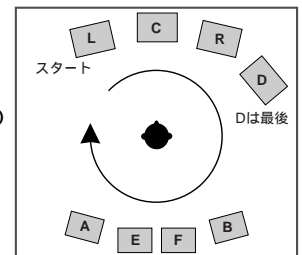
- * 《NONE》に設定してあるスピーカーはスキップされ、音は出ません。
- * 《PAIR》の場合は、基本的に隣り合ったスピーカーや対角線上に設置してあるスピーカーなどがペアになります。また《NONE》の場合には新しいペアになります。ペアはディスプレイ上に表示されますので、表示に従って設定してください。

① Fチャンネルがサラウンド・バック2の場合（右図）

SINGLE (Dは最後に出力)
PAIR の例 (D, Fは出力しません)

② Fチャンネルがサブウーファー2の場合

SINGLE (Fは最後に出力)
PAIR の例 (サブウーファーD, Fは出力しません)



SINGLEの場合：テスト・トーンが出力する基本的な順番

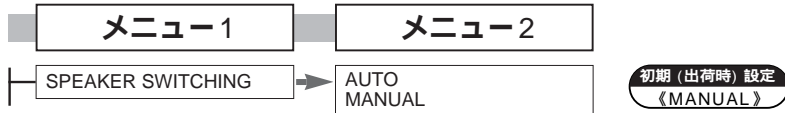
* 各画面で ボタンを押すと《SPEAKER MANUAL ADJUST.》に戻る。

スピーカー切替（自動または手動）・・・SPEAKER SWITCHING

スピーカーのレベルやディレイ調整をする場合、テスト・トーンを再生する各スピーカーの切替を、自動または手動にするかを選択します。

注意

テスト・トーンの音量はVX-700のボリュームで調整します。
急に大きな音が出ないように注意してください。



《TEST SIGNAL》からつづく

MENU 1で 『SPEAKER SWITCHING』を選択

```
[AUDIO SETUP]  SPEAKER MANUAL ADJUST.
+1SPEAKER SWITCHIG  2AUTO
```

自動でスピーカー切替

MENU 2で AUTO/ MANUALを選択

```
+1SPEAKER SWITCHIG  2MANUAL
```

手動でスピーカー切替

AUTO(自動)

テストトーンが出力されるスピーカーが、約2秒間隔で自動的に切り替わります。

MANUAL(手動)

テストトーンを出力させたいスピーカーを選んで切り替えます。

最初はMANUAL(手動)で調整して、AUTO(自動)で確認または微調すると詳細な設定ができます。

MENU 1で、次の項目《SPEAKER LEVEL》または《SPEAKER DELAY》を選択すると、フロント(L)スピーカーから順番に音がスタートします。

スピーカーのレベル設定 ・ ・ SPEAKER LEVEL

「SPEAKER AUTO ADJUST.」(●●▶ P33) と同じ内容で、手動でレベル設定する場合です。自動調整済みで必要のない場合は、次のメニューへ進んでください。

TEST SIGNAL で設定したテスト・トーンを聞きながら、手動で各スピーカーのレベル設定をします。リスニング・ポジションで、各スピーカーからの再生音が同一音量で聞こえるように、リモート・コマンダーまたは本体で調整します。

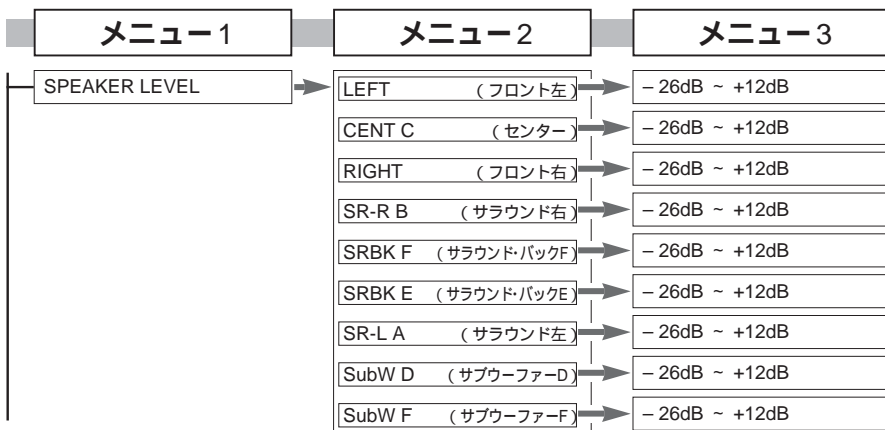
「SPEAKER AUTO ADJUST.」(自動レベル調整)で測定済みの場合は、調整値が表示されています。レベル確認および微調整が可能です。

次のメニューで設定変更している場合は、一旦初期設定《0dB》に戻し、レベル調整後再設定してください。

- 「CENTER MANAGEMENT」 ⇄ 「LEVEL」 ... ●●▶ P75
- 「LFE LEVEL」 ●●▶ P76
- 「IN-10 BALANCE」 ●●▶ P78
- 「EQ」 ●●▶ P79, 80

注意

テスト・トーンの音量は本機のボリュームで調整します。最初、急に大きな音が出ないように注意してください。



初期 (出荷時) 設定
《0dB》
各スピーカー

- * 《NONE》設定のスピーカーは表示しません。テスト・トーンもスキップされます。
- * 「SRBK F」と「SubW F」の表示はFチャンネルの設定に依存します。

《SPEAKER SWITCHING》からつづく

MENU 1 で 『SPEAKER LEVEL』 を選択

《TEST SIGNAL》で《OFF》を選択した場合

演奏信号音が《NONE》以外の全 ch から出力されます。

全chから演奏音

```
[AUDIO SETUP] SPEAKER MANUAL ADJUST.
+1SPEAKER LEVEL 2LEFT 3 0.0dB
```

《TEST SIGNAL》で《OFF》以外を選択した場合

SINGLE : フロント (左) スピーカーから、テスト・トーンがスタート。

《SINGLE》の場合、LEFTからテスト音がスタート

```
[AUDIO SETUP] NOISE FROM:LEFT
+1SPEAKER LEVEL 2LEFT 3 0.0dB
```

PAIR : フロント (左) と (右) 2本のスピーカーからテスト・トーンがスタート。
ペアの組み合わせと順番の例は37ページ参照。

《PAIR》の場合、LEFTとRIGHTからテスト音がスタート

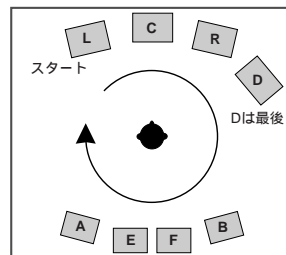
```
[AUDIO SETUP] NOISE FROM:LEFT & RIGHT
+1SPEAKER LEVEL 2LEFT 3 0.0dB
```

《SPEAKER SWITCHING》で《MANUAL》を選択した場合

MENU 2 で 各スピーカーを選択
 スピーカーを表示する順番は37ページ参照

MENU 3 で レベル値を選択
 各スピーカーからの音が同じ音量になるように調整します

調整範囲：-26dB ~ +12dB (0.1dB ステップ)



SINGLEの場合：テスト・トーンが出力する基本的な順番

a 《TEST SIGNAL》が《OFF》の場合

全chの演奏音を聞きながら、選択した各スピーカーのレベル値を設定



b 《TEST SIGNAL》を選んで《SINGLE》の場合

選択したスピーカーからテスト・トーンが出力、そのスピーカーのレベル値を設定



c 《TEST SIGNAL》を選んで《PAIR》の場合

選択したペア(2本)のスピーカーからテスト・トーンが出力します。一本ずつスピーカーを選択して、レベル値を設定
 《PAIR》の場合、サブウーファーは設定できません。



(一本設定後、MENU2で切替)



*手順 を繰り返し、全てのスピーカー・レベルを同一音量に合わせます。

《SPEAKER SWITCHING》で《AUTO》を選択した場合

表示は手順 の《MANUAL》時と同様ですが、約2秒間隔で、各スピーカーが自動的に切り替わります。ただし、スピーカーが短時間で切り替わるので、《MANUAL》で調整した後、確認または微調が適しています。

*スピーカーの切り替わる順序は37ページ参照

*手順 と同じように、表示しているスピーカーのレベル値を設定します。

*サブウーファーはLFE(低域)の再生チャンネルですから、テスト・トーンのレベルは実際よりも小さく聞こえる場合があります。

*各画面で ボタンを押すと《SPEAKER MANUAL ADJUST.》に戻る。

DG-28/DG-38を接続した場合

DG-28/DG-38を接続した場合でも、最初のスピーカー・レベル調整は、EXT DAIメニューの初期設定(NO CONNECTION：接続しない)で測定して、他のメニューに進み、DG-28/DG-38を挿入していない状態での演奏環境を整えてください。その後、

《EXT DAI》メニューでDG-28/DG-38の接続設定をする。 ●●▶ P73

DG-28/DG-38を挿入した演奏(音場補正前)を確認する。

DG-28/DG-38を挿入したチャンネルの音場補正(調整)をする。

音場補正(調整)の方法 ●●▶ P73

音場補正後は再度スピーカー・レベルの調整をする。

注意：DG-28/DG-38を挿入したチャンネルの出力レベルは低くなりますので、調整結果はかなりバラツキます。

スピーカーのディレイ設定・・SPEAKER DELAY

各スピーカーと視聴ポイントとの距離（または時間）を入力して、各スピーカーから出力した音が同時に耳まで届くように、到達時間を合わせます。スピーカーのレベル設定と同様にサラウンド再生に於いて、音の定位感や移動感を正確に再現したり、音場の奥行き感を増すなど重要な設定です。

*テスト・トーンが必要ない場合はボリュームを下げてください。

準備

設定する前に、あらかじめ各スピーカーから視聴ポイントまでの距離を測定します。その距離を各スピーカーに入力(選択)してください。本機が自動的にディレイ・タイムを算出します。

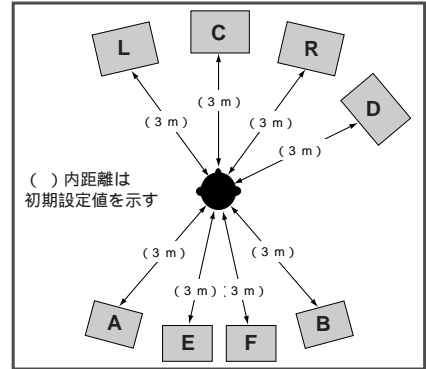
メモ

実際の設定は、ディレイ時間(ms)を入力しないで、各スピーカーからリスニング・ポイントまでの「距離」(m)を入力します。

距離を入力後、メニューでUNIT(単位)を『ms』にすると、各スピーカーのディレイ時間が算出され表示されます。

直接「ディレイ時間」(ms)で入力することも可能です。

テスト・トーンを聴きながら調整する場合は、「TEST SIGNAL」⇔「IMPULSE」⇔「PAIR」(●●▶ P37)に設定して、調整してください。



《各スピーカーとの距離を測定》

メニュー1	メニュー2	メニュー3
SPEAKER DELAY UNIT	meter ms	
SPEAKER DELAY	LEFT (フロント左)	0 ~ 34.61 m または 0 ~ 99.9 ms
	CENT C (センター)	0 ~ 34.61 m または 0 ~ 99.9 ms
	RIGHT (フロント右)	0 ~ 34.61 m または 0 ~ 99.9 ms
	SR-R B (サラウンド右)	0 ~ 34.61 m または 0 ~ 99.9 ms
	SRBK F (サラウンド・バックF)	0 ~ 34.61 m または 0 ~ 99.9 ms
	SRBK E (サラウンド・バックE)	0 ~ 34.61 m または 0 ~ 99.9 ms
	SR-L A (サラウンド左)	0 ~ 34.61 m または 0 ~ 99.9 ms
	SubW D (サブウーファーD)	0 ~ 34.61 m または 0 ~ 99.9 ms
	SubW F (サブウーファーF)	0 ~ 34.61 m または 0 ~ 99.9 ms

初期(出荷時)設定
《meter》

初期(出荷時)設定
《3m》または《8.7ms》

*《NONE》設定のスピーカーは表示しません。テスト・トーンもスキップされます。

*「SRBK F」と「SubW F」の表示はFチャンネルの設定に依存します。

演奏前の必要な設定

《SPEAKER LEVEL》からつづく

MENU 1で 『SPEAKER DELAY UNIT』を選択

*1SPEAKER DELAY UNIT *2meter
meter: 距離

MENU 2で 単位を選択

UNIT(単位)

meter: 測定した距離を入力する場合に選択、最初は距離を入力します。

ms: ディレイ・タイムの確認または直接時間を入力する場合に選択

*1SPEAKER DELAY UNIT *2ms
ms: ディレイ・タイム

MENU 1で 『SPEAKER DELAY』を選択

MENU 2で 各スピーカーを選択

*1SPEAKER DELAY *2LEFT *3DELAY: 3m50
フロント左 視聴ポイントまで 3.5m

MENU 3で 数値(距離または時間)を選択

設定範囲: 0 ~ 34.61 m (1cm ステップ)

測定した距離に最も近い値を選択します。

設定範囲: 0 ~ 99.9 ms (0.1ms ステップ)

距離を入力した場合は、自動的に数値が入ります。

* を繰り返し、全てのスピーカー・ディレイを設定します。

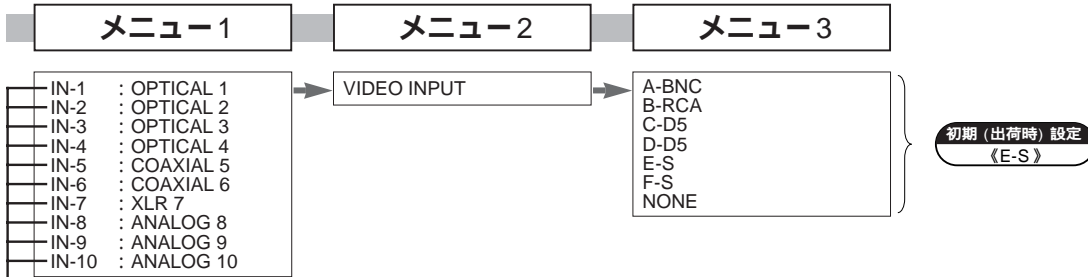
*各画面で ◀ ボタンを押すと《SPEAKER MANUAL ADJUST.》に戻る。

オーディオ入力に対するビデオ入力端子の割り当て・・・VIDEO INPUT

各オーディオ入力端子に対して、接続したビデオ入力端子の割り当てをします。
設定後は入力セクターでオーディオ入力端子を選択すると、ビデオ入力端子も同時に切り替わります。

* ビデオ機器の接続は 14, 15 ページ参照。

* 出荷時は各ビデオ端子の機能内容は共通で、全てが初期設定状態になっています。VIDEOモードで各機能の設定を行い、設定後はその機能を各端子に記憶・保存してください。



CONFIG ボタンを 1 秒以上押す

画面はCONFIG モードに変わる

MENU 1 で オーディオ入力端子を選択

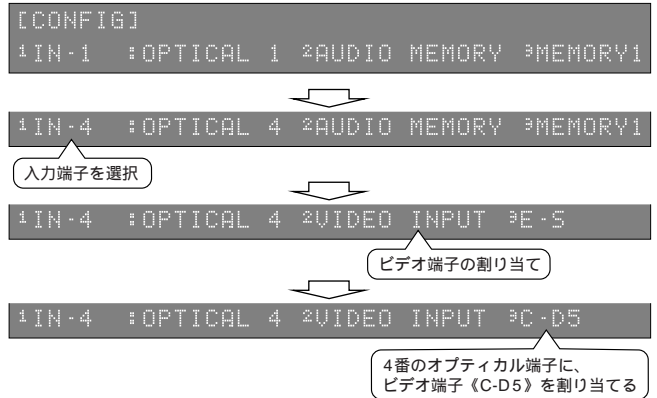
MENU 2 で 「VIDEO INPUT」を選択

MENU 3 で ビデオ入力端子を選択

A-BNC : 入力端子 A に BNC で入力
B-RCA : 入力端子 B に RCA で入力
C-D5 : 入力端子 C に D 端子ケーブルで入力
D-D5 : 入力端子 D に D 端子ケーブルで入力
E-S : 入力端子 E に S ビデオ・ケーブルで入力
F-S : 入力端子 F に S ビデオ・ケーブルで入力
NONE : CD プレーヤーなどの音声のみ、またはビデオ信号を接続しない場合に選択

MENU 1 で に戻り、他のオーディオ入力端子も繰り返す

設定終了後は **EXIT** ボタンを押して、演奏モードに戻る
CONFIG モードの設定は、全て自動保存されます



一般の環境・機能設定

基本設定終了後は、各端子の一般的な機能設定やVX-700全般の環境設定を行います。
初期設定で標準の設定がされていますが、メニュー構造を参照しながら、本機をより使い易くするために必要な機能の設定を行ってください。

各入力端子任意に設定できますから、入力セクターでポジションを選択する必要はありません。

CONFIGモードでの設定

CONFIGモードで設定した機能は、全て自動的に記憶・保存されます。

各オーディオ入力端子の設定

- オーディオ・メモリーの割り当て ●●▶ P 44
- アナログ入力のサンプリング周波数設定 ●●▶ P 45
- 各オーディオ入力端子に機種名を表示 ●●▶ P 46
- 入力切替時のポジション・スキップ ●●▶ P 47

ディスプレイ設定

- ディスプレイ文字の明るさ ●●▶ P 48
- ビットレートやDN係数の表示 ●●▶ P 48
- アッテネーター・レベルの設定 ●●▶ P 49
- 設定内容の保護(セーフティ・ロック) ●●▶ P 50
- ボリュームの表示単位を設定 ●●▶ P 51
- オーディオ・メモリーの名称変更 ●●▶ P 52

AUDIO (オーディオ) メモリー・データ

- メモリー内のデータの呼び出し ●●▶ P 53
- 設定したオーディオ・データをメモリーに保存 ●●▶ P 54
- メモリー間のデータのコピー ●●▶ P 55
- オーディオ・メモリーを初期(出荷時)設定に戻す ●●▶ P 55

VIDEO (ビデオ) データ

- ビデオ・データの呼び出し ●●▶ P 56
- 設定したビデオ・データをビデオ入力端子に保存 ●●▶ P 57
- ビデオ入力端子間のデータのコピー ●●▶ P 58
- ビデオ・データを初期(出荷時)設定に戻す ●●▶ P 58

全ての設定を初期(出荷時)設定に戻す

- CONFIG、AUDIO、VIDEO全ての設定を初期設定に戻す ●●▶ P 59

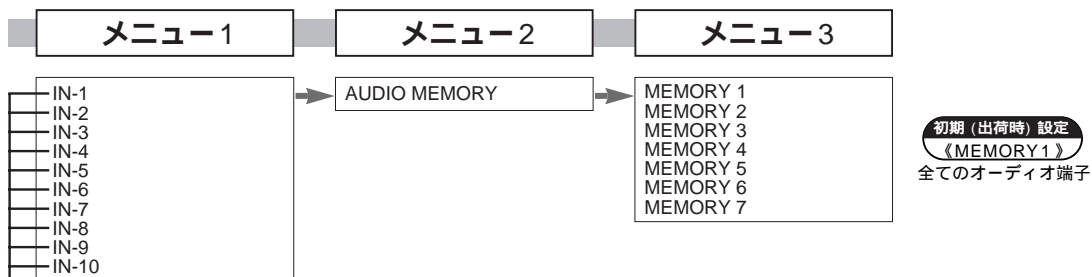
各オーディオ入力端子の設定

オーディオ入力に対するオーディオ・メモリーの割り当て・・・AUDIO MEMORY

各オーディオ入力端子に対して、保存してある7パターンのメモリーから一つを選んで割り当てることができます。

* 出荷時は7パターンのメモリー内容は共通で、全てが初期設定状態になっています。また、初期設定で各入力端子には〔メモリー：MEMORY1〕が割り当てられています。この機能を実際使用するのには、AUDIOモードで各機能の設定を行い、その機能を各メモリーに記憶・保存してからになります。

* 各メモリーの名称は《AUDIO MEMORY NAME》で好みの名称に変更することができます。



[CONFIG] ボタンを1秒以上押す

画面はCONFIGモードに変わる

MENU 1で オーディオ入力端子を選択

MENU 2で 《AUDIO MEMORY》を選択

MENU 3で 割り当てるメモリーを選択

に戻り、MENU 1で他の端子も繰り返す

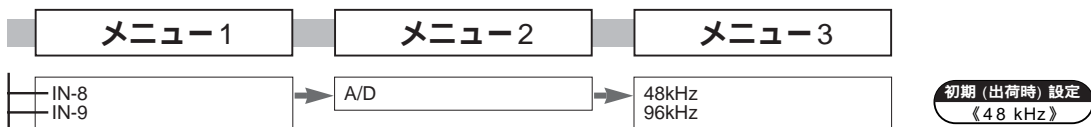


アナログ入力のサンプリング周波数設定・・・A/D

各アナログ・オーディオ入力(IN-8,9,10 番端子)に対し、A/Dコンバーターのサンプリング周波数の設定をします。

- * 《48kHz》設定の場合は、EFFECT MODEでマルチチャンネル演奏が可能です。
《96kHz》設定の場合は、ダイレクト演奏になります。
- * DIGITAL AUDIO端子にDG-28を接続して音場補正する場合には、サンプリング周波数《48kHz》に設定してください。DG-38を接続する場合は《96kHz》設定にすることができます。《96kHz》に設定した場合は、エフェクト・モードは無効になります。

アナログ 8, 9 番端子の設定



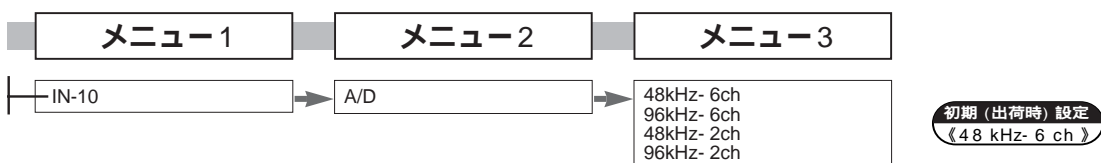
CONFIG ボタンを1秒以上押す
画面はCONFIGモードに変わる

MENU 1 で 入力端子IN-8 またはIN-9 を選択

MENU 2 で 『A/D』を選択

MENU 3 で サンプリング周波数《48 kHz/96 kHz》を選択

アナログ 10 番端子の設定



CONFIG ボタンを1秒以上押す
画面はCONFIGモードに変わる

MENU 1 で 入力端子IN-10を選択

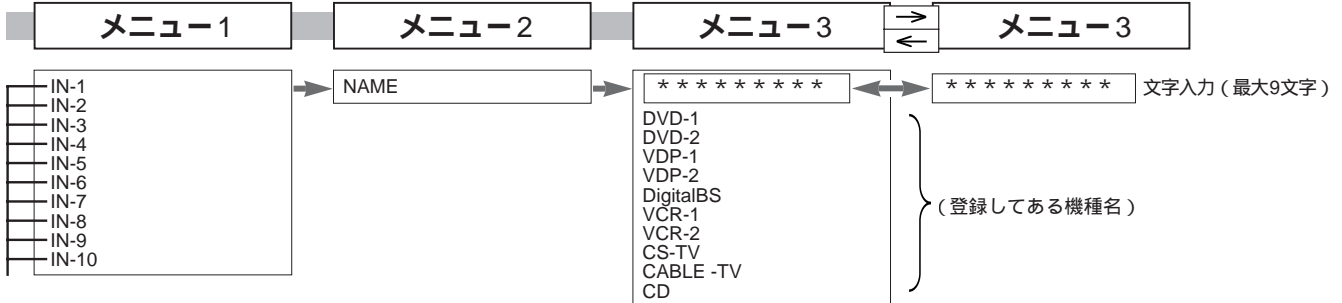
MENU 2 で 『A/D』を選択

MENU 3 で チャンネル/サンプリング周波数を選択

* アナログ 10 番端子は6chのアナログ入力ですが、2chか6chかを選択することができます。2chにすると、フロントL/Rに入力された信号を再生し、他のチャンネルは出力しません。

各オーディオ入力端子に機種名を表示・・・NAME

オーディオ入力端子に、接続した機種名を表示させます。また、希望する機種名や型番などを文字入力することができます。



CONFIG ボタンを1秒以上押す

画面はCONFIGモードに変わる

MENU 1で 入力端子の選択

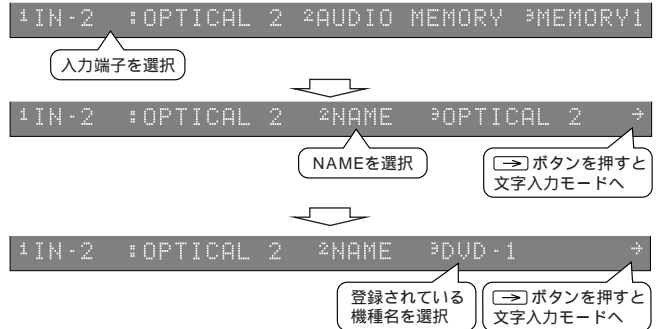
MENU 2で 『NAME』を選択

→ ボタンを押すと の文字入力画面に進む

MENU 3で 入力機種名を選択

登録されている機種名

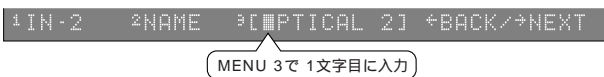
- ・ DVD-1, DVD-2, VDP-1, VDP-2, DigitalBS, VCR-1, VCR-2, CS-TV, CABLE-TV, CD



希望文字入力方法

例：Accuphase と入力する

手順 で **→** ボタンを押すと文字入力画面になり、1文字目（1番左の桁）が点滅に変わる。



文字を変更しない場合は、**→** ボタンを押すと点滅は2文字目に移動。

MENU 3で 希望の文字“A”を入力



文字入力後、**→** ボタンを押すと確定して、点滅が2文字目(一桁右)に移動。

MENU 3で 希望の文字を入力



- ・ これらの操作を繰り返して最大9文字まで入力できます。
- ・ 文字を修正する場合は、**←** ボタンや **→** ボタンで入力位置を移動させて文字を上書きします。
- ・ 入力文字は途中でも自動的に確定してメモリーされます。

入力が終了したら、MENU 1で に戻り、他の端子も同様に設定する。

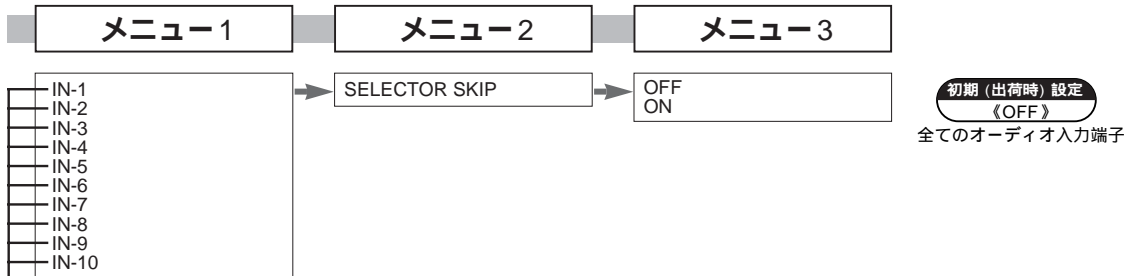
- ・ 終了する場合は、**EXIT** ボタンを押して、設定モードから演奏モードへ戻る。

入力可能な文字・記号

アルファベットの大文字	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
アルファベットの小文字	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
数字	0123456789
記号等	*+ = ! @ # \$ % ^ & * - / : ; , . ~ ! ■ () [] } } ` ` ' ' α γ δ ε η θ λ π τ φ ω Σ Ω Ξ μ Π

入力切替時のポジション・スキップ・・・SELECTOR SKIP

入力セレクターでオーディオ入力端子を選択する場合、必要ない(接続していない)端子をスキップすることができます。



[CONFIG] ボタンを1秒以上押す

画面はCONFIGモードに変わる

MENU 1で オーディオ入力端子を選択

MENU 2で 『SELECTOR SKIP』を選択

MENU 3で ON/OFFを選択

OFF : 切替時スキップされない
ON : 切替時スキップされる

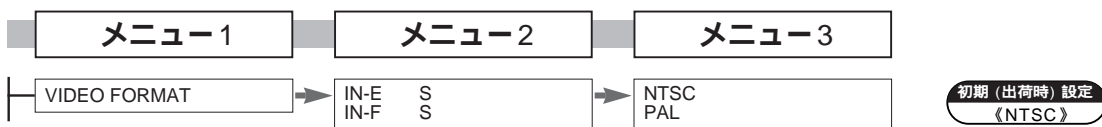
他の入力端子も設定する場合は、 に戻り、MENU 1でオーディオ入力端子の選択を繰り返す



Sビデオ入力端子における信号方式の切り替え・・・VIDEO FORMAT

テレビジョンの標準方式には、NTSC(日本、アメリカ) PAL(ヨーロッパ)などがあり、各国によって方式が異なります。本機のSビデオ端子に入力された信号は全てコンポーネント信号に変換されますが、このとき入力信号の方式によってNTSCまたはPALを選択する必要があり、この切替メニューです。

* Sビデオ端子の場合、入力信号にビデオ方式を合わせないとビデオ出力端子には出力されません。ただし、コンポーネント/D端子の入力信号は、方式を切り替える必要はありません。



[CONFIG] ボタンを1秒以上押す

画面はCONFIGモードに変わる

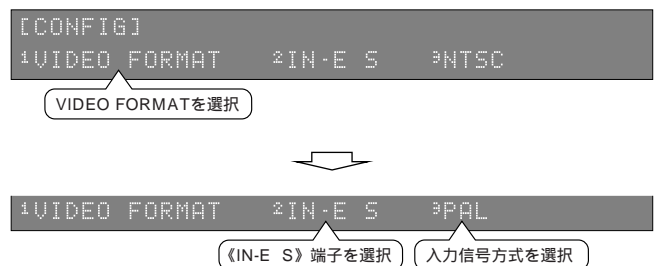
MENU 1で 「VIDEO FORMAT」を選択

MENU 2で Sビデオ入力端子を選択

IN-E S : “E”入力端子
IN-F S : “F”入力端子

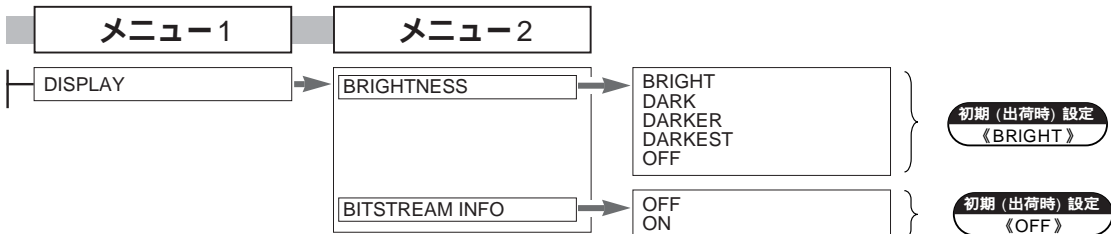
MENU 3で NTSC/PALを選択

NTSC : NTSC信号
PAL : PAL信号



ディスプレイ設定・・・DISPLAY

『ディスプレイ文字の明るさ』と『ビットレートやDN係数の表示』を設定します。
 全ての入力端子共通に設定されます。



[CONFIG] ボタンを1秒以上押す。

画面はCONFIGモードに変わる。

MENU 1で 『DISPLAY』を選択。



ディスプレイ文字の明るさ

「ディスプレイの文字の明るさ」と「入力セクターおよびボリューム・ノブ外周のLEDの明るさ」を同時に変更することができます。

青緑色のAccuphaseロゴは変わりません。

MENU 2で 「BRIGHTNESS」を選択。



MENU 3で ディスプレイを見ながら「明るさの段階」を選択。



明るさの段階

- BRIGHT : 明るい
- DARK :
- DARKER :
- DARKEST : 暗い
- OFF : 消える

OFFを選択した場合

設定モードでは消えません。

[EXIT] ボタンを押して通常の演奏モードに戻ると、約5秒後にディスプレイ文字が消えます。

再び [EXIT] ボタンを押すと、文字が表示されます。この場合は、[EXIT] ボタンを押さないと消灯しません。

消灯後、「INPUT SELECTOR」や「VOLUME」ノブを操作すると約5秒間文字が表示されます。

ビット・レートやDN係数の表示

演奏時にソースのビット・レートとDN係数をディスプレイ上に表示させることができます。ただし、DN係数はDolby Digitalソースのみ有効です。

MENU 2で 「BITSTREAM INFO」を選択。



MENU 3で 「ON/OFF」を選択。



メモ

ビット・レート (bps)

デジタル信号において、1秒間に伝送できるデータ量を表す指標音が出て約2秒後に表示されます。

「AAC」信号のビット・レートは参考値です。

DN係数

(Dialog Normalization : ダイアログ・ノーマライゼーション)

ドルビー・デジタルの機能。ソフトによって平均音量が異なるため、音量の基準値(平均レベル)を-31dBとして、各ソフトに平均レベルの指定値(DN係数)を記録しておく。再生時には、自動的にDN係数に応じて音量が下がるようにする。例えば『DN係数 = 27』の場合、『31 - 27 = 4dB』音量が下がる。

表示範囲 DN: 0 ~ DN: 31

演奏時のディスプレイ例〔BITSTREAM INFO : ON時〕

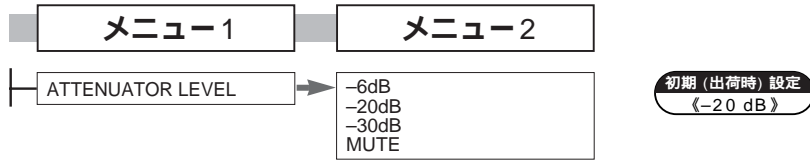


メモ

《ビット・レート》や《DN係数》が、他の文字で隠れている場合は、[←] または [→] ボタンを押して表示を切り替えることができます。

アッテネーター・レベルの設定 ・ ATTENUATOR LEVEL

フロントパネルの [6] ATT ボタン(アッテネーター)の減衰レベルを4段階から選択することができます。



[CONFIG] ボタンを1秒以上押す

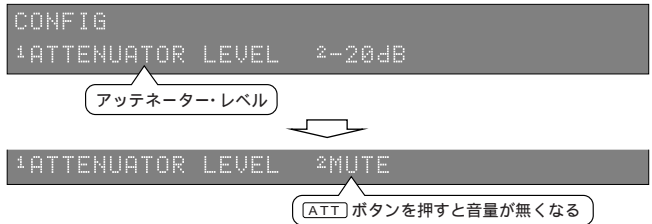
画面はCONFIG モードに変わる

MENU 1で 『ATTENUATOR LEVEL』を選択

MENU 2で 4段階のレベルから選択

レベル選択：-6dB、-20dB、-30dB、MUTE

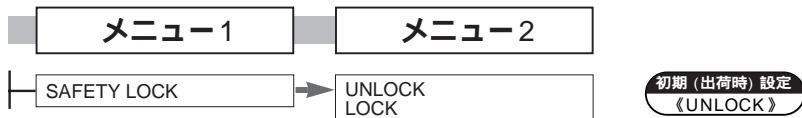
MUTE：[ATT] ボタンを押すと音量が無くなります。



設定内容の保護（セイフティ・ロック）・・・ SAFETY LOCK

各設定内容を簡単に変更できないようにロック《LOCK》することができます。
設定内容を変更するには、ロック解除をしてください。

* ロック解除：同じ手順で《UNLOCK》に設定



[CONFIG] ボタンを1秒以上押す

画面はCONFIGモードに変わる

MENU 1で 『SAFETY LOCK』を選択



MENU 2で UNLOCK/LOCKを選択



UNLOCK : ロック解除

LOCK : ロックする

《LOCK》時の設定動作

COFIGモード：「SAFTY LOCK」以外の設定はできません。
ただし、全項目表示されますので、設定内容の確認はできます。

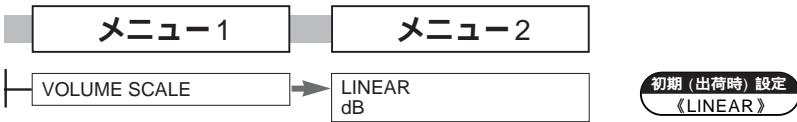
AUDIOモード：「CHECK」のみ動作、「AUDIO SETUP」は表示しません。

VIDEOモード：「CHECK」のみ動作、「VIDEO SETUP」は表示しません。

QUICKモード：全て動作します。

ボリュームの表示単位を設定・・・VOLUME SCALE

ボリュームの表示単位(dBまたはリニア)を設定します。



[CONFIG] ボタンを1秒以上押す

画面はCONFIG モードに変わる

MENU 1で 『VOLUME SCALE』を選択



ボリューム表示単位

MENU 2で dB/LINEARを選択



ボリューム表示単位を《dB》に変更

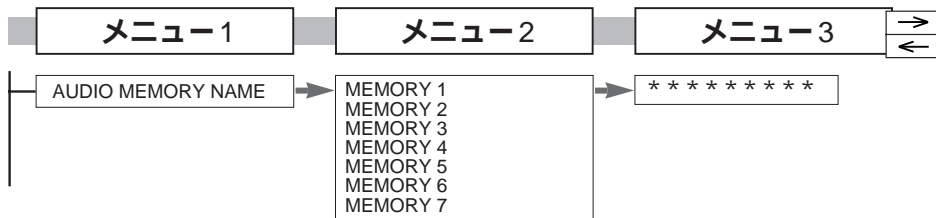
設定後ボリュームを回すと

LINEAR : [MINIMUM] 0.1 [99.9] [MAXIMUM] までリニア(0.1 ステップ)に変化

dB : [MINIMUM] -120.0 dB [+12.0 dB] [MAXIMUM] までdB で表示

オーディオ・メモリーの名称変更・・・AUDIO MEMORY NAME

オーディオ関連の、7 パターンのメモリー名称を希望の名前(最大7 文字)に変更することができます。



〔例〕《MEMORY3》を《CINEMA》に変える

[CONFIG] ボタンを1秒以上押す

画面はCONFIG モードに変わる

MENU 1 で 『AUDIO MEMORY NAME』を選択

MENU 2 で 名前を変えたいメモリーを選択する

[→] ボタンを押すと文字変更画面になり、[] 内の1文字目(一番左の桁)“M”が点滅に変わります。

MENU 3 で 希望の文字“C”を入力

[→] ボタンを押すと点滅が2文字目(1桁右)に移動します。

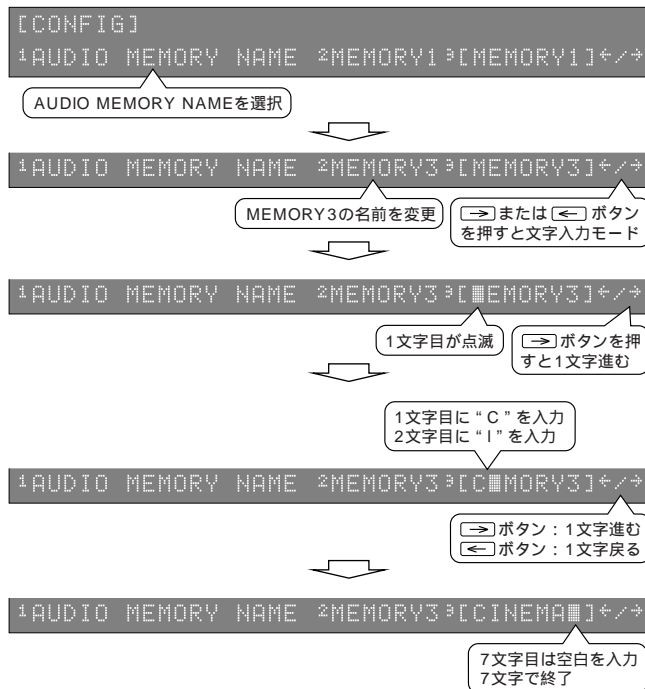
MENU 3 で 2文字目に“1”を入力

- ・これらの操作を繰り返して最大7文字まで入力できます。
- ・文字を変更しない場合は、そのまま **[→]** ボタンを押す。
- ・文字を消す場合は、「空白」を入れる。
- ・文字を修正する場合は、**[←]** ボタンや **[→]** ボタンで入力位置を移動させて文字を上書きします。
- ・入力文字は途中で自動的に確定してメモリーされます。

MENU 2 で に戻り、他のメモリーの名称を変更する。

終了する場合は、

- ・MENU 1 で 他のメニューに移動
- ・または、**[EXIT]** ボタンを押して、演奏モードへ戻る



入力可能な文字・記号

アルファベットの大文字

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

アルファベットの小文字

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz

数 字

0123456789

記号等

* + = ! @ # \$ % ^ & * - / : ; . ~ ! ■ () []
 } } ` ` ' ' α γ δ ε η θ λ π τ φ ω Σ Ω Ξ μ Π

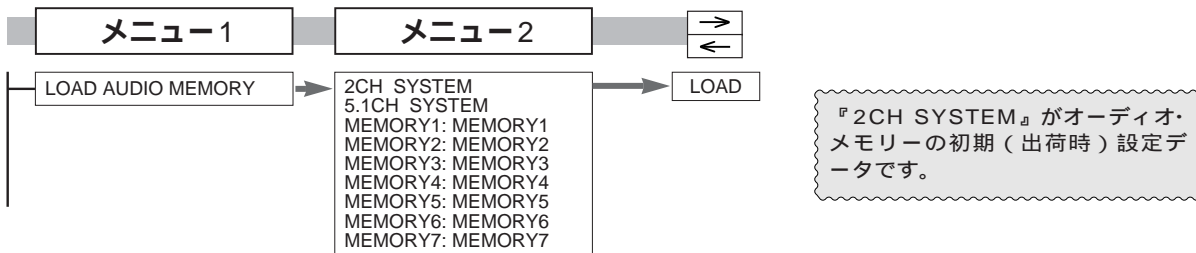
AUDIO (オーディオ) メモリー・データ

メモリー内のデータの呼び出し・・・LOAD AUDIO MEMORY

オーディオ・メモリーから1つを呼び出して、その内容を変更し、7パターンの中から希望のメモリーに保存することができます。

メモリー同士のデータのコピー方法 ●●▶ P55

「2CH SYSTEM」を呼び出して、他のメモリーに上書きすれば、そのメモリーを初期設定に戻せます ●●▶ P55



例 MEMOリー4を呼び出す

[AUDIO] ボタンを1秒以上押す

[AUDIO SETUP] 画面に変わる

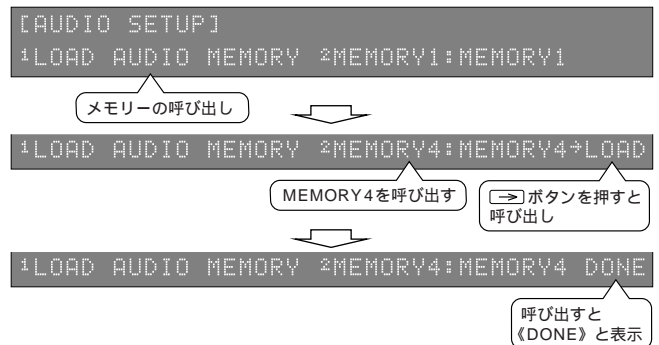
MENU 1 で 『LOAD AUDIO MEMORY』を選択

MENU 2 で 呼び出したいメモリー (MEMORY4) を選択

→ ボタンを押すと《DONE》と表示が変わり、選択されたメモリー・データが呼び出されます。

MENU 1 で 他の設定メニューに進むと、呼び出した《MEMORY4》のデータがディスプレイされます

設定データを保存する。 ●●▶ P54



*手順 の画面で、《LOAD》の表示がないメモリーが、現在[AUDIO SETUP]メニューに呼び出されています。設定変更中、再び → に戻ると、データが異なるため、全てのメモリーに《LOAD》が表示されます。

*手順 でキャンセルする場合、→ ボタンを押さないで他のメニューに進む。

2CH SYSTEM

オーディオ・メモリーの初期（出荷時）設定が保存されています。

出荷時は「2CH SYSTEM」と他の7パターンのメモリー (MEMORY1～7) は全て同一内容となっています。

呼び出して演奏することができます。(●●▶ P20)

他のメモリーへコピーすることができます。

5.1CH SYSTEM

「2CH SYSTEM」と次の設定が異なります。

エフェクト・モード

「TruSurround」 ⇄ 「DIRECT」

スピーカー設定

2chシステム (フロントL/R)

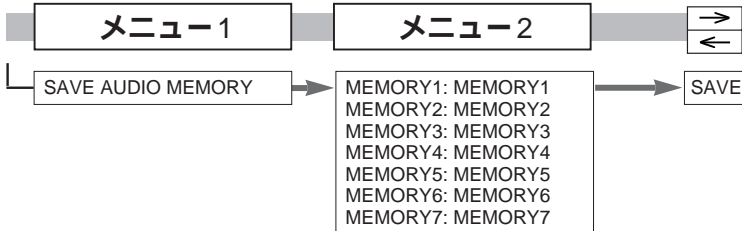
⇄ 5.1chシステム (フロントL/R、サラウンドL/R、センター、サブウーファー)

呼び出して「5.1chシステムでの基本的なサラウンド演奏」ができます。(●●▶ P21)

他のメモリーへコピーすることができます。

設定したオーディオ・データをメモリーに保存・・・SAVE AUDIO MEMORY

AUDIOモードで設定を変更したオーディオ・データを希望のメモリーに保存します。



例 設定したデータを MEMORY3 に保存する

[AUDIO SETUP] モードで、諸機能を設定。

MENU 1 で 「SAVE AUDIO MEMORY」を選択。

MENU 2 で 保存先のメモリーを選択。

* ここでキャンセルして（保存しないで）設定を終了する場合は、**EXIT** ボタンを押す。再度SAVE（保存）確認画面が表示されるので、**←** ボタンを押して（“NO”を選択）演奏ディスプレイに戻る。

→ ボタンを押す 《DONE》と表示され、選択したメモリーに保存されます。

* に戻り、他のメモリーにも同じデータを保存することができます。

* さらに設定を続ける場合は、MENU 1で他のメニュー項目に進む。

設定を終了する場合

→ ボタンを押して保存後、**EXIT** ボタンを押す 演奏ディスプレイに戻る。

保存しないで（**→** ボタンを押さないで）**EXIT** ボタンを押す SAVE（保存）確認画面が表示されるので、

→ ボタンを押して（“YES”を選択）保存する。

```
[AUDIO SETUP]
↑SAVE AUDIO MEMORY *MEMORY1:MEMORY1→SAVE
```

メモリーの保存

```
↑SAVE AUDIO MEMORY *MEMORY3:MEMORY3→SAVE
```

MEMORY3に保存

→ ボタンを押すと保存

```
↑SAVE AUDIO MEMORY *MEMORY3:MEMORY3 DONE
```

保存すると《DONE》と表示

メモリー間のデータのコピー

「メモリー内のデータの呼び出し」(●●▶ P53) ⇨ 「データの保存」(●●▶ P54) でメモリー同士のデータのコピーが簡単にできます。

例 MEMOリー2を呼び出して、そのデータをMEMOリー5にコピーする

[AUDIO] ボタンを1秒以上押す。

[AUDIO SETUP] 画面になる。

MENU 1で・・・『LOAD AUDIO MEMORY』を選択。

MENU 2で・・・コピー元のメモリー・データ (MEMOリー2) を呼び出す。

→ ボタンを押す。

呼び出すと《DONE》と表示が変わる。

MENU 1で・・・『SAVE AUDIO MEMORY』を選択。

MENU 2で・・・コピー先のメモリー (MEMOリー5) を選択する。

→ ボタンを押す。

コピーが終了すると《DONE》と表示が変わる。

*他のメモリーにもコピーする場合は、手順 に戻り繰り返す。

*設定を終了する場合は [EXIT] ボタンを押して演奏モードへ戻る。



オーディオ・メモリーを初期 (出荷時) 設定に戻す

データのコピーと同じ方法で変更したメモリーを初期 (出荷時) 設定に戻すことができます。

「2CH SYSTEM」(初期設定データ) を呼び出して、初期設定に戻したいメモリーにコピー (保存) します。

例 MEMOリー3を初期設定に戻す

[AUDIO] ボタンを1秒以上押す。

[AUDIO SETUP] 画面になる。

MENU 1で・・・『LOAD AUDIO MEMORY』を選択。

MENU 2で・・・『2CH SYSTEM』を呼び出す。

→ ボタンを押す。

呼び出すと《DONE》と表示が変わる。

MENU 1で・・・『SAVE AUDIO MEMORY』を選択。

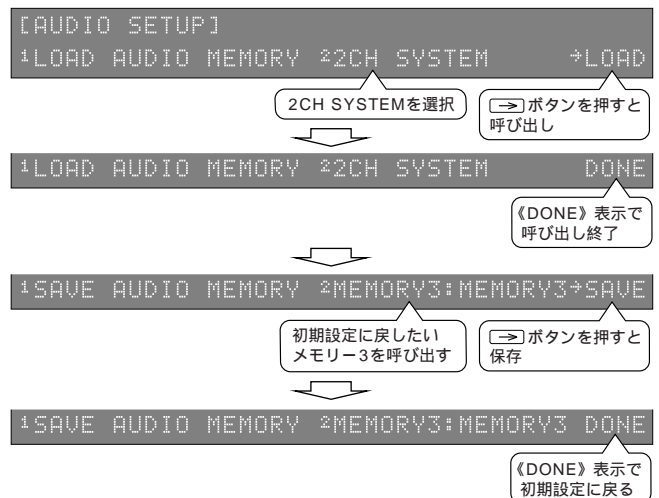
MENU 2で・・・初期設定に戻したいメモリー (MEMOリー3) を選択する。

→ ボタンを押す。

初期設定に戻ると《DONE》と表示が変わる。

*他のメモリーも初期設定に戻す場合は、手順 に戻り繰り返す。

*設定を終了する場合は [EXIT] ボタンを押して演奏モードへ戻る。



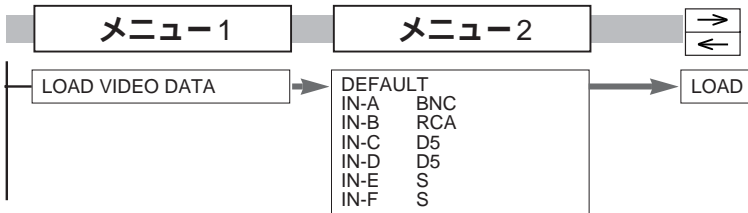
VIDEO (ビデオ) データ

ビデオ・データの呼び出し・・・LOAD VIDEO DATA

各ビデオ端子に保存されているビデオ・データを読み出して、その内容を変更することができます。

ビデオ入力端子同士のデータの複製方法 ●●▶ P58

「DEFAULT」を読み出せば、ビデオ・データを初期設定に戻せます。 ●●▶ P58



例 “IN-C D5” 端子のデータを読み出す

[VIDEO] ボタンを1秒以上押す。

[VIDEO SETUP] 画面に変わる。

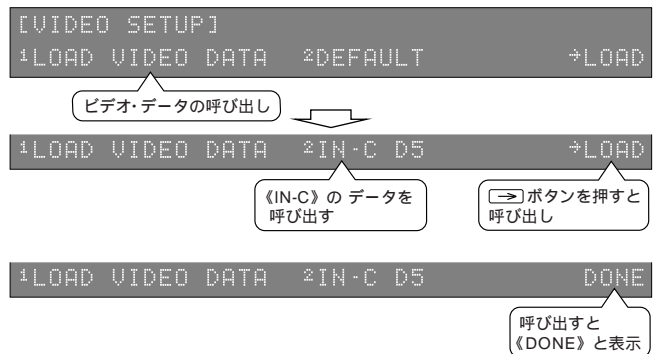
MENU 1で 「LOAD VIDEO DATA」を選択。

MENU 2で 呼び出したいビデオ入力端子 (IN-C D5) を選択。

[→] ボタンを押すと《DONE》と表示が変わり、選択されたIN-C端子のビデオ・データが呼び出されます。

MENU 1で 他の設定メニューに進むと、呼び出した《IN-C D5》端子内のビデオ・データが表示されます。

設定したビデオ・データを保存する。 ●●▶ P57

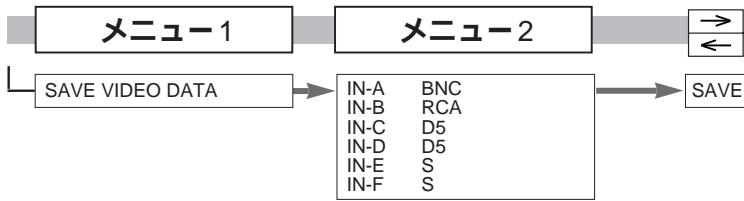


*手順 の画面で、《LOAD》の表示がないビデオ入力端子のデータが、現在 [VIDEO SETUP] メニューに呼び出されています。設定変更中、再び に戻ると、データが異なるため、全てのメモリーに《LOAD》が表示されます。

*手順 で呼び出しをキャンセルする場合、**[→]** ボタンを押さないで他のメニューに進む。

設定したビデオ・データをビデオ入力端子に保存・・・SAVE VIDEO DATA

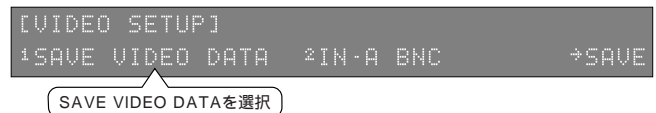
VIDEOモードで設定を変更したビデオ・データを希望のビデオ入力端子に保存します。



例 設定したビデオ・データを“IN-B RCA”端子に保存する

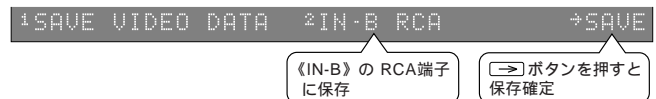
[VIDEO SETUP]モードで、諸機能を設定。

MENU 1で 「SAVE VIDEO DATA」を選択。



MENU 2で 保存先のビデオ入力端子を選択。

* ここでキャンセルして（保存しないで）設定を終了する場合は、**[EXIT]** ボタンを押す。再度SAVE（保存）確認画面が表示されるので、**[←]** ボタンを押して（“NO”を選択）演奏ディスプレイに戻る。



[→] ボタンを押す 《DONE》と表示され、選択したビデオ入力端子に保存されます。



* に戻り、他のビデオ入力端子にも同じデータを保存できます。

* さらに設定を続ける場合は、MENU 1で他のメニュー項目へ進む。

設定を終了する場合

[→] ボタンを押して（保存後）**[EXIT]** ボタンを押す 演奏ディスプレイに戻る。

[→] ボタンを押さずに（保存しないで）**[EXIT]** ボタンを押す SAVE（保存）確認画面が表示されるので、**[→]** ボタンを押して（“YES”を選択）保存する。

●●● P28

ビデオ入力端子間のデータのコピー

「ビデオ・データの呼び出し」(●▶ P56) ⇔ 「ビデオ・データの保存」(●▶ P57) でビデオ入力端子間でのデータのコピーが簡単にできます。

例 “ IN-A BNC ” 端子を呼び出して、そのデータを “ IN-D D5 ” 端子にコピーする

[VIDEO] ボタンを1秒以上押す。

[VIDEO SETUP] 画面に変わる。

MENU 1で・・・『LOAD VIDEO DATA』を選択。

MENU 2で・・・コピー元のビデオ・データ (IN-A BNC) を呼び出す。

→ ボタンを押す。

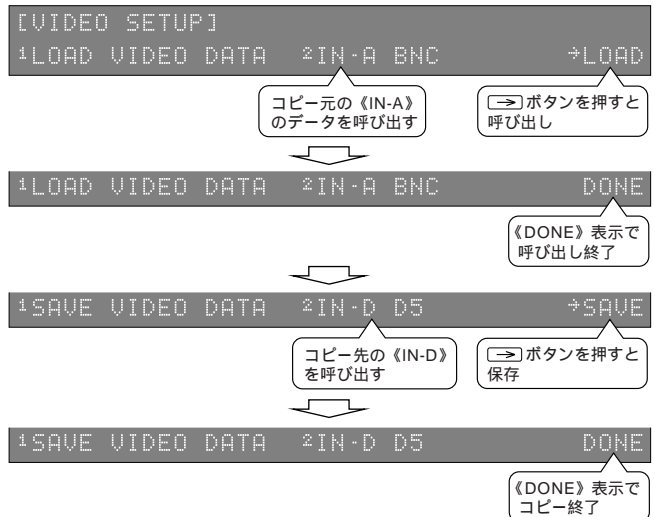
呼び出すと《DONE》と表示が変わる。

MENU 1で・・・『SAVE VIDEO DATA』を選択。

MENU 2で・・・コピー先のビデオ端子 (IN-D D5) を選択する。

→ ボタンを押す。

コピーが終了すると《DONE》と表示が変わる。



* 他の端子にもコピーする場合は、手順 に戻り繰り返す。

* 設定を終了する場合は [EXIT] ボタンを押して演奏モードへ戻る。

ビデオ・データを初期（出荷時）設定に戻す

データのコピーと同じ方法で変更したビデオ・データを初期（出荷時）設定に戻すことができます。

「DEFAULT」(初期設定データ) を呼び出して、初期設定に戻したいビデオ入力端子にコピー（保存）します。

例 “ IN-E S ” 端子のデータを初期設定に戻す

[VIDEO] ボタンを1秒以上押す。

[VIDEO SETUP] 画面に変わる。

MENU 1で・・・『LOAD VIDEO DATA』を選択。

MENU 2で・・・『DEFAULT』を呼び出す。

→ ボタンを押す。

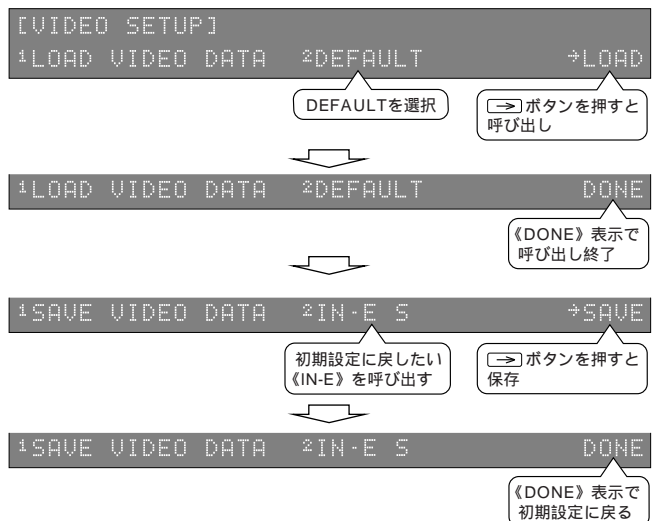
呼び出すと《DONE》と表示が変わる。

MENU 1で・・・『SAVE VIDEO DATA』を選択。

MENU 2で・・・初期設定に戻したいビデオ端子 (IN-E S) を選択する。

→ ボタンを押す。

初期設定に戻ると《DONE》と表示が変わる。

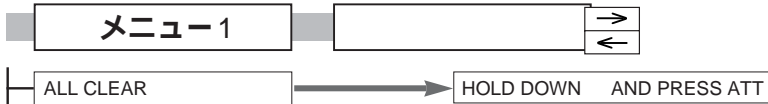


* 他のビデオ入力端子も初期設定に戻す場合は、手順 に戻り繰り返す。

* 設定を終了する場合は [EXIT] ボタンを押して演奏モードへ戻る。

全ての設定を初期（出荷時）設定に戻す

CONFIG、AUDIO、VIDEOモード全ての設定を初期（出荷時）設定に戻すことができます。



CONFIG ボタンを1秒以上押す
画面はCONFIG設定モードに変わる

MENU 1で 『ALL CLEAR』を選択

キャンセルする(初期設定に戻さない)場合は、MENU 1で他の設定へ移動する。または **EXIT** ボタンを押して演奏モードへ戻る

⇒ ボタンを押しながら **ATT** ボタンを押す
《DONE》と表示され、全ての設定は初期設定に戻る

注意: **⇒** ボタンを押しながら **ATT** ボタン押すと確定となり、キャンセルできません。押す前に再度確認してください。

*リモートコマンダーで「ALL CLEAR」の動作はできません。

[CONFIG]
↑ALL CLEAR: HOLD DOWN + AND PRESS ATT

⇒ ボタンを押しながら **ATT** ボタンを押す



⇒ ボタンを押しながら

ATT ボタンを押す

↑ALL CLEAR: DONE

《DONE》表示で全ての設定は初期設定に戻る

演奏方法

本機とオーディオ/ビデオ機器の入・出力、スピーカーの設置・接続を確認し、本機の基本設定や一般的な設定が終了したら実際に演奏してみましょう。

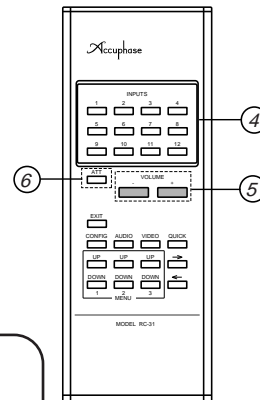
ソースに最適な音声や映像をお楽しみいただくために、いろいろな演奏メニューが用意されています。希望に応じてメニューを呼び出し、設定を変更してください。

接続・設定の確認をします

- ・スピーカー設定：演奏するフォーマットに応じてスピーカー設定を確認
- ・映像端子の割り当て等
- ・ボリュームは下げた状態



リモート・コマンダー

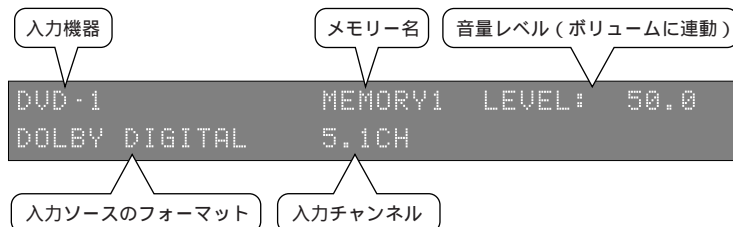


操作方法

- ① 本機や接続機器の電源を入れます。
- ② ソース側機器を演奏状態にします。
- ③ エフェクト・モードを「TruSurround」(初期設定) ⇄ 「DIRECT」に変更します。 ●●▶ P61, 62
- ④ 入力セクターで希望する演奏ソースを選択します。
 - ・本機が認識できる信号で記録された入力は、その音声フォーマットを自動的に選択して演奏します。
 - ・ディスプレイに入力端子(入力機種) メモリー、ボリューム、入力ソース名、エフェクト・モードなどが表示されます。
 - ・映像は各入力端子に割り当てられていますから、入力を選択すれば同時に映像も切り替わります。
- ⑤ ボリュームで音量を調節します。
 - ・音量(レベル)が、ディスプレイ上に表示されます。
- ⑥ アッテネーター・ボタンを押すと、瞬時に音量を下げるができます
 - ・アッテネーター・レベルの初期設定は-20dBです。

演奏時のディスプレイ例

ドルビー・デジタル5.1chソースを「DIRECT」演奏



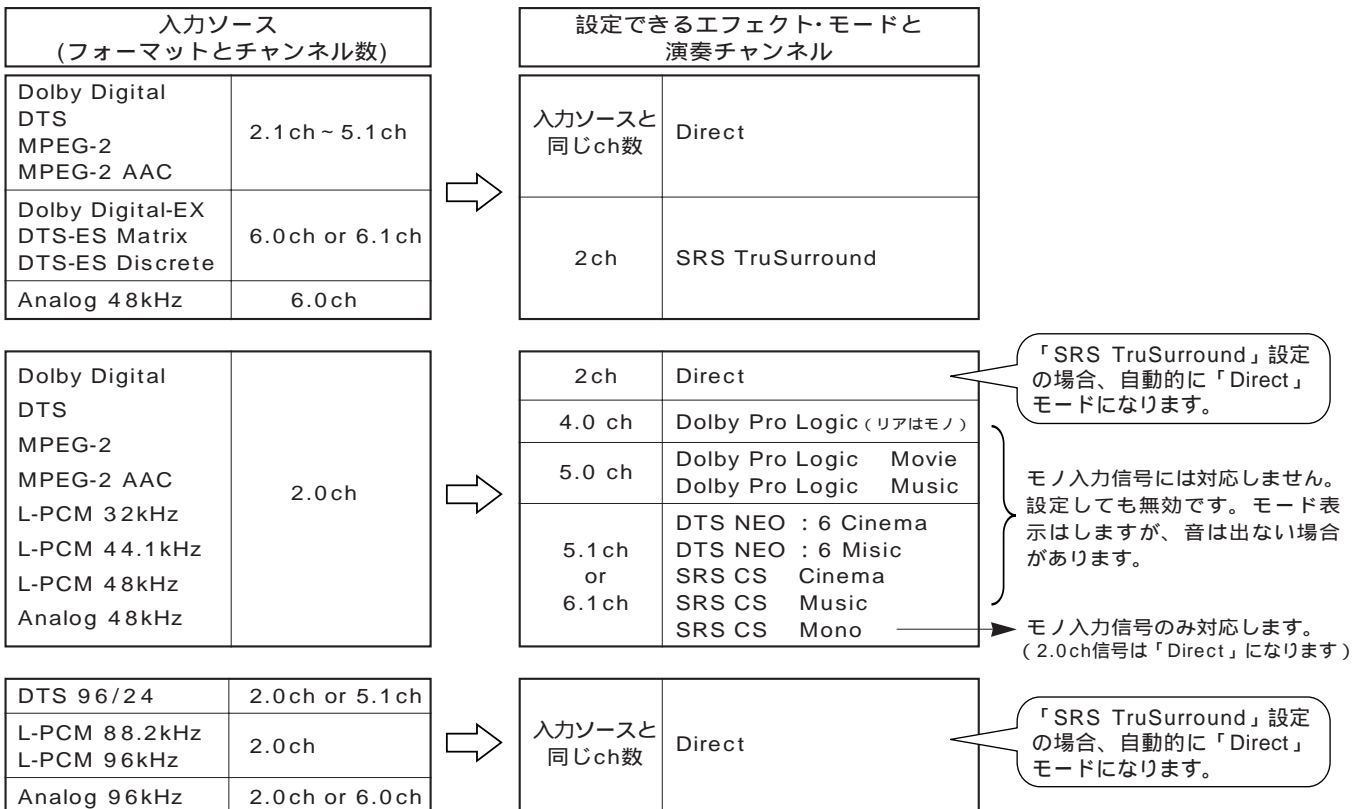
注意

デジタル・オーディオ入力の場合、演奏するプレーヤーによって、PLAY操作後のデジタル信号の出力されるまでの時間が異なり、音楽ソースの頭部分が欠ける場合があります。その時は、プレーヤーのFRスイッチ等で曲の先頭に戻してください。DG-28/DG-38およびDF-35などを接続している場合にも同様です。

入力ソースとエフェクト・モードの組み合わせ

本機は、入力ソースをそのままのフォーマットで演奏する（DIRECT）以外に、いろいろなサラウンド・デコーダー（ドルビー・プロロジック、DTS NEO: 6、SRS 等）を搭載していますから、最適なエフェクト・モードとの組み合わせで演奏を楽しむことができます。

- * 入力フォーマットや各種サラウンド・モードの特長は84～89ページ参照。
- * エフェクト・モードは、メニューから、**AUDIOモード** **EFFECT MODE** で設定します（次項参照）。
- * エフェクト・モードの「Direct」は、入力ソースと同じフォーマットとチャンネル数で演奏します。



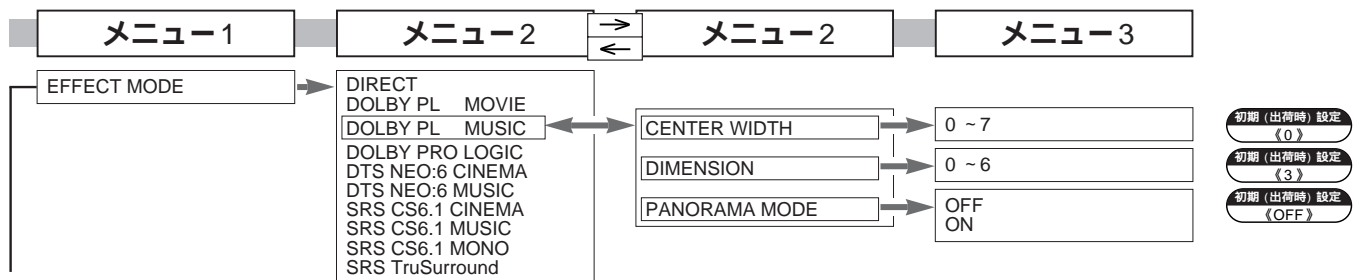
- * 上の表以外でのエフェクト・モードの組み合わせは、設定しても無効となります。
- また、サンプリング周波数88.2kHz、96kHzソースは、「Direct」モードの演奏となります。
- * 「DTS NEO: 6」および「SRS CS」は、設定してあるスピーカーに応じて、5.1chまたは6.1ch演奏になります。

エフェクト・モードの設定・EFFECT MODE

本機はたくさんのサラウンド・モードを搭載しています。入力したソースに対して、PRO LOGIC、CIRCLE SURROUND、NEO: 6、TruSurroundなどのサラウンド・モードを選択して演奏を楽しむことができます。

「EFFECT MODE」の同メニューが「QUICK」モードにもあります。「QUICK」モードの設定は演奏中のみの変更で、保存しません。

- * エフェクト・モードの初期設定は、『TruSurround』（トゥルーサラウンド）です。
 - アナログ2chやリニアPCM 2ch信号の場合 自動的に通常のステレオ演奏
 - アナログ6ch (48 kHz) やドルビー・デジタル、DTSなど2.1ch以上のマルチch信号の場合 『TruSurround』によるフロント・スピーカー2本でのバーチャル・サラウンド演奏



[AUDIO] ボタンを1秒以上押す

MENU 1で 『EFFECT MODE』を選択

MENU 2で 希望のエフェクト・モードを選択

*エフェクト・モードを設定すると、ディスプレイ上にサラウンド名が表示されます。

*各サラウンドに適するスピーカーが設定されていないと、正常なサラウンド効果が得られません。



エフェクト・モードの種類

DIRECT

入力時のフォーマットそのままの信号を出力します。

PRO LOGIC (ドルビー・プロロジック 2) :

2ch ソース ⇔ 5.0ch 再生

【MOVIE】(映画再生に適したモード)

↑EFFECT MODE *DOLBY PLII MOVIE

【MUSIC】(音楽再生に適したモード)

↑EFFECT MODE *DOLBY PLII MUSIC

パラメーター設定へ

次の3つのパラメーターを用意しています。

➡ ボタンを押して、メニュー2でパラメーターを選択、メニュー3で設定

各画面で、⬅ ボタンを押すと、前のメニューに戻る

① CENTER WIDTH (センター・ウィズ)

↑DOLBY PLII MUSIC *CENTER WIDTH *1

センター音声の左右への振り分けを調整

可変範囲 : 0 ~ 7 初期設定 : 《0》

0 : センターのみ、

7 : L/Rchのみからセンター音声が出力

② DIMENSION (ディメンション)

↑DOLBY PLII MUSIC *DIMENSION *3

フロントとリアのレベル差を調整

可変範囲 : 0 ~ 6 初期設定 : 《3》

数字を下げるとリア側、上げるとフロント側が強くなる

③ PANORAMA MODE (パノラマ・モード)

↑DOLBY PLII MUSIC *PANORAMA MODE *OFF

ON : フロントL/Rの音声を左右に大きく拡げて、サラウンド効果を強くする

DOLBY PRO LOGIC : 2ch ソース ⇔ 4.0ch 再生

↑EFFECT MODE *DOLBY PRO LOGIC

DOLBY PRO LOGIC 再生互換モード

ドルビー・サラウンド録音ソースに対して、忠実なデコードを行う。サラウンド・チャンネルはモノになります。

DTS NEO: 6 : 2ch ソース ⇔ 6.1ch 再生

CINEMA(映画ソース)

↑EFFECT MODE *DTS NEO:6 CINEMA

MUSIC(音楽ソース)

↑EFFECT MODE *DTS NEO:6 MUSIC

CIRCLE SURROUND (サークル・サラウンド) :

モノおよび2chソース ⇔ 6.1ch再生

5.1chのスピーカー設定にサラウンドバック・スピーカーを追加します。

フロントL/RとLFE(サブウーファー)に[TruBass(トゥルー・ベース) : 低音増強機能]が作動し豊かな低音を再生することが可能です。●●▶ P88

CINEMA(映画ソース)

↑EFFECT MODE *SRS CSII CINEMA

MUSIC(音楽ソース)

↑EFFECT MODE *SRS CSII MUSIC

MONO(モノフォニック・ソース)

↑EFFECT MODE *SRS CSII MONO

TruSurround(トゥルーサラウンド) :

2つのスピーカーでマルチchサラウンドを再生
ドルビーデジタルやDTSなどのディスクリート5.1ch

⇔ 2chでバーチャル・マルチサラウンド演奏

↑EFFECT MODE *SRS TruSurround

各種入力ソースと演奏ディスプレイの表示例

DVD プレーヤーや衛星放送などデジタル・ソースの演奏

入力信号を入力セクターで選択すると、各種音声フォーマットを表示して演奏します。エフェクト・モードでサラウンドを設定すると、ディスプレイ 2 行目に、そのサラウンド(デコード)名が表示されます。

- * 「ドルビー・デジタル」ソースは、BITSTREAM INFO “ON” の設定 (●●▶ P48) がしてあると、「Direct」の場合のみビット・レートとDN係数が表示されます。
- * 2.1ch ~ 6.0chのサラウンド・ソースは、エフェクト・モード「SRS TruSurround」で2chバーチャル・サラウンド演奏が可能です。
- * 2.0chソースは、エフェクト・モードで5.1chや6.1chのサラウンドでの演奏が可能です。ただし、モノ信号は「SRS サークルサラウンド」のエフェクト・モードのみ有効です。
- * 「DTS 96/24」ソースは、「Direct」のみの演奏となります。

ドルビー・デジタル

DIRECT (5.1ch)

DVD-1 MEMORY1 LEVEL: MINIMUM
DOLBY DIGITAL 5.1CH [256kbps DN:31]

DIRECT (2.0ch)

DOLBY DIGITAL 2.0CH

BIT STREAM INFO “ON” で表示

SRS TruSurround (5.1ch 2.0ch)

DOLBY DIGITAL 5.1CH SRS TruSurround

ドルビー・プロロジック MOVIE (2.0ch 5.0ch)

DOLBY DIGITAL 2.0CH DOLBY PLII MOVIE

NEO: 6 Cinema (2ch 6.1ch)

DOLBY DIGITAL 2.0CH DTS NEO:6 CINEMA

SRS CS6.1 Music (2.0ch 6.1ch)

DOLBY DIGITAL 2.0CH SRS CS6.1 MUSIC

ドルビー・デジタルEX

DIRECT (6.1ch)

DOLBY DIGITAL EX MATRIX

SRS TruSurround (6.1ch 2.0ch)

DOLBY DIGITAL EX MATRIX SRS TruSurround

DTS

DIRECT (5.1ch)

DTS 5.1CH

SRS TruSurround (5.1ch 2.0ch)

DTS 5.1CH SRS TruSurround

ドルビー・プロロジック Music (2.0ch 5.0ch)

DTS 2.0CH DOLBY PLII MUSIC

NEO: 6 Cinema (2ch 6.1ch)

DTS 2.0CH DTS NEO:6 CINEMA

SRS CS6.1 Cinema (2ch 6.1ch)

DTS 2.0CH SRS CS6.1 CINEMA

DTS 96/24

DIRECT (2.0ch)

DTS 96/24 2.0CH

DTS-ESマトリックス 6.1ch

DIRECT (6.1ch)

DTS-ES MATRIX 6.1CH

SRS TruSurround (6.1ch 2.0ch)

DTS-ES MATRIX 6.1CH SRS TruSurround

DTS-ESディスクリート 6.1ch

DIRECT (6.1ch)

DTS-ES DISCRETE 6.1CH

SRS TruSurround (6.1ch 2.0ch)

DTS-ES DISCRETE 6.1CH SRS TruSurround

MPEG2 AAC

DIRECT (5.1ch)

MPEG-2 AAC 5.1CH

ドルビー・プロロジック Music (2.0ch 5.0ch)

MPEG-2 AAC 2.0CH DOLBY PLII MUSIC

DTS NEO: 6 Cinema (2.0ch 6.1ch)

MPEG-2 AAC 2.0CH DTS NEO:6 CINEMA

MPEG2

DIRECT (2.0ch)

MPEG-2 2.0CH

DTS Neo: 6 Music (2.0ch 6.1ch)

MPEG-2 2.0CH DTS NEO:6 MUSIC

SRS CS6.1 Music (2.0ch 6.1ch)

MPEG-2 2.0CH SRS CS6.1 MUSIC

DVD、衛星放送等の2chデジタル音楽ソース(リニアPCM)の演奏 CDトランスポート、MDなど2chデジタルソースの演奏

* サンプル周波数 88.2kHz、96kHzソースは、「Direct」演奏のみとなります。

48/kHz以下のソースは、エフェクト・モードが可能です。

* 2行目に、《L-PCM》、サンプル周波数、チャンネル数を表示します。

DIRECT (96kHz) L-PCM 96kHz 2.0CH	ドルビー・プロロジック Cinema (2.0ch 5.0ch) L-PCM 44.1kHz 2.0CH DOLBY PLII CINEMA
DIRECT (48kHz) L-PCM 48kHz 2.0CH	ドルビー・プロロジック Music (2.0ch 5.0ch) L-PCM 48kHz 2.0CH DOLBY PLII MUSIC
DIRECT (44.1 kHz) L-PCM 44.1kHz 2.0CH	DTS Neo: 6 Music (2.0ch 6.1ch) L-PCM 48kHz 2.0CH DTS NEO:6 MUSIC
	SRS CS6.1 Music (2.0ch 6.1ch) L-PCM 44.1kHz 2.0CH SRS CSII MUSIC

DVD/CD/MDプレーヤー、衛星放送、FMチューナーなどアナログ2chソース(8,9番端子)の演奏

* サンプル周波数の初期設定は48kHzになっています。48kHzは、エフェクト・モードが使用可能です。

* サンプル周波数を96kHzに変更した場合は、「Direct」演奏のみとなります。

* 2行目に、《ANALOG》、サンプル周波数、チャンネル数を表示します。

DIRECT (48kHz) ANALOG-IN MEMORY4 LEVEL: 50.0 ANALOG IN 48kHz 2.0CH	ドルビー・プロロジック Music (2.0ch 5.0ch) ANALOG IN 48kHz 2.0CH DOLBY PLII MUSIC
DIRECT (96kHz) ANALOG IN 96kHz 2.0CH	DTS Neo: 6 Music (2.0ch 6.1ch) ANALOG IN 48kHz 2.0CH DTS NEO:6 MUSIC
	SRS CS6.1 Music (2.0ch 6.1ch) ANALOG IN 48kHz 2.0CH SRS CSII MUSIC

アナログ6chソース(10番端子)の演奏

* サンプル周波数の初期設定は《48kHz-6ch》になっています。48kHzは、エフェクト・モードが可能です。

* サンプル周波数を96kHzに変更した場合は、「DIRECT」演奏のみとなります。

* 2行目に、《ANALOG》、サンプル周波数、チャンネル数を表示します。

DIRECT (96kHz/6ch) ANALOG-10 MEMORY5 LEVEL: 50.0 ANALOG IN 96kHz 5.1CH	ドルビー・プロロジック Music (48kHz/2.0ch 5.0ch) ANALOG IN 48kHz 2.0CH DOLBY PLII MUSIC
	SRS TruSurround (48kHz/6.0ch 2.0ch) ANALOG IN 48kHz 5.1CH SRS TruSurround

いろいろな演奏と設定方法

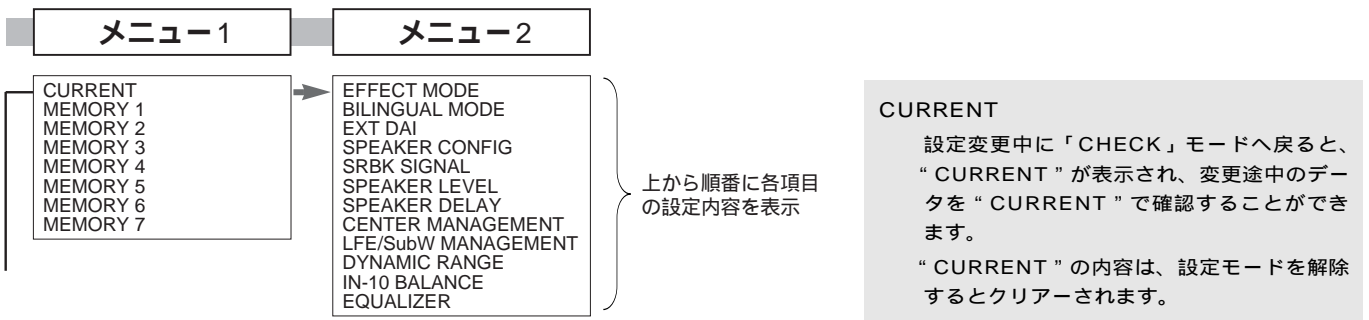
本機は、一般的な機能以外に演奏を楽しむための多彩な機能を装備しています。各種入力フォーマットに対して、最良な演奏を楽しむことができるように、設定を変更して適切な機能調整をしてください。また、演奏の間だけ設定を変更できるQUICKモードもあります。

AUDIO : 7パターンのメモリー内容を確認・・・[CHECK]

現在保存・記憶している7パターンのメモリー、それぞれの設定内容を確認することができます。

* 7パターンのメモリーは全てAUDIOモードでの設定メニューです。

* 入力セレクターは任意のポジションで確認することができます。



[AUDIO] ボタンを押す

画面はAUDIOの「CHECK」モードに変わる

MENU 1で 内容を確認したいメモリー名を選択

MENU 2で 設定項目を選択すると設定内容を順番に表示

```
[CHECK] 1MEMORY1 2EFFECT MODE
DIRECT
```

MEMORY1の内容確認

最初は「EFFECT MODE」の設定内容を表示

[各項目の表示例を示す]

EFFECT MODE・・・エフェクト・モード

```
[CHECK] 1MEMORY1 2EFFECT MODE 1/2
DOLBY PLII MUSIC
```

Dolby Pro Logic 《MUSIC》

```
[CHECK] 1MEMORY1 2EFFECT MODE 2/2
WIDTH:7 DIMENSION:5 PANORAMA:OFF
```

センター・ウィズス
7

ディメンション
5

パノラマ・モード
OFF

```
[CHECK] 1MEMORY1 2EFFECT MODE 1/2
DTS NEO:6 CINEMA
```

DTS NEO: 6 シネマ

```
SRS TruSurround
```

SRS トゥルーサラウンド

BILINGUAL MODE・・・バイリンガル・モード

```
[CHECK] 1MEMORY1 2BILINGUAL MODE
MAIN/MAIN
```

EXT DAI・・・外部機器の接続

MENU 2で [L/R] [A/B] [C/D] [E/F] の順に表示

```
[CHECK] 1MEMORY1 2EXT DAI L/R
NO CONNECTION
```

L/R 端子には外部機器は接続しない

```
EXT D/A
```

外部DACを接続

```
EXT DSP:INT CLK
```

DG-28/DG-38を接続

SPEAKER CONFIG ... スピーカー設定

MENU 2 で **FRONT** **SR A/B** **CENT C**
SubW D **SRBK E** **ASSIGN F** の順に表示

```
[CHECK] 1MEMORY1 *SPEAKER CONFIG: FRONT
LARGE
```

フロントL/R・スピーカーは「LARGE」

サラウンドA/Bスピーカー

```
[CHECK] 1MEMORY1 *SPEAKER CONFIG: SR A/B
SMALL LOW CUT 90Hz : -48dB/oct
```

《SMALL》

低域カット周波数
90Hz

スロープ
-48dB/oct

センター・スピーカーC

```
[CHECK] 1MEMORY1 *SPEAKER CONFIG: CENT C
SMALL LOW CUT 100Hz : -24dB/oct
```

《SMALL》

低域カット周波数
100Hz

スロープ
-24dB/oct

```
[CHECK] 1MEMORY1 *SPEAKER CONFIG: SubW D
SubW ONLY
```

サブウーファーのみから出力

サブウーファーD

サラウンド・バックE

```
[CHECK] 1MEMORY1 *SPEAKER CONFIG: SRBK E
SMALL LOW CUT 125Hz : -18dB/oct
```

《SMALL》

低域カット周波数
125Hz

スロープ
-18dB/oct

```
[CHECK] 1MEMORY1 *SPEAKER CONFIG: F
SRBK 2
```

サラウンド・バック2に設定

Fチャンネルの設定

```
SubW 2
```

Fチャンネルをサブウーファー2に設定

SRBK SIGNAL ... サラウンド・バック信号の出力方法

```
[CHECK] 1MEMORY1 *SRBK SIGNAL
AUTO DETECT
```

《AUTO DETECT》に設定

SPEAKER LEVEL ... スピーカー・レベル

MENU 2 で **LEFT** **CENT C** **RIGHT** **SR-L A** **SR-R B**
SRBK E **SRBK F** **SubW D** **SubW F** の順に表示

レベルの単位: dB

```
[CHECK] 1MEMORY1 *SPK LEVEL [dB] 1/4
LEFT :- 1.0 CENT C: + 6.5 RIGHT :- 1.2
```

フロント左
-1dB

センターC
+6.5dB

フロント右
-1.2dB

```
[CHECK] 1MEMORY1 *SPK LEVEL [dB] 2/4
SR-L A: - 5.0 SR-R B: - 5.2
```

サラウンド左
-5.0dB

サラウンド右
-5.2dB

```
[CHECK] 1MEMORY1 *SPK LEVEL [dB] 3/4
SRBK E: -10.5 SRBK F: -10.0
```

サラウンド・バックE
-10.5dB

サラウンド・バックF
-10.0dB

```
[CHECK] 1MEMORY1 *SPK LEVEL [dB] 4/4
SubW D: + 3.0 SubW F: - - - -
```

サブウーファーD
+3.0dB

Fチャンネルはサブウーファー
に設定していない

SPEAKER DELAY ... スピーカー・ディレイ

MENU 2 で **LEFT** **CENT C** **RIGHT** **SR-L A** **SR-R B**
SRBK E **SRBK F** **SubW D** **SubW F** の順に表示

ディレイの単位: meter

```
[CHECK] 1MEMORY1 *SPK DELAY [meter] 1/4
LEFT : 3.50 CENT C: 3.00 RIGHT : 3.50
```

フロント左
3.5m

センターC
3m

フロント右
3.5m

```
[CHECK] 1MEMORY1 *SPK DELAY [m] 2/4
SR-L A: 3.50 SR-R B: 3.50
```

サラウンド左
3.5m

サラウンド右
3.5m

```
[CHECK] 1MEMORY1 *SPK DELAY [m] 3/4
SRBK E: 3.00 SRBK F: 3.00
```

サラウンド・バックE
3m

サラウンド・バックF
3m

```
[CHECK] 1MEMORY1 *SPK DELAY [m] 4/4
SubW D: 3.00 SubW F: - - - -
```

サブウーファーD
3m

Fチャンネルはサブウーファー
に設定していない

CENTER MANAGEMENT ・ ・ センター調整

```
[CHECK] *MEMORY1 *CENTER MANAGEMENT
LEVEL: +6.0dB HEIGHT:+5
```

ダイアログ・レベル
+6.0dB

声の高さ方向
《+5》段階

LFE/SubW MANAGEMENT

・ ・ サブウーファー調整 (レベルとピーク・リミッター)

```
[CHECK] *MEMORY1 *LFE/SUBW MANAGEMENT
LFE LEVEL:+10.0dB SubW LIMITER: OFF
```

レベルを10dB上げる

ピーク・リミッターはOFF

DYNAMIC RANGE ・ ・ ダイナミック・レンジ

```
[CHECK] *MEMORY1 *DYNAMIC RANGE
MAX
```

ダイナミック・レンジを圧縮しない

IN-10 BALANCE ・ ・ アナログ10番端子の入力バランス

MENU 2で **LEFT** **CENT C** **RIGHT** **SR-L A** **SR-R B**
SubW D の順に表示

```
[CHECK] *MEMORY1 *IN-10 BALANCE[dB] 1/3
LEFT : 0.0 CENT C:+ 5.0 RIGHT : 0.0
```

フロント左
0dB

センターC
+5dB

フロント右
0dB

```
[CHECK] *MEMORY1 *IN-10 BALANCE[dB] 2/3
SR-L A:+ 2.0 SR-R B:+ 2.5
```

サラウンド左
+2.0dB

サラウンド右
+2.5dB

```
[CHECK] *MEMORY1 *IN-10 BALANCE[dB] 3/3
SubW D:+ 6.0
```

サブウーファーD
+6dB

EQUALIZER ・ ・ イコライザー特性

MENU 2で **LEFT** **RIGHT** **CENT C** **SR-L A**
SR-R B **SRBK** の順に表示

レベル単位: dB フロント左

```
[CHECK] *MEMORY1 *EQ [dB] LEFT
10kHz:+ 0.2 20kHz:- 3.0
```

10kHz: +0.2dB

20kHz: 3.0dB

フロント右

```
[CHECK] *MEMORY1 *EQ [dB] RIGHT
10kHz:+ 0.5 20kHz:- 2.0
```

10kHz: +0.5dB

20kHz: 2.0dB

センターC

```
[CHECK] *MEMORY1 *EQ [dB] CENT C 1/2
100Hz: 0.0 300Hz: 0.0 1kHz:+ 2.5
```

100Hz: 0dB

300Hz: 0dB

1kHz: +2.5dB

センターC

```
[CHECK] *MEMORY1 *EQ [dB] CENT C 2/2
3kHz:+ 3.2 10kHz:+ 4.5 20kHz:+ 5.0
```

3kHz: +3.2dB

10kHz: +4.5dB

20kHz: +5.0dB

サラウンド左 A

```
[CHECK] *MEMORY1 *EQ [dB] SR-L A 1/2
100Hz: 0.0 300Hz: 0.0 1kHz:- 1.0
```

サラウンド右 B

```
[CHECK] *MEMORY1 *EQ [dB] SR-R B 1/2
100Hz: 0.0 300Hz: 0.0 1kHz:- 1.0
```

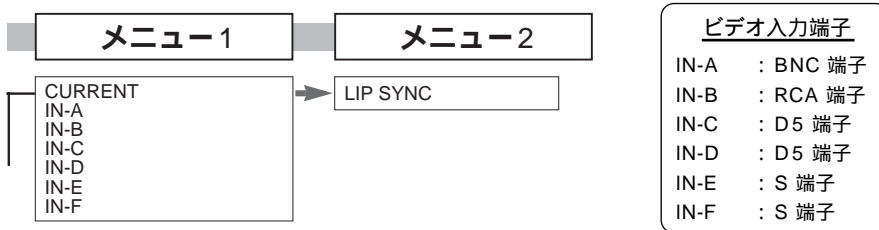
サラウンド・バック

```
[CHECK] *MEMORY1 *EQ [dB] SRBK 1/2
100Hz: 0.0 300Hz: 0.0 1kHz:- 1.0
```

VIDEO : ビデオ入力端子の設定内容を確認・・・ [CHECK]

各ビデオ入力端子が現在記憶している設定内容を確認することができます。

* 入力セクターは任意のポジションで確認することができます。



[VIDEO] ボタンを押す

画面はVIDEO「CHECK」モードに変わる

MENU 1で 内容を確認したいビデオ入力端子を選択

標準装備の『VOX-1』の場合は、『LIP SYNC』機能のみで、その設定内容を表示

CURRENT

設定変更中に「CHECK」モードへ戻ると、「CURRENT」が表示され、変更途中のデータを「CURRENT」で確認することができます。

「CURRENT」の内容は、設定モードを解除するとクリアされます。

[CHECK]

①IN-A BNC ②LIP SYNC: 0.0FRAME

①IN-C D5 ②LIP SYNC: 5.3FRAME

CのD5端子の内容を確認

「リップシンク」機能
音声が《5.3 フレーム》遅れる

QUICK モードの活用

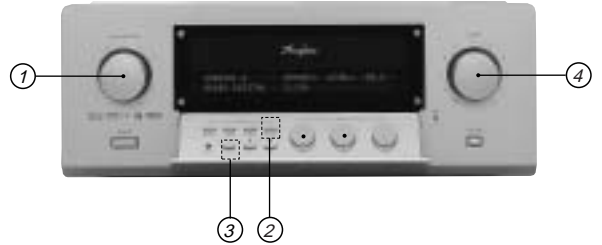
演奏中に『ちょっと設定を変更してみたい』ときに使用します。「エフェクト・モード」、「他のメモリーで演奏」、「フロントL/Rのモード」、「センター、サブウーファー、リア側スピーカーのレベル」などの設定を変更することができます。

入力セクターから演奏する入力端子を選択します。

[QUICK] ボタンを押して設定モードに入り、希望の設定変更をします。

変更後は、[EXIT] ボタンを押すと演奏モードに戻ります。

ボリュームを調整して演奏をお楽しみください。



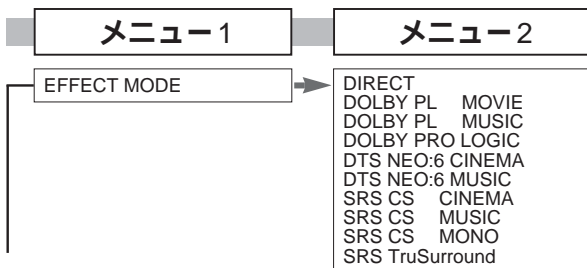
QUICK モードでの変更内容は記憶・保存しません。

変更内容は、『入力セクターを回す』または『電源スイッチをOFF』にするまで有効です。

他のエフェクト・モードに変えて演奏・・・EFFECT MODE

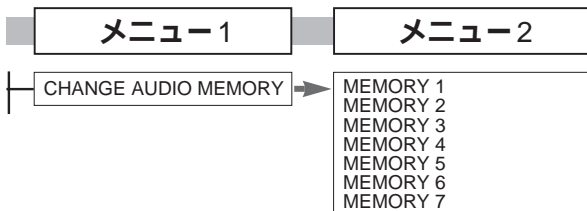
AUDIOモード内のメニュー「EFFECT MODE」と同一です。ただし、《DOLBY PL MUSIC》のパラメーター設定はできません。

詳しい説明は62ページを参照してください。



他のメモリー内容に変えて演奏・・・CHANGE AUDIO MEMORY

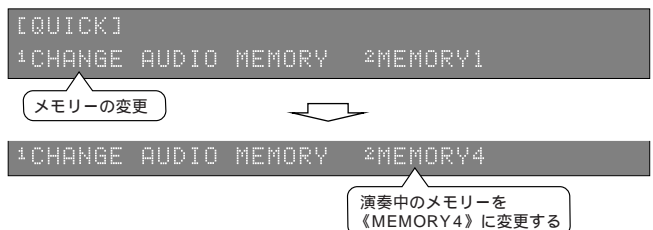
AUDIOモードの設定内容は、7パターンのメモリーに記憶・保存されています。現在演奏中の入力端子に記憶されているメモリーを変更して、他のメモリー内容で演奏を楽しむことができます。



MENU 1で 「CHANGE AUDIO MEMORY」を選択

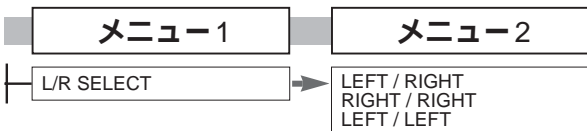
MENU 2で 変更するメモリーを選択

メモ : 《AUDIO MEMORY NAME》でメモリー名称が変更されている場合は、変更後の名称が表示されます。



フロントL/R 信号の出力選択・・・L/R SELECT

フロント・スピーカーL/R に対して、通常のステレオ演奏から、片チャンネルの信号をL/Rスピーカーから再生に切り替えることができます。例えば、左右での2ヶ国語放送などの場合に有効な機能で、好みのチャンネルに切り替えることができます。



MENU 1で 「L/R SELECT」を選択

```
[QUICK]
1L/R SELECT 2LEFT/RIGHT
```

MENU 2で モードを選択

```
1L/R SELECT 2LEFT/LEFT
```

モードの種類

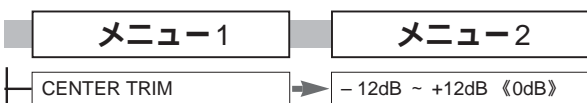
- LEFT/RIGHT : 通常のステレオ演奏
- RIGHT/RIGHT : L/Rスピーカーともフロント右の信号を出力
- LEFT/LEFT : L/Rスピーカーともフロント左の信号を出力

L/R SELECT

左右スピーカーからLEFT信号を出力

センター・チャンネルのレベル調整・・・CENTER TRIM

演奏を楽しみながら、センター・チャンネルのレベルを調整することができます。



初期 (出荷時) 設定
《0 dB》

MENU 1で 「CENTER TRIM」を選択

```
[QUICK]
1CENTER TRIM 20.0dB
```

MENU 2で センター・チャンネルのレベル値を選択

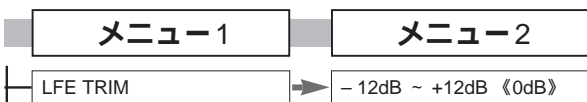
```
1CENTER TRIM 2+ 3.5dB
```

調整範囲 : -12.0dB ~ +12.0dB (0.1dB ステップ)

センターを +3.5dB上げて演奏

LFEのレベル調整・・・LFE TRIM

演奏を楽しみながら、LFE (サブウーファー・チャンネル) のレベルを調整することができます。



初期 (出荷時) 設定
《0 dB》

MENU 1で 「LFE TRIM」を選択

```
[QUICK]
1LFE TRIM 20.0dB
```

MENU 2で サブウーファーchのレベル値を選択

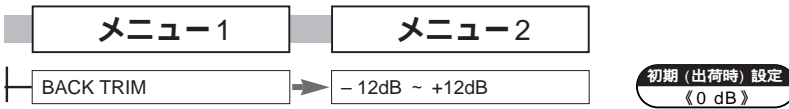
```
1LFE TRIM 2+ 4.0dB
```

調整範囲 : -12.0dB ~ +12.0dB (0.1dB ステップ)

サブウーファーを +4.0dB上げて演奏

リア側チャンネルのレベル調整・・・BACK TRIM

演奏を楽しみながら、リア側（サラウンドA/Bとサラウンド・バック）チャンネルのレベルを変えて前後の音量バランスを調整することができます。



MENU 1で 『BACK TRIM』を選択

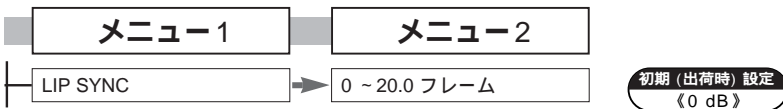
MENU 2で リア側チャンネルのレベル値を選択

調整範囲 : -12.0dB ~ +12.0dB (0.1dB ステップ)

リア側を3.0dB下げて演奏

画像に対して音声を遅らせる・・・LIP SYNC

音声を遅らせて、映像とのタイミングを調整することができます。
「VIDEO SETUP」⇔「LIP SYNC」と同じメニューです（・・・▶ P81）



MENU 1で 『LIP SYNC』を選択

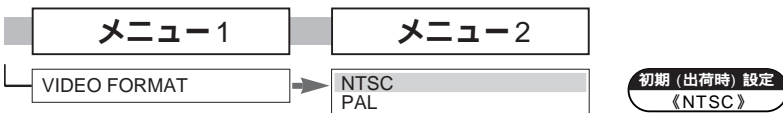
MENU 2で フレーム値（ディレイ）を選択

調整範囲 : 0 ~ 20.0 フレーム (0.1ステップ)

音声を6.3フレーム遅らせる

Sビデオ端子の入力信号方式を切り替える・・・VIDEO FORMAT

Sビデオ端子のビデオ入力信号方式を選択することができます。
「CONFIG」モード⇔「VIDEO FORMAT」と同様のメニューです。・・・▶ P47



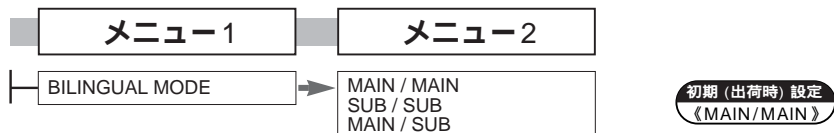
MENU 1で 「VIDEO FORMAT」を選択

MENU 2で NTSC/PALを選択

入力信号方式を選択

バイリンガル・モードの設定・・・BILINGUAL MODE

入力されたソースに複数の言語が入っている場合、MAIN(主音声)/SUB(副音声)の出力内容を設定します。バイリンガル・モードは、AAC ソースやドルビーデジタル・ソースなどで、二重音声の情報がある場合に有効です。『二重音声の情報がないソース』および『端子 8 ~ 10 に入力したアナログ信号』に対しては、設定しても無効です。



AUDIO ボタンを 1 秒以上押す

MENU 1 で 『BILINGUAL MODE』を選択

MENU 2 で 音声出力モードを選択

MAIN / MAIN	スピーカーL/R から主音声
SUB / SUB	スピーカーL/R から副音声
MAIN / SUB	スピーカーL 主音声/R 副音声

1 BILINGUAL MODE 2 MAIN/MAIN

↓

1 BILINGUAL MODE 2 SUB/SUB

↓

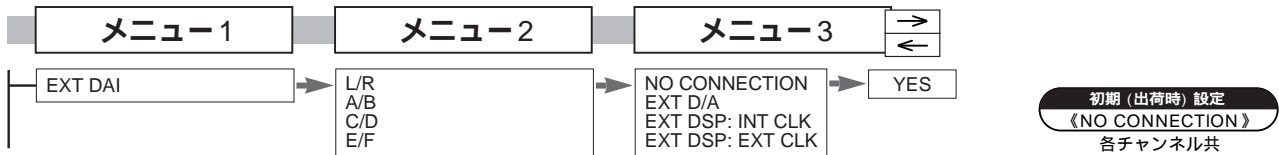
スピーカーL/Rは副音声で演奏

DIGITAL AUDIO 端子に外部機器を接続する・・・EXT DAI

リアパネルのDIGITAL AUDIO 端子に外部機器を接続して演奏する場合の設定です。

DG-28/DG-38を接続して各スピーカーを音場補正する場合の接続のしかた・・・▶ P17

外部DACを使用したサラウンド演奏する場合の接続のしかた・・・▶ P18



AUDIO ボタンを1秒以上押す

MENU 1で 『EXT DAI』を選択

MENU 2で 外部機器を接続したいチャンネルを選択

- L/R フロントL/R
- A/B サラウンドL/R
- C/D C：センター、D：サブウーファー
- E/F E：サラウンド・バック、F：スピーカー設定による(サブウーファー2またはサラウンド・バック2)

MENU 3で 接続内容等を選択

→ ボタンを押すと、《DONE》と表示が変わり確定する。



接続内容

- NO CONNECTION 初期設定。外部機器を接続しない
- EXT D/A 外部のD/Aコンバーターを使用して演奏
- EXT DSP：INT CLK DG-28またはDG-38を接続して音場補正する場合、通常はここを選択
- EXT DSP：EXT CLK DG-28/DG-38または他の外部機器を接続して、「INT CLK」でサンプリング周波数をロックしない場合

MENU 2で 次のチャンネルに進む

- L/R** **A/B** **C/D** **E/F**



注意 アナログ入力で、DG-28/DG-38を接続する場合はサンプリング周波数の設定を確認・・・▶ P45

DG-28/DG-38による音場補正(調整)の方法

希望のチャンネルにDG-28/DG-38を接続して、接続機器の電源を入れる。・・・▶ P17

AUDIO ボタンを1秒以上押して、AUDIO設定モードに入る。

スピーカー設定で、DG-28/DG-38を接続したチャンネルが《NONE》でないことを確認する。・・・▶ P30

《EXT DAI》メニューで、DG-28/DG-38を接続したチャンネルが《EXT DSP：INT CLK》設定になっていることを確認する。・・・▶ P73

SPEAKER MANUAL ADJUST ⇔ **START** ⇔ **TEST SIGNAL** メニューから《DIGITAL EQ SETUP》ポジションにする。・・・▶ P37



DG-28/DG-38による音場補正(調整)を開始する。

測定用マイクロフォンはDG-28/DG-38に付属しています(VX-700に付属しているマイクロフォンと同じですが、マイクロフォン・コードが異なります)。

測定のテスト・トーンは、DG-28/DG-38から出力します。

センター(C)とサブウーファー(D)は、片チャンネルずつ補正(調整)します。

* マイクロフォンの設置や詳しい測定方法は、DG-28/DG-38の取扱説明書を参照してください。

音場補正(調整)終了後は、**EXIT** ボタンを押して演奏モードに戻る。

(保存《YES》,《NO》は、手順 のみの変更の場合はどちらでも無関係ですが、手順 で設定変更した場合は

→ ボタンを押して保存してください。)

サラウンド・バック信号の再生方法 ・ ・ SRBK SIGNAL

ドルビー・デジタルまたはDTSで録音されたソースを再生する場合、サラウンド・バック信号の再生方法を選択することができます。

サラウンド・バックが《NONE》の場合は表示しません
デジタル入力時のみ有効です。



[AUDIO] ボタンを1秒以上押す

MENU 1で 『SRBK SIGNAL』を選択

MENU 2で サラウンド・バック信号の再生方法を選択

1SRBK SIGNAL 2AUTO DETECT

サラウンド・バック信号

AUTO DETECT :

専用の認識信号（フラグ）が記録されているソフトに有効となります。再生するソフトに応じて6.1chソフトは自動的にサラウンド・バックchを用いた6.1ch再生になり、5.1chソフトは、5.1ch再生となります。

ON :

ドルビー・デジタルまたはDTS 5.1chソースおよび認識信号（フラグ）が記録されていない6.1chソースに対して、マトリックス処理でサラウンド・バック信号を創り出し6.1ch演奏を行います。

AAC/MPEG 5.1ソースの場合は、この項目は無効になります。

OFF :

6.1ch再生をオフにします。サラウンド・バック信号があっても再生しません。

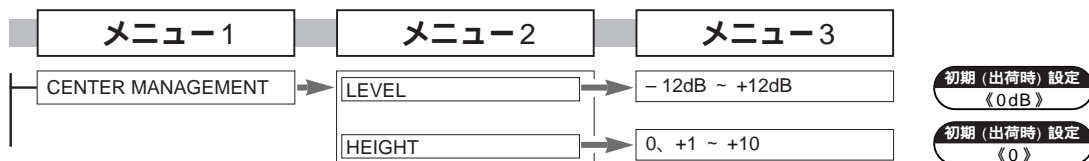
センター・チャンネルの調整・・・CENTER MANAGEMENT

センター・チャンネルのレベル設定と「声の出る位置(高さ方向)」を調整することができます。
 どちらの機能も、ソフトを再生しながら設定することができます。

レベル調整「LEVEL」はデジタル入力信号のみ有効です。アナログ信号(10番端子)は、「IN-10 BALANCE」(●●▶ P78)で調整してください。

*センターch から音声ができるサラウンド・ソースの場合に有効です。

*センター・スピーカー《NONE》の場合にも、動作は有効となります。



AUDIO ボタンを1秒以上押す

画面はAUDIO設定画面に変わる

MENU 1で 「CENTER MANAGEMENT」を選択

```
[AUDIO SETUP]
1CENTER MANAGEMENT 2LEVEL 3 0.0dB
```

センター・チャンネルの調整

レベル調整

MENU 2で 「LEVEL」を選択

```
1CENTER MANAGEMENT 2LEVEL 3 0.0dB
```

レベル

MENU 3で レベルを設定

```
1CENTER MANAGEMENT 2LEVEL 3 +6.5dB
```

センター・レベルを設定

調整範囲：-12dB ~ +12dB (0.1dBステップ)

センター・チャンネルの高さ調整

MENU 2で 「HEIGHT」を選択

```
1CENTER MANAGEMENT 2HEIGHT 3OFF
```

高さ調整

MENU 3で 高さ方向を調整

```
1CENTER MANAGEMENT 2HEIGHT 3+5
```

声の位置を上へ移動
(5段階)

HEIGHT

センター・スピーカーをスクリーンの下に設置した場合、セリフの音と画面がずれてしまいます。

音を縦方向に移動して画面と合わせる機能です。実際にソフトを再生しながら、音と画面が一致するように値を設定してください。

動作時：Circle Surround 『FOCUS』(フォーカス)が作動して機能が有効となります。

調整範囲：0、+1 ~ +10

メモ

ソフトによっては効果が得られにくい場合があります。

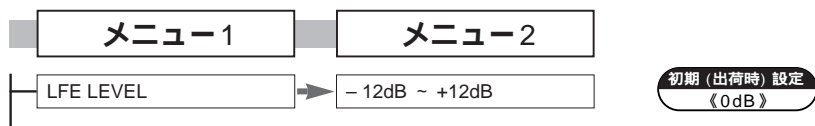
LFEチャンネルのレベル調整・・・LFE LEVEL

LFE（サブウーファーD）チャンネルのレベルを調整します。

ソフトを再生しながら、もっと重低音を出したいなどの場合有効な機能です。

「LFE LEVEL」調整はデジタル入力信号のみ有効です。アナログ信号（10番端子）は「IN-10 BALANCE」（・・・▶ P78）で調整してください。

*サブウーファーが《NONE》に設定されていても、設定レベルは有効です。



AUDIO ボタンを1秒以上押す

画面はAUDIO設定画面に変わる

MENU 1で 「LFE LEVEL」を選択



MENU 2で LFEのレベルを選択

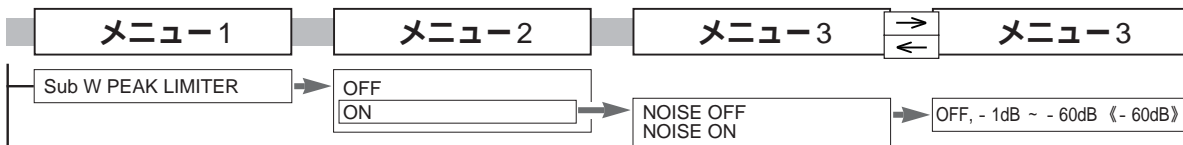


調整範囲：-12dB ~ +12dB (0.1dB ステップ)

サブウーファー・チャンネルのピーク・レベル設定 ・ Sub W PEAK LIMITER

ドルビー・デジタル、DTS 対応ソフトは、超低域の信号成分(LFE チャンネル)を多く含んでいます。この超低域信号成分がスピーカーの再生能力を超えると、再生音に歪みを生じたりスピーカーを破損する場合があります。このため耐入力の小さなサブウーファーの場合はリミッター機能により、スピーカーから歪みを生じる手前にピーク・レベルを設定し、出力を制限することができます。

初期(出荷時)設定：LIMITER 《OFF》



AUDIO ボタンを1秒以上押す

MENU 1で 『Sub W PEAK LIMITER』を選択

MENU 2で リミッター設定のON/OFFを選択
OFFを選択 リミッターの設定をしません。

MENU 1で次の項目へ

ONを選択 ボタンを押すとリミッター設定画面

MENU 2で テスト・ノイズ音のON/OFFを選択

MENU 3で リミッター値を選択

NOISE ONの場合：テスト・ノイズ音を確認しながら、
-60dBの低いレベル値から徐々に
レベル値を上げて行き、設定します。

調整範囲：OFF, -1dB ~ -60dB (1dB ステップ)
(OFFはリミッター設定しない)

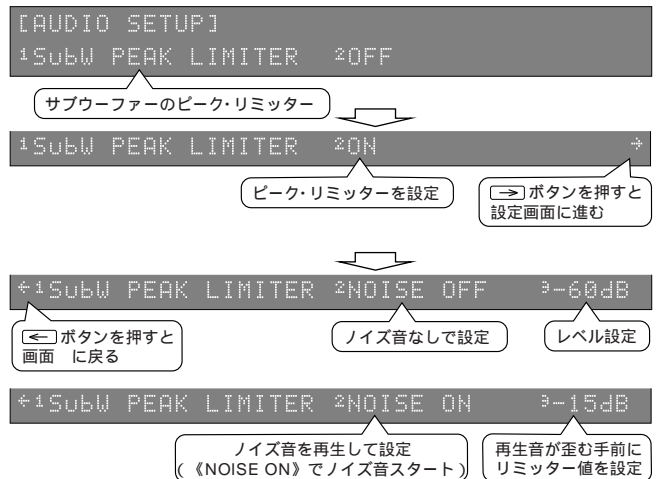
NOISE OFF

テスト・ノイズ音なしでリミッター値を設定します。

NOISE ON

マスター・ボリュームは無関係でサブウーファーからテスト・ノイズ音が出されます。

MENU 3で スピーカーからの音に歪みが生じる手前の数値を設定します。



注意

- * テスト・ノイズは低域の再生限界を確認するものですから、非常に大きなレベルで再生されます。耐入力の小さいスピーカーを使用する場合には、過大入力にならないよう十分に注意してください。
- * 耐入力の大きなスピーカーに対し、ピーク・レベルを低く設定し過ぎると、小出力でもリミッターが働き歪み音となります。ピーク・レベル設定の場合にはテスト・ノイズ音を再生しながら正しい設定をしてください。
- * アクティブ型サブウーファーを接続している場合には、サブウーファーの電源スイッチをONにしてください。最初はアッテネーターを絞った状態からスタートして、徐々にアッテネーターを上げてください。
- * サブウーファー設定で《SubW+FRONT》の場合：
テスト・ノイズはサブウーファーのみで、フロントからは出力しません。

ダイナミック・レンジ・・ DYNAMIC RANGE

ダイナミック・レンジは、最大音量から最小音量までの再生できる幅を表します。深夜、音量を下げて映画などを楽しむ場合、ダイナミック・レンジを圧縮することにより微かな音もノイズに埋もれず聴き取りやすくなります。また、大きな音も歪まずに再生することができます。

*ドルビーデジタル・ソフトの再生時のみ有効です。ソフトによっては効果の得られにくい場合があります。



[AUDIO] ボタンを1秒以上押す。

MENU 1で 『DYNAMIC RANGE』を選択。

```
[AUDIO SETUP]
1DYNAMIC RANGE 2MAX
```

ダイナミック・レンジ

MENU 2で 「MAX / STANDARD」を選択。

```
1DYNAMIC RANGE 2STANDARD
```

ダイナミック・レンジを圧縮する。

- MAX : ダイナミック・レンジを圧縮しない。
信号ソースのダイナミック・レンジを最大限に再生します。
- STANDARD : ダイナミック・レンジを圧縮する。
ソフト制作者が推奨するダイナミック・レンジで、小音量でも聴きやすくなります。

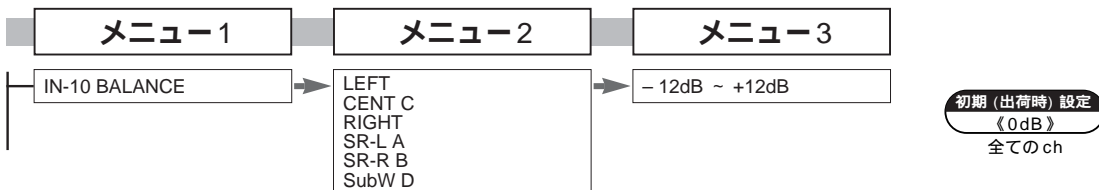
アナログ10番端子の入力バランス・・ IN-10 BALANCE

アナログ10番端子に入力したサラウンド演奏を楽しみながら、各チャンネル(フロントL/R、サラウンドL/R、センター、サブウーファー)の音量レベルを調整することができます。

マスター・ボリュームとは別のレベル調整機能で、6系統のチャンネルを独立してレベル可変できます。セリフをもう少し大きくしたい、重低音をもっと出したいなどの場合にも有効な機能です。

*各スピーカーが《NONE》に設定されていても、設定レベルは有効です。

*SPEAKER LEVELを設定する場合には、全てのチャンネルのレベルを《0dB》に戻してください。



[AUDIO] ボタンを1秒以上押す

MENU 1で 『IN-10 BALANCE』を選択

```
[AUDIO SETUP]
1IN-10 BALANCE 2SR-L A 3 0.0dB
```

アナログ入力バランス

MENU 2で レベルを変えたい各チャンネルを選択

[LEFT] [CENT C] [RIGHT] [SR-L A] [SR-R B] [SubW D] の順でチャンネルが変わります

```
1IN-10 BALANCE 2CENT C 3+ 5.5dB
```

センター・チャンネル

レベルを5.5dB上げる

MENU 3で レベルを選択

調整範囲: -12 dB ~ +12 dB (0.1 dB ステップ)

```
1IN-10 BALANCE 2SubW D 3- 3.0dB
```

サブウーファー

レベルを3dB下げる

* を繰り返し、他のスピーカー・レベルを選択

各スピーカーのイコライザー調整・EQ (EQUALIZER)

リスニング・ルームのシステム環境に合わせるため、各スピーカーのイコライザー特性(トータルの周波数特性)を個別に調整することができます。次の場合には有効な機能です。

- ・ソースの音をお好みに調整する
- ・各スピーカーの音のつながりを向上させたり音色を合わせる
- ・サウンド・スクリーンを使用する場合

*実際に再生音を聴きながら設定することができます。

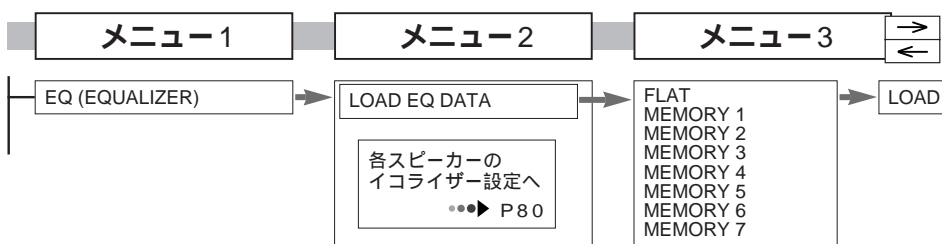
* DG-28/DG-38 を接続すれば、本格的な音場補正ができます。その場合、このメニューでの設定は《0dB》に戻してください。

*スピーカー設定で《NONE：接続しない》に設定されているスピーカーは、スキップされディスプレイに表示されません。

初期(出荷時)設定：全周波数《0dB》フラット

《NONE》のスピーカーは表示しません

メモリー内のイコライザー・データの呼び出し



イコライザーを設定したメモリーがあれば、その設定値を呼び出して参照・変更することができます。呼び込まれるのは、そのメモリー内のイコライザー特性項目だけです。

AUDIO ボタンを1秒以上押す

MENU 1で 『EQ』を選択

MENU 2で 「LOAD EQ DATA」を選択

他のメモリーのイコライザー・データを呼び出さない場合は、MENU 2で各スピーカーのイコライザー設定に進む。

MENU 3で 呼び出すメモリーを選択

→ ボタンを押すと、選択したメモリーのイコライザー・データを呼び出す。

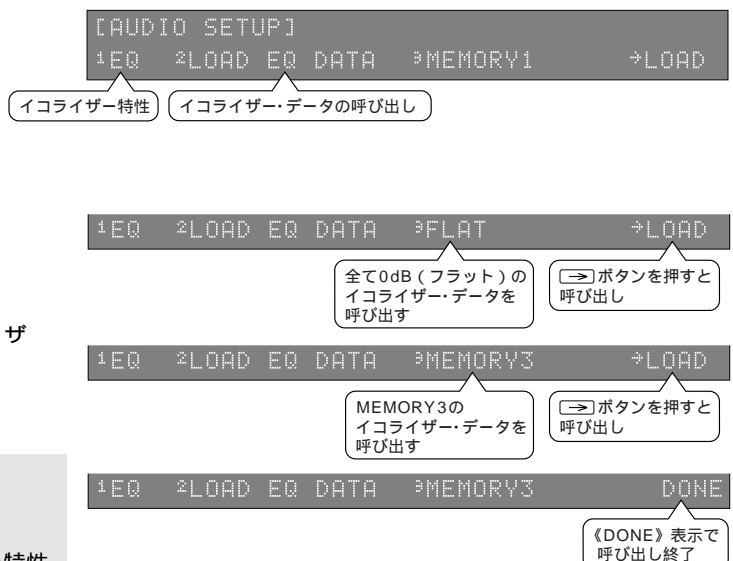
呼び出すと《DONE》と表示が変わる。

FLAT

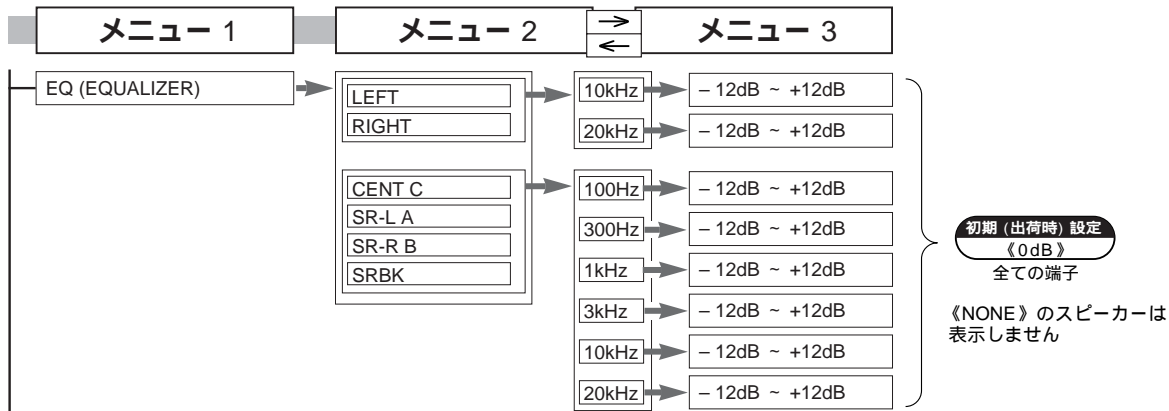
全て0dBのイコライザー特性。

→ ボタンを押すと各スピーカーのイコライザー特性は全て0dBに戻る。

MENU 2で 各スピーカーのイコライザー設定に進む。



各スピーカーのイコライザー設定



MENU 2で イコライザー設定するスピーカーを選択

→ または ← ボタンで、設定周波数を切り替え

で囲まれた周波数が切り替わり、設定可能となります。

フロント左右 (LEFT, RIGHT)	2バンド切替 10kHz, 20kHz
センター (CENT C)	6バンド切替
サラウンド左右 (SR-L A, SR-R B)	100Hz, 300Hz, 1kHz
サラウンドバック (SRBK)	3kHz, 10kHz, 20kHz

MENU 3で イコライザー・レベルを選択

調整単位: dB

調整範囲: -12dB ~ +12dB (0.1dB ステップ)

```

1EQ
2LEFT < 10k:+ 1.0 > 20k:- 0.0
    
```

フロント左スピーカー 10kHzのレベルを設定

```

2LEFT 10k:+ 1.0 < 20k:- 3.0 >
    
```

20kHzのレベルを設定

```

1EQ < 100:+ 3.0 > 300: 0.0 1k: 0.0
2CENT C 3k: 0.0 10k: 0.0 20k: 0.0
    
```

100Hzのレベルを設定 センター・スピーカー

```

1EQ 100:+ 3.0 300:+ 1.0 1k:- 1.5
2CENT C < 3k:+ 5.5 > 10k: 0.0 20k: 0.0
    
```

3kHzのレベル設定

```

1EQ 100:+ 3.0 300:+ 1.0 1k:- 1.5
2CENT C 3k:+ 5.5 10k:+ 3.0 < 20k:+ 4.5 >
    
```

20kHzのレベル設定

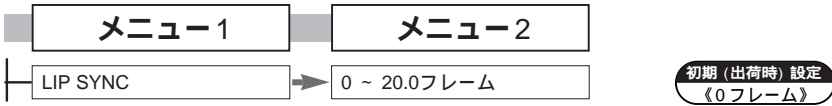
* 以上を繰り返し、希望のスピーカーに対してイコライザー特性を設定する。

Fチャンネルがサラウンド・バックに設定されている場合は、Eチャンネルの設定に準じる

画像に対して音声を遅らせる・・・LIP SYNC

映像ソフトの視聴時に、会話など画面の映像が音声に対して遅れる場合があります。このような場合、音声を遅らせて映像とのタイミングを調整することができます。

実際に映像を見ながら、セリフ(口の動き)と声の出るタイミングを合わせます。

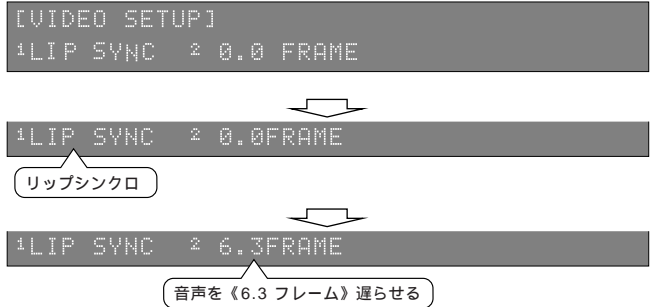


VIDEO ボタンを1秒以上押す

MENU 1で 「LIP SYNC」を選択

MENU 2で フレーム値(ディレイ)を選択
実際に映像を視聴しながら、映像と音声のタイミングを合わせます。

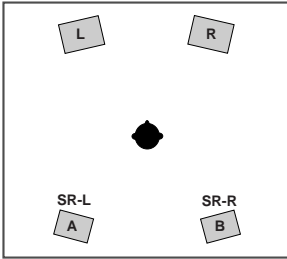
調整範囲 : .0 ~ 20.0フレーム (0.1ステップ)



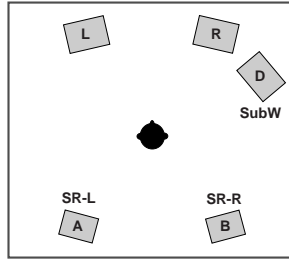
ダウン・ミックス演奏

スクリーン等でセンター・スピーカーの設置が難しい場合や、部屋の関係でサブウーファーを置けない場合でも、5.1チャンネル以上のソースをダウン・ミックスして演奏することができます。

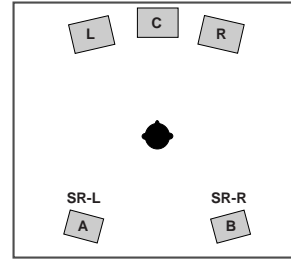
4.0chの演奏
(センターとサブウーファー無し)



4.1chの演奏
(センター無し)



5.0chの演奏
(サブウーファー無し)



スピーカー設定：SPEAKER CONFIG ●●▶ P30, 31

- * スピーカー設定で、センターを《NONE：接続しない》に設定すると、入力したセンター（Cチャンネル）信号は、フロント側LEFTとRIGHTチャンネルに振り分けられて再生します。
- * フロントとサラウンドがLARGE設定で、サブウーファーが《NONE》の場合、サブウーファー信号（LFE）はフロントとサラウンドに振り分けられます。さらに、どちらかがSMALL設定の場合は、LARGE設定のスピーカーに振り分けられます。

4.0chと4.1chの場合

AUDIO設定モードの「SPEAKER CONFIG」で、センタースピーカーを《NONE》に設定



4.0chと5.0chの場合

AUDIO設定モードの「SPEAKER CONFIG」で、サブウーファーを《NONE》に設定



注意：サブウーファーを接続しない場合

フロント、サラウンドの両スピーカー共SMALL設定にすると、サブウーファーは《NONE》設定にできないため、どこにもダウンミックスできません。どちらかのスピーカーをLARGE設定にしてからサブウーファーを《NONE》に設定してください。

センターとサブウーファー各チャンネルのレベル調整

スピーカーがない場合でもセンター（Cチャンネル）またはサブウーファー（Dチャンネル）個々のレベルを、設定メニューでそれぞれ調整することができ、ダウン・ミックス時でも最適なサラウンド演奏を楽しむことができます。

QUICKモードの場合は、デジタル/アナログ音声入力とも次のメニューで調整できます。ただし、保存はしません。

センター・レベル 「CENTER TRIM」(●●▶ P70)

サブウーファー・レベル 「LFE TRIM」(●●▶ P70)

デジタル音声入力の場合

センター・レベル調整：センターのレベル ●●▶ P75



LFEのレベル調整：サブウーファーのレベル ●●▶ P76



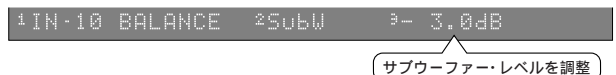
アナログ・オーディオ入力 (IN-10) の場合

10番端子の入力レベルバランス：IN-10 BALANCE ●●▶ P78

センターのレベル調整



サブウーファーのレベル調整



リモート・コントロール

リモート・コマンダー RC-31

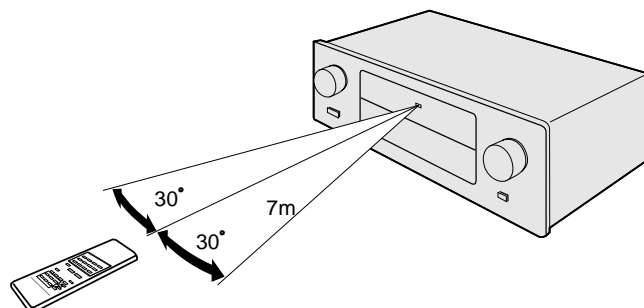
本機に付属しているリモート・コマンダー RC-31 を使用すると、離れたところから VX-700 の機能をコントロールすることができます（機能の詳細は 2 ページ参照）。

使用法

リモート・コマンダーの発光部を本体の **9** リモート・センサーに向けて、図の範囲内でお使いください。

落としたり、内部に液体をこぼしたりしないようにしてください。

直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。



電池について

電池の交換時期

電池は普通に使って約 8 ヶ月は動作しますが、操作距離が短くなってきたら交換時期です。完全に消耗しますと、ボタンを押してもコントロールができなくなります。

使用する電池は、単 4 形を 2 個、両方とも新しい電池に交換してください。

注意

乾電池は正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。

電池の向きはコマンダーのケースに示されている通り、 \oplus （プラス）、 \ominus （マイナス）を正しく合わせる。

新しい電池と 1 度使用したものを混ぜない。

種類の違う乾電池を混ぜて使用しない。同じ形状でも、性能の異なるものがあります。

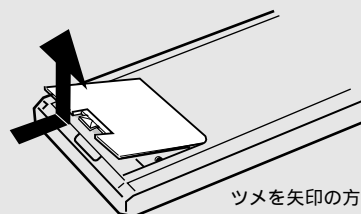
長時間にわたりコマンダーを使わないときは、電池を抜いておく。

万一、液漏れを起こしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。漏れた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

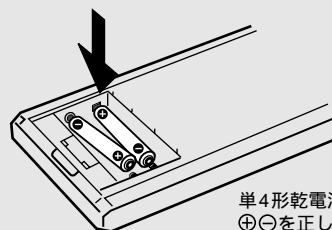
警告

乾電池は充電しない。電池の破裂や、液漏れにより、火災やけがの原因となります。

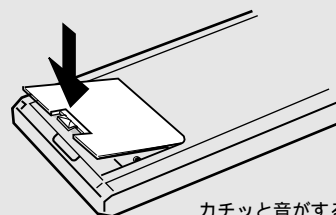
乾電池の交換



ツメを矢印の方へ押して蓋を開ける。



単 4 形乾電池 2 個、 \oplus \ominus を正しく入れる。



カチッと音がするまで閉める。

各種サラウンド・フォーマットの特長

各フォーマットに対して快適なサラウンド演奏をするためには、各フォーマットの内容・特長を十分に理解して、VX-700をそれに適した設定内容に変えてから演奏をお楽しみください。以下は本機で演奏できるサラウンド・フォーマットの種類ですので参照してください。

ドルビー・デジタル

ドルビー・デジタルは、米国・ドルビー研究所が開発したマルチチャンネル・デジタル信号フォーマットです。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic およびダブルD 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。



Dolby Digital (ドルビー・デジタル)

ドルビー・デジタルはAC-3で情報圧縮された最大5.1chの独立音声を持つDVD-Videoの標準音声フォーマットで、米国DTVの標準音声としても採用されています。AC-3 (Audio Code number3) は、圧縮のエンコーディング (符号化) 方式です。

フロントL/R、センター、リアーL/Rの5chとサブウーファースの0.1ch、合計5.1chに対応します。サブウーファースは独立した低音効果 (LFE : Low Frequency Effect) を持ち、他のチャンネルにくらべ限られた帯域 (20 ~ 120Hz) のため0.1chと呼ばれています。従来のドルビー・サラウンド (ドルビー・プロロジック) がアナログ・マトリックスであったのに対し、各チャンネルが完全に独立したデジタル・ディスクリット方式となり、音の遠近感、移動感、定位感などリアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

全チャンネル独立したディスクリット構成のデジタル処理
5ch全て20Hz ~ 20kHzのフルバンド
転送レートは384kbps
リニアPCMに対して、オリジナル・データを約1/10 ~ 1/12以下に圧縮。

Dolby Digital EX (ドルビー・デジタル EX)

6.1ch再生可能な新しい音声フォーマットです。
ドルビー・デジタルにサラウンド・バックchを追加 (スピーカー1本 : 6.1chまたは2本 : 7.1ch) して、空間表現力・定位感を高め、回転や頭上を通過する移動音効果により音像を生々しく体感できます。

信号処理は、リアL/Rchにサラウンド・バックch信号をマトリックス・エンコードで重畳し、再生時にはマトリックス・デコーダーで3chに分配する。
サラウンド・バック信号はモノラル、スピーカー2本でも出ている音は同一であるが1本より音のつながりが良好になる。
5.1chドルビー・デジタルと再生互換性があり、この場合サラウンド・バック信号はサラウンドL/Rに分けて再生される。

Dolby Pro Logic (ドルビー・プロロジック)

2chソース ⇔ 4.0/5.0 chに拡張して再生するマトリックス・デコード技術です。

ドルビー・プロロジック は、従来のドルビー・プロロジック回路を更に改良し、マトリック演算を行うステアリング・ロジック (方向性制御回路) により全可聴帯域のメイン5chを作り出します。ドルビー・サラウンドでエンコードされた2chソースは、ドルビー・デジタル5.1chに匹敵するサラウンド再生を実現します。さらにCDのような通常の2chステレオ・ソースに対しても、優れた立体音場効果、包囲感、明確な定位感をもたらします。

	プロロジック	プロロジック
ソース	フロント(L/R), センター, リアの4chの信号をマトリックス処理により2chにエンコード	アナログ/デジタルに関係なく、エンコードされていない2chステレオ・ソースも5.0ch再生可能
再生チャンネル	4.0ch サラウンドはモノラル	5.0ch サラウンドもステレオ
周波数特性	サラウンドの高域再生は7kHzに制限	全チャンネル: 20Hz ~ 20kHzまでフル帯域で再生

プロロジック 機能として次のモードがあります。再生するソースの種類や内容に合わせて最適なモードやパラメーターを選んでください。 ●●▶ P62

MOVIE

映画ソースや一般的な2chソースの再生に適したモード。高精度デコーダーにより、2チャンネル・ソースでも優れたサラウンド音場を実現します。

MUSIC

ステレオ音楽信号の再生に適したモード。残響成分に多く含まれる逆相成分をサラウンド・チャンネルで再生するなど自然で広がり感のある音楽再生をします。

音楽信号は、ソースの内容によりは音場の広がり感などが異なります。このため、これらを調整する各種のパラメーターがあります。

① CENTER WIDTH (センター・ウィズ)

センターの信号成分がセンターに集中しないように、フロントL/Rに分散させ、自然な左右の広がり感を出すように調整します。

② DIMENSION (ディメンション)

音場イメージの中心を、フロント側またはサラウンド(リア)側どちらかにシフトして、再生するソフトによって生じる、フロントとサラウンドのレベル差を調節します。

③ PANORAMA MODE (パノラマ・モード)

フロント音場の広がり感が弱く、サラウンド効果が薄いと感じられる場合には、このモードをONにします。

DOLBY PRO LOGIC

従来のプロロジックと同等の再生モードで、ドルビー・サラウンドの録音イメージを忠実に再生します。ドルビー・サラウンドは通常の2chステレオと互換性のあるサラウンド・フォーマットで、ドルビー・プロロジックはドルビー・サラウンドの標準再生デコーダーの名称です。

注意

プロロジック を搭載している製品は、プロロジック の様々な機能を選択して搭載することが可能です。このため同じプロロジック でも製品によって、機能が異なる場合があります。

DTS

DTS は、米国・DTS(Digital Theater Systems)社が開発したマルチチャンネル・デジタル信号フォーマットです。

“DTS”、“DTS Digital Surround”、“DTS-ES Extended Surround”
および“Neo:6”はDTS (Digital Theater Systems) 社の商標です。



DTS

再生チャンネルや再生帯域は、ドルビー・デジタルと同様の各チャンネル完全ディスクリット5.1chで構成されています。家庭用DTS 圧縮方式：コヒーレント・アコースティクス符号化 (Coherent Acoustics Coding) を採用しています。ドルビーデジタルに対して、音声信号の圧縮率が低く、比較的高いビット・レートのフォーマットです。

全チャンネル独立したディスクリット構成のデジタル処理
5ch全て20Hz ~ 20kHzのフルバンド
転送レートは768kbpsまたは1536kbps
リニアPCMに対して、オリジナル・データを約1/3に圧縮。

DTS-ES (DTS-Extended Surround)

DTS 社の開発した新しいマルチチャンネル・デジタル音声フォーマットです。
DTS 5.1ch方式にサラウンド・バック (モノラル) を追加して、合計6.1chのサラウンド再生が行われます。下位互換性を有しているため、DTS5.1chデコーダーで再生した場合でも、サラウンド・バック音声はリアのL/Rにダウンミックスされ音場再生が可能となります。また、サラウンド信号記録方式の違いにより、次の2種類の信号フォーマットがあります。

DTS-ES Matrix 6.1 (DTS-ESマトリックス6.1)

DOLBY DIGITAL SURROUND EX と同等の処理方式です。
リアL/Rchにサラウンド・バックch信号をマトリックス・エンコードします。
再生時は5.1chからマトリックス処理でサラウンド・バックchを取り出し6.1chとします。

DTS-ES Discrete 6.1 (DTS-ES ディスクリット6.1)

完全に独立したフルレンジのサラウンド3チャンネル、計6.1ch全てにディスクリット記録/再生を行う方式です。

サラウンド・バックchを除いた5.1ch信号を従来通りコア(基本部分)にエンコードします。その時にサラウンド・バック成分をリアL/Rchにも振り分けれます。ディスクリットのサラウンド・バック信号は、エクステンション(拡張)音声エリアに記録します。

- ① ディスクリット6.1のデコーダーで再生した場合
ディスクリット6.1chで再生、その効果を最大限に発揮することができます。リアL/Rに振り分けたサラウンド・バック成分は不要なので、逆マトリックス処理で取り除きます。
- ② マトリックス6.1のデコーダーで再生した場合
マトリックス処理で作ったサラウンド・バック信号を取り出して6.1ch再生します。
- ③ DTS 5.1のデコーダーで再生した場合
サラウンド・バック信号は、リアL/Rに振り分けられ、ディスクリット5.1chで再生します。

SRS (Sound Retrieval System)

米国・SRS社 (SRS Labs, Inc.) のバーチャルサラウンド・テクノロジーです。

Circle Surround、TruSurroundとSRS Soundは
SRS Labs, Inc.の商標です。



Circle Surround (サークル・サラウンド)

モノフォニック信号および2chステレオ信号 ⇄ 6.1chの信号に変換して再生する技術です。

5.1chのスピーカー・セッティングにサラウンド・バックを追加して、6.1ch構成にします。
エンコード処理されていない1ch/2ch信号、またはドルビー・サラウンドなどでマトリックス・エンコードされた2ch信号を、6.1chに変換してサラウンド再生が可能になります。
次の3種類のモードが設定されていますので、再生するソースに合わせて効果的なモードを選択してください。

CINEMA : 映画再生に最適なモード

MUSIC : 音楽再生に最適なモード

MONO : モノフォニック信号を入力して、広がりのある音場を楽しむ場合

Circle Surroundには、フロントL/RとLFE(サブウーファー)にTruBass(トゥルーベース)という低音増強技術が内蔵され、Circle Surroundモードでは常に動作しており(OFFできません)、常に豊かな低音を提供します。TruBassが動作することで、フロントL/Rのスピーカーのみでも豊かな低音を再生できます。さらにサブウーファーを使用すると低音がさらに豊かに、そして再生出来る周波数の下限を下げる事ができます。

TruBass(トゥルーベース)は、パイプオルガンの低音再生技法を電気的に応用した今までにない画期的な低音再生技術です。原音に含まれる低音成分(例:80Hz)に対してその整数倍の周波数にある高調波成分(例:160Hz、240Hz)を抜き出しスピーカーより再生すると、その差成分(240Hz-160Hz)である80Hzを脳が感知して、元々ある低音として聞いてしまうという、人間の聴覚の特性に基づいています。TruBassは、原音に含まれる高調波成分を抜き出して再生しているだけで、イコライザー処理や位相処理を一切行っていないことから、違和感のない極めて自然で豊かな低音再生が可能です。

Circle Surround 『FOCUS』(フォーカス)

センター・スピーカーからのダイアログの音声を、画面上から聴こえるよう縦方向に移動(仮想配置)でき、台詞の明瞭度が飛躍的に向上します。

メニューで、**AUDIOモード** **CENTER MANAGEMENT** **HEIGHT** を選択し、高さ方向を調整できます。 ●▶ P75

TruSurround (トゥルーサラウンド)

ディスクリート5.1ch ⇄ 2chでバーチャル・マルチサラウンド演奏。

ドルビー・デジタルやDTSなどのディスクリート5.1ch信号を入力し、2つのスピーカーだけでマルチchサラウンド音場を生成する、バーチャル・サラウンド技術です。ハイクオリティな2チャンネル・システムを構成している場合、それを活用して自然なバーチャル効果により、スイートスポットが広いマルチチャンネル演奏が可能となります。

TruSurroundは、時間軸や位相の操作を一切行わず、頭部伝達関数理論による補正伝達関数フィルターを使用したシンプルな構成です。特徴は、

広いスイートスポット

横方向は、スピーカーの間隔の75%以内とスピーカーの軸上を除いた外側に、縦方向は正常に音が届く範囲にスイートスポットを形成。

自然な音場再生

ディスクリート方式の持つ強いポジショニング(点から点での音の移動)をバーチャルで再現するのではなく、ディスクリート方式で生成される6つのソースを使い、連続した自然で音に包まれるような自然な音場を創生。

* 以上出典は、SRS Labs, Inc.

放送関係

MPEG 2

MPEG (Moving Picture Expert Group) とは、ISO (国際標準化機構) と IEC (国際電子技術委員会) との共同でテレビ映像やデジタル符号化の標準規格を決めるためつくられたグループです。

MPEG2 は、DVD ビデオや CS/BS デジタル放送などに採用されている、動画圧縮符号化の国際的な標準規格です。

AAC 5.1 ch

“ AAC ” ロゴは、Dolby Laboratories の商標です。



AAC は、正式には MPEG2 AAC (Advanced Audio Coding) と呼ばれ、MPEG2 規格の中での音声符号化方式です。日本では BS デジタル放送 (音声モードは 2ch と 5.1ch) の圧縮音声規格として採用されました。その中で『AAC 5.1ch』は、AAC デコーダーで BS デジタル放送の 5.1ch マルチ音声演奏できます。

AAC は、人間の聴覚のマスクング特性を利用、デジタル処理によって耳に聞こえにくい領域に量子化ノイズを分散させる圧縮技術で、ドルビー・デジタルの圧縮方式 AC-3 とは異なるアルゴリズムを採用しています。低ビットレート (MPEG2 AAC の 5.1ch の場合、転送レートは 320kbps) で高音質の圧縮方法を実現しました。

MPEG2 AAC は、MAIN/LC/SSR プロファイルという 3 種類のデータ構造をもっています。

本機が搭載しているデコーダーは、BS デジタル放送で使用される 32 ~ 48kHz までのサンプリング周波数と LC プロファイルの再生、チャンネル数は最大 5.1ch まで対応しています。

以下が AAC に関する米国特許番号です。

5, 848, 391; 5, 291, 557; 5, 451, 954; 5 400 433; 5, 222, 189;
 5, 357, 594; 5 752 225; 5, 394, 473;
 5, 583, 962; 5, 274, 740; 5, 633, 981; 5 297 236; 4, 914, 701; 5, 235, 671;
 07/640, 550; 5, 579, 430;
 08/678, 666; 98/03037; 97/02875; 97/02874; 98/03036;
 5, 227, 788; 5, 285, 498; 5, 481, 614;
 5, 592, 584; 5, 781, 888; 08/039, 478; 08/211, 547;
 5, 703, 999; 08/557, 046; 08/894, 844; 5, 299, 238;
 5, 299, 239; 5, 299, 240; 5, 197, 087; 5, 490, 170;
 5, 264, 846; 5, 268, 685; RE36, 683; 5, 581, 654; 5, 548, 574; 5, 717, 821

オプション

注意： オプションの取り付け、機能設定、使用方法などの詳細は、各オプションの「取扱説明書」を参照してください。

本機は、ビデオ信号の切替回路が装備され、このビデオ・スイッチャー部は、100MHz以上の広帯域高性能アンプを採用しています。映像出力部分は、基本的な『VOX-1』が標準装備されていますが、別売オプション『VOX-2』や『VOX-3』により高機能化が可能となります。また、IEEE1394によるデジタル・リンクが可能な『VOX-1394』も発売を予定しています。取り付けは、リアパネル側にあるオプション・スロットに挿入します。

取り付けの前に

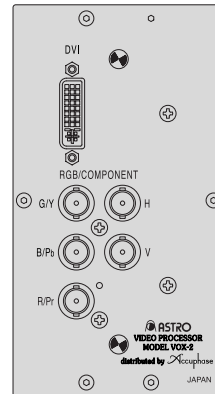
オプションを取り付ける前に、各オプションに付属している『アップデートCD』で本機のファームウェアの機能変更をしてください。ファームウェアのアップデート後、各オプションを取り付けると、メニュー構造にそれぞれの機能項目が自動的に追加・変更されます。

*アップデートの方法 ●●▶ P97 ~ 99

オプションの種類（発売予定）

VOX-2：NTSCハイビジョン対応ラインダブラー

- ・ 525i 525p
- ・ 1125i 1125p
- ・ 2-3/2-2 プルダウン
- ・ 調整用テストパターン



VOX-3：NTSCライン・クアドラプラー ハイビジョン対応ラインダブラー + スケーラー

- ・ 525i 525p
- ・ 1125i 1125p
- ・ VGA/SVGA/XGA/SXGA/クアドラプラー(1280 x 960)
- ・ 2-3/2-2 プルダウン
- ・ 調整用テストパターン

VOX-1394：デジタル入力ボード

- ・ IEEE1394によるデジタル・リンク

使用方法

各オプションを取り付けた後は、いままでの設定と同様の方法で必要機能を設定してください。詳細は各オプションの取扱説明書に従ってください。

オプションの取り付け方法

VOX-2 または VOX-3

VX-700の電源スイッチを切ります。

リアパネルのビデオ出力ユニット『VOX-1』を抜きます。

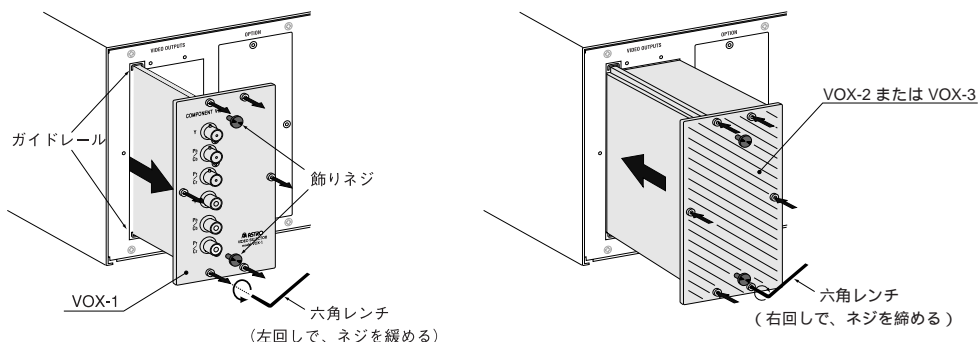
付属の六角レンチを使用して、ネジ6本（透明ワッシャ付き）を外します。その後、VOX-1の上下2本の『黒い飾りネジ』を持ってゆっくり引き抜きます。

VOX-2 または VOX-3 を取り付けます。

VOX-1を外したスロットの、上下のガイドレールに沿ってVOX-2 または VOX-3 を挿入します。コネクタに当たって止まったら、少し力を入れて、コネクタを完全に差し込みます。（バックパネル面に当たればOKです。）

VOX-2 または VOX-3 を固定します。

取り外したネジ6本（透明ワッシャ付き）を使用して、六角レンチで確実にVOX-2 または VOX-3 を固定します。（ネジ6本と透明ワッシャ6個をスペアとして付属しています。）



VOX-1394

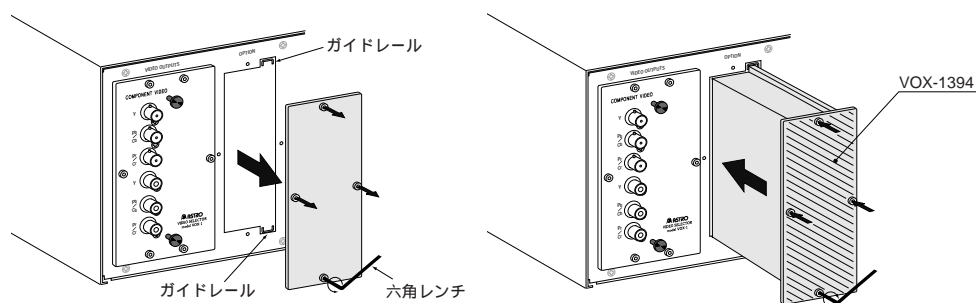
VX-700の電源スイッチをOFFにします。

リアパネル側の『オプション・スロットのサブパネル』をはずします。

ネジ4本は、オプションに付属している六角レンチを使用してはずします。

VX-700スロット上下のガイドレールに沿ってVOX-1394を挿入します。コネクタに当たって止まったら、少し力を入れてコネクタを完全に差し込みます。（バックパネル面に当たればOKです。）

外したネジまたは付属の4本のネジで確実に固定します。



⚠ 注意

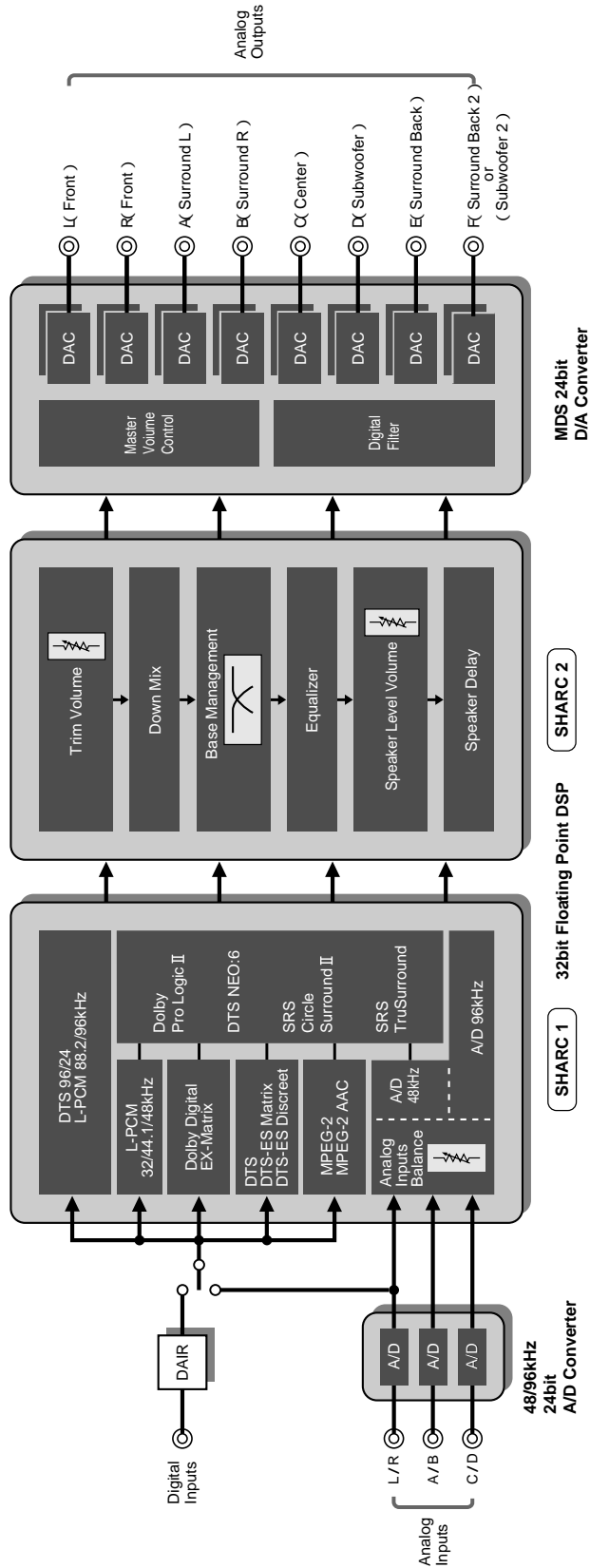
オプションを抜き差しするときは、必ずVX-700の電源を切る。電源を入れたまま抜き差しすると、故障の原因になります。

部品面やハンダ面、コネクタの接点部分を手で触らない。手で触れると静電気や接触不良で回路が故障する原因となります。ボードを持つ場合にはプリント板の外周やパネル部を持ってください。

オプションの取り付けネジは付属の六角レンチで完全に締めてください。締めつけが不十分ですと、端子がグラウンドから浮いて接触不良となり、故障の原因となります。

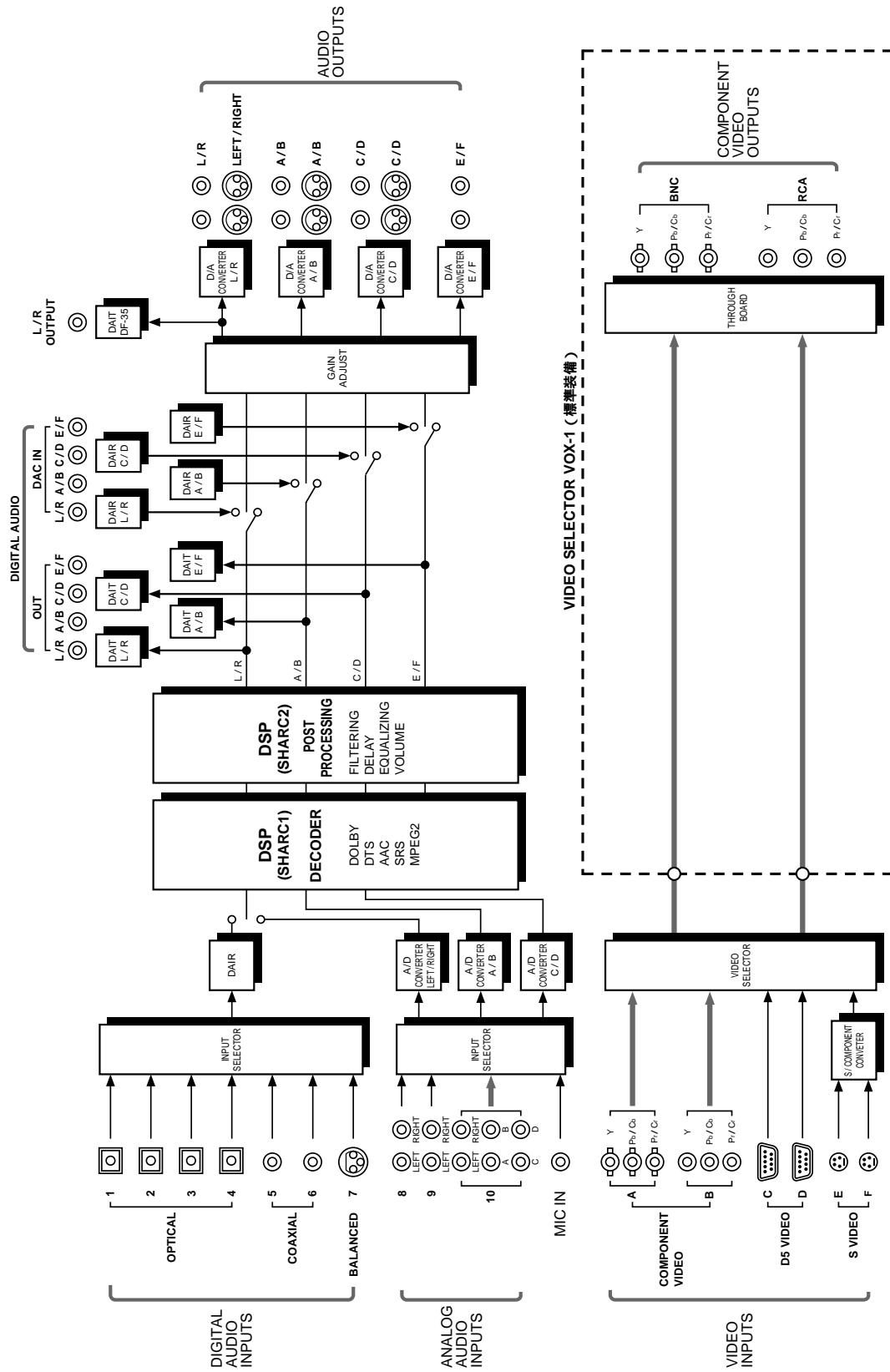
ブロック・ダイアグラム

(1) オーディオ系のブロック・ダイアグラム



*『SHARC』はアナログ・デバイス社の登録商標です。

(2) 全体のブロック・ダイアグラム



故障かな？と思われるときは

故障かな？と思われるときは、修理を依頼される前に下記の項目をチェックしてください。また、本機以外の接続している機器も合わせてお調べください。これらの処置をしても直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜いて、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

全 般

症 状	原 因	対 策	ページ
電源が入らない。	電源コードの接続が不完全。	電源コードをACコンセントや本体『AC IN』にしっかり差し込む。	
設定ができない。	セーフティ・ロックに設定してある。	セーフティ・ロックを解除します。	P50
ディスプレイ文字が暗い、または文字が出ない。	明るさの設定を変更した。	ディスプレイ設定を変更します。	P48
リモート・コマンドで操作できない。	電池が入っていない。	⊕、⊖を正しく、電池を入れてください。	P83
	電池が消耗している。	新しい電池に交換してください。	
	受光部付近に障害物がある。	障害物を取り除いてください。	
ソフトウェアのアップデートができない。	接続が不完全。	接続の確認をします。 CDを接続している、入力セクター・ポジションを確認します。	P97
	エラー表示が出てストップする。	表示内容に従って不具合を修正します。	P99

オーディオ関連

音が出ない	他機種との接続が不完全。	入力機器やパワーアンプ、スピーカーとの接続を確認します。	P12～19	
	入力機器との接続が正しくない。	入力セクター・ポジションを確認します。 アナログ/デジタルの接続や接続コードを確認します。		
	プレーヤー側の音声出力フォーマット設定が正しくない。	プレーヤー側の音声出力フォーマット設定を確認してください。		
	ボリュームが下がっている。	ボリュームを上げてください。		P60
	本機で再生できない信号(CD-ROMなど)が入力されている。	本機で再生できる信号を入力してください。		
突然音が出ない	ATTENUATORスイッチがON。	「ATTENUATOR LEVEL」の設定がMUTEの場合は音が出ません。	P49	
音が途切れたり雑音が出る	接続コードのプラグの汚れや接触不良。	プラグを点検してください。		
音の定位感がはっきりしない。	アンプとスピーカーの極性(+・-)を間違えて接続。	正しく接続してください。	P19	
サラウンドの音量などバランスが良くない。	スピーカー・レベルやディレイ設定が不完全。	スピーカーのレベルやディレイの設定を確認してください。	P30～41	
フロント・チャンネル以外の音が出ない	フロント以外全てのスピーカーが『NONE』に設定されている。	『SPEAKER CONFIG』設定を確認してください。	P30～32	
	入力の再生ソフトが2ch。	EFFECT MODEでDIRECT設定の場合はフロント2ch再生になります。	P61, 62	
特定チャンネルの音が出ない	パワーアンプやスピーカーとの接続が不完全。	接続を確認してください。	P19	
	音が出ないスピーカーが『NONE』に設定されている。	『SPEAKER CONFIG』メニューを確認してください。	P30, 31	
	96kHzソフトの再生で、DG-28が信号をロックしない。	デジタル入力：サンプリング周波数48kHzまでの再生になります。 アナログ入力：設定を48kHzに変えてください。 DG-38は96kHzまで再生できます。	P45	

症状	原因	対策	ページ
センター・スピーカーのレベルが小さい、または大きい	レベル設定が不完全。	「SPEAKER LEVEL」設定や「CENTER MANAGEMENT」のLEVEL設定を調整してください。	P33-35 P70
サブウーファースの音が出ない	接続が間違い。	パッシブ型かアクティブ型かを確認して正しく接続してください。	P19
	アクティブ型を使用。	サブウーファースの電源を入れ、ボリュームを上げてください。	
サブウーファースのレベルが小さい、または大きい	レベル設定が不完全。	「SPEAKER LEVEL」設定や「LFE LEVEL」設定を調整してください。	P33-35 P76
	ピーク・レベルの設定が小さい。	ピーク・レベル設定で調整してください。	P77
	クロスオーバー周波数の設定が低い。	使用しているスピーカーの低域再生能力に応じて設定周波数を上げてください。	P30-32
F端子に接続したサブウーファースの音が出ない	F端子の設定が、『NONE』またはサラウンド・バックに設定。	F端子をサブウーファース接続に変更ください。	P30-32
リアL/Rやサラウンド・バックのレベルが小さい、または大きい	レベル設定が不完全。	「SPEAKER LEVEL」設定を調整してください。	P33-35
サラウンド・バックの音が出ない	リアL/Rが『NONE』に設定されている。	リアL/Rが『NONE』に設定されていると、自動的にサラウンド・バックも『NONE』に設定されます。	P30-32
	サラウンド・バックの再生がOFFに設定してある。	設定を変更してください。	P74
	ソフトに『6.1再生検出信号』が記録されていない。	サラウンド・バックの設定を変更してください。	P74
F端子に接続したサラウンド・バックの音が出ない	F端子の設定が、『NONE』またはサブウーファースに設定。	F端子をサラウンド・バック接続に変更ください。	P31
アナログ6ch再生（10番端子）でフロント以外の音が出ない。または小さい。	設定が2chになっている。	設定を6chに変えてください。	P45
アナログ6ch再生で、音量バランスが悪い。	音量バランスの設定が不完全。	設定を確認してください。	P78
DF-35接続時、L/Rチャンネルの音が出ない。	「EXT DAI」「L/R」「EXT D/A」がYESになっている。	「EXT D/A」設定（外部DAC接続）の場合は、「L/R OUTPUT」には出力しません。	P16, 73
DG-28/DG-38を接続して、音が出ない。または、調整用トーンが出ない。	接続したチャンネルを確認してください。		P17
	接続したチャンネルのスピーカー設定が《NONE》になっている。	設定を変更してください。	P30-32
	「EXT DAI」設定が「NO CONNECTION」になっている。	「EXT DSP : INT CLK」設定に変えてください。	P73
	DG-28/DG-38からの調整用トーンは「TEST SIGNAL」メニューの《DIGITAL EQ SETUP》ポジションで出力します。		

ビデオ関連

画像が出ない	接続が不完全	入力機器やテレビなどとの接続を確認します。	P14, 15
	音声入力に対する映像の割り当てが不完全。	設定を確認します。	P42
Sビデオ端子（EまたはF）に入力した画像が出ない	入力信号に応じて、NTSCまたはPALの設定を変えてください。		P47, 71

保証特性

[保証特性はEIA測定法RS-490に準ずる]

〔オーディオ部〕

デジタル入力

OPTICALフォーマット : EIAJ CP-1201 準拠
 COAXIALフォーマット : EIAJ CP-1201/AES 3 準拠
 BALANCEDフォーマット : EIAJ CP-1201/AES 3 準拠
 サンプリング周波数
 : 32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz
 (各 16 ~ 24bit 2ch PCM)

アナログ入力

A/Dコンバーター : サンプリング周波数
 48/96kHz、24ビット

デジタル出力

COAXIALフォーマット : EIAJ CP-1201/AES 3 準拠

周波数特性 0.5 ~ 50,000Hz +0 -3.0dB

D/Aコンバーター 24ビット MDS方式

全高調波ひずみ率 0.001% (20 ~ 20,000Hz間)

S/N 113dB

ダイナミックレンジ 100dB

チャンネル・セパレーション 90dB (20 ~ 20,000Hz)

出力電圧・出力インピーダンス

BALANCED / UNBALANCED
 2.4V (0dB), 9.4V (Maximum): 50

アッテネーター -20dB(初期設定)

ボリューム・コントロール

dBモード
 : Minimum、-120.0dB ~ +12.0dB、Maximum
 Linearモード
 : Minimum、0.5 ~ 99.5 (0.5ステップ) Maximum
 速度感知回転方式

〔ビデオ部〕

Sビデオ端子

入力レベル/インピーダンス Y信号 : 1Vp-p/75
 C信号 : 0.286Vp-p/75
 周波数特性 5Hz ~ 10MHz +0 -3.0dB

コンポーネント・ビデオ端子

入・出力レベル/インピーダンス
 Y信号 : 1Vp-p/75
 Pb/Cb、Pr/Cr信号 : 0.7Vp-p/75
 周波数特性 DC ~ 100MHz +0 -3.0dB

最大許容入力 1.5Vp-p以上

〔総合〕

電源 AC100V 50/60Hz

消費電力 55W

最大外形寸法 幅475mm × 高さ195mm × 奥行452mm

質量 20.1kg

付属リモート・コマンダー RC-31

リモコン方式 : 赤外線パルス方式
 電源 : DC 3V・乾電池 単4形2個使用
 最大外形寸法 : 66 mm × 175mm × 20mm
 質量 : 210g (電池含む)

本機の特長および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

ファームウェアのアップデート

本機の機能の変更・追加等でファームウェアを変更する場合、ファームウェアのアップデートが可能です。特別の機器を使用することなく、アキュフェーズから配布されるCDを通常のCDプレーヤーにより再生、そのデジタル出力をVX-700に接続して、プログラムの書き換えやデコード用DSPの変更などを行い、簡単にアップグレードすることができます。

注意 : アップデートCDでバージョン・アップする場合、本項目と手順が異なる場合があります。必ず『アップデートCD付属の取扱説明書』または『各オプションの取扱説明書』に記載してある、『ファームウェアのアップデート項目』を優先してください。

アップデートが必要な場合

オプション : VOX-2またはVOX-3を増設した場合

オプション : VOX-1394を増設した場合

将来音声デコード機能などの変更または追加などでファームウェアを変更する場合

アップデートCD

アップデートをする場合には、現在のファームウェア・バージョンが必要になります。

お客様がお持ちのVX-700について、そのファームウェア・バージョンを当社 品質保証部が『シリアルNo』により一台一台管理しています。従って、『アップデートCD』が必要な場合は、当社 品質保証部に『シリアルNo』をお知らせください。現在のファームウェア・バージョンに応じた『アップデートCD』をお送りいたします。

お客様のVX-700を管理するため、付属の「お客様カード」を必ずご返送ください。引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。●●▶ P100

『シリアルNo』は保証書に記載されています。また、製品のリアパネル側に刻印されていますので確認してください。

『シリアルNo』と合わない『アップデートCD』を使用したとき、適切なバージョン・アップができない場合があります。

メモ VOX-2などのオプションをご購入の場合には、付属の『アップデートCD』をご使用ください。ただし、ファームウェアのバージョン管理のため、オプションに付属している「お客様カード」は必ずご返送ください。

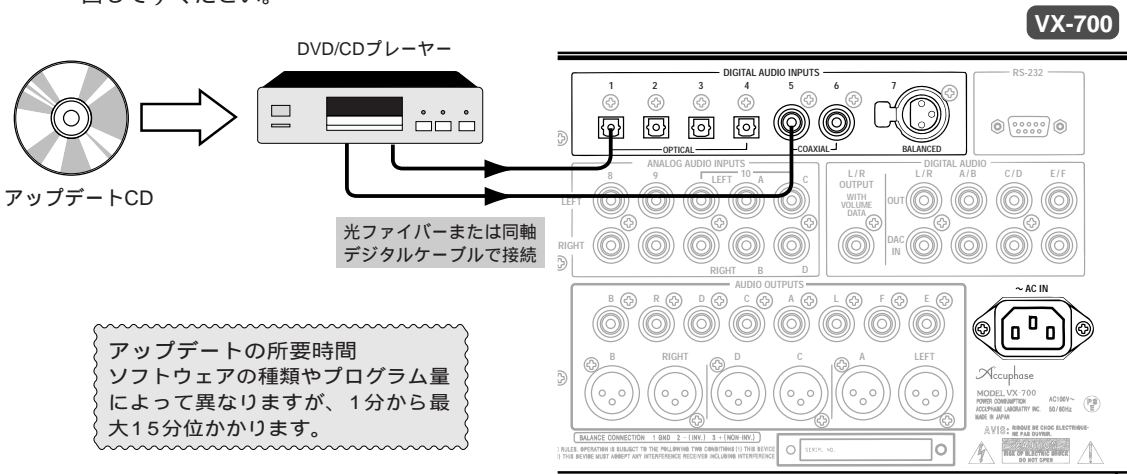
準備と接続

DVD/CDプレーヤー : デジタル出力端子 ⇄ VX-700 : デジタル入力端子を接続します。

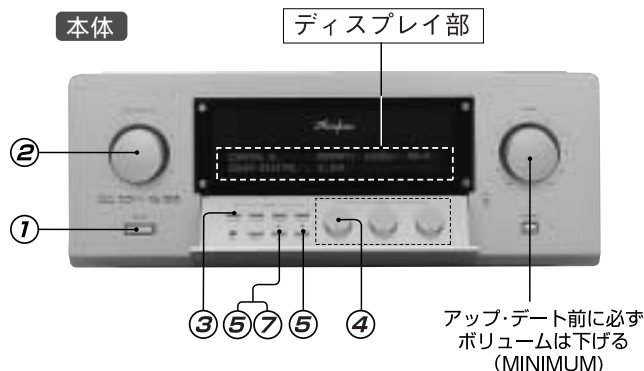
アキュフェーズから配布される『アップデートCD』を用意して、DVD/CDプレーヤーで再生する準備をします。

VX-700の入力セレクターで、DVD/CDプレーヤーを接続した入力ポジションに合わせます。

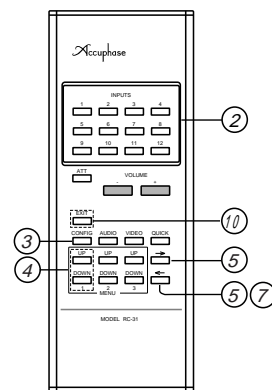
アップデートでは音声の出力は関係ありません。VX-700のボリュームは必ず下げて（MINIMUM側に回して）ください。



アップ・デートの手順



リモート・コマンダー



注意 手順 ② で **→** ボタンを押してスタートすると、手順 ③ まで自動的にアップデートが進行し、表示も順次変わります。
『アップデートCD』の再生は、必ず手順 ④ でトラックの先頭から **PLAY** を始めてください。
アップデート進行中は、手順 ⑤ の **UPDATE COMPLETED** と表示されるまで、入力セレクターやボリューム等 VX-700 の操作系に絶対手を触れないでください。**←** ボタンを押してストップする場合を除く。
エラー表示が出ない場合は、最大 15 分位で終了します。

DVD/CD プレーヤーと VX-700 の電源を入れる。

入力セレクターを、DVD/CD プレーヤーの入力したポジション（光ファイバーまたは同軸デジタル・ケーブルで接続）に合わせる。

CONFIG ボタンを 1 秒以上押す。
CONFIG 設定画面に変わる。

```
[CONFIG]
↑IN-1  ↑OPTICAL 1  ↑AUDIO MEMORY  ↑MEMORY1
```

MENU1 で 『UPDATE SYSTEM』を選択。

```
[CONFIG]
↑UPDATE SYSTEM  ↑START
```

← ボタンを押すとアップデートをスタート

→ ボタンを押す。
「アップ・デート」の準備に入る。

```
UPDATE SYSTEM  ↑NOW SETTING UP...  ↑STOP
```

```
UPDATE SYSTEM  ↑READY...  ↑STOP
```

← ボタンを押すと手順に戻る
(通常は押さないでください)

《READY》と表示が変わったら、アップデート・ディスク (CD) をトラックの先頭から再生 (PLAY) する。

CD 内のプログラムの読み込みをする。表示は下記のように変わる。

注意 : 表示が手順 ④ のままで、プログラムが進行しない場合は入力セレクターで入力ポジションを確認 (手順 ④) してください。それでも進行しない時は当社品質保証部までご連絡ください。

```
UPDATE SYSTEM  ↑DATA DETECTED...  ↑STOP
```

```
UPDATE SYSTEM  ↑LOADING...  ↑STOP
```

← ボタンを押すと手順に戻る
(通常は押さないでください)

* プログラムの読み込み (手順 ④) は、その量に応じて 1 分 ~ 10 分位かかります。

* 手順 ④ 以降は「INPUT SELECTOR」、「SET UP ボタン」、「MENU」などの機能は作動しません。

プログラムの読み込みが終了すると、《UPDATE IN PROGRESS...》と表示が変わり、自動的に「アップ・デート」を開始します。

```
UPDATE SYSTEM  ↑UPDATE IN PROGRESS...
```

* 「アップ・デート」中は、**←** ボタンの LED が消え、キャンセルできません。

* 「アップ・デート」するファームウェアの種類やデータ量によって異なりますが、手順 ④ の「アップ・デート」開始から終了まで最大で 5 分位必要です。

「アップ・デート」が無事終了すると、
《UPDATE COMPLETED》と表示します。

```
UPDATE SYSTEM  ↑UPDATE COMPLETED  ↑EXIT
```

《UPDATE COMPLETED》と表示後、


* **←** ボタンを押すと **CONFIG** モードに戻る。

* **EXIT** ボタンを押す、または何も押さないで約 10 秒すると「UPDATE」メニューは終了して、自動的に演奏ディスプレイに戻る。

CD プレーヤーの再生を終了してディスクを取り出す。

アップ・デート中のエラー表示例


「アップ・デート」が正常に動作しない場合には、エラーの内容を表示して、途中で動作を停止します。停止した場合には不具合を修正して、最初からやり直してください。

エラー表示の中に “ STOP ” の表示がある場合は、 ボタンを押して手順 に戻ります。

“ STOP ” の表示がないエラーの場合には、VX-700の電源を入れ直してください。

それでもエラー表示をする場合には、エラーの表示内容やエラー番号を当社品質保証部までご連絡ください。

プログラム読み込み中のエラー表示例

エラー表示に従って不具合を修正し、 ボタンを押して手順 に戻り、再スタートしてください。

```
[CONFIG]      OLD DISC
UPDATE SYSTEM ▶DATA DETECTED...  ←STOP
```

例：古いバージョンの「アップ・デート」用ディスクを再生

```
[CONFIG]      WRONG DISC
```

例：VX-700の「アップ・デート」には使用できないディスクを再生

```
[CONFIG]      SAME DISC
```

例：前回「アップ・デート」を終了した同じバージョンのディスクを再生

DVD/CDプレーヤーが「アップデートCD」のデータを再生できない場合

「アップデートCD」を再生しても、手順 の《READY》表示のままで進行しない、またはエラー表示が出て進行がストップしたときは・・・

VX-700の電源を入れ直し、接続しているDVD/CDプレーヤーを変えて再スタートしてください。

また、次のようなDVD/CDプレーヤーは使用できません。

DVD/CDプレーヤーが、アップサンプリング等によりCDデータの形式を変えている場合

DVD/CDプレーヤーが、CD-Rの再生が正常にできない場合

アップ・デート作動中のエラー表示例

万一、アップ・デート中に次のようなエラー表示がされた場合には、正常なアップ・デートができません。

VX-700の電源を入れ直し、手順 から再スタートしてください。

```
*** ERROR #CC ***
```

エラー表示《#CC》は、エラー内容で異なり、任意の文字が表示されます

万一停電等で、「アップ・デート」中にVX-700の電源が切れてしまった場合、次回電源投入時には、手順 または から始まります。

⚠ 注意

アップデート中にアップデート信号が途切れると、VX-700のソフトウェアが破壊される場合があります。次の行為を厳守してください。

VX-700の入力セレクターを回さない。

VX-700の電源を切らない（エラー表示が出て電源を入れ直す場合を除く）。

CDプレーヤーの再生をストップしない。

CDプレーヤーの電源を切らない。

アフターサービスについて

保証書

保証書は本体付属の“お客様カード”の登録でお送りいたします。

保証書の記載内容により、保証期間はご購入日から3年間です。

保証書がない場合には、保証内修理をお断りする場合があります。よくお読みのうえ、大切に保存してください。

保証期間が過ぎてしまったら

修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。

補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後最低8年間となっています。

使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。

保証期間以降、長期に渡ってご使用の場合には、当社の定期的な点検をお勧めします。

その他

改造されたものは修理ができない場合がありますのでご了承ください。

本機の故障に起因する付随的損害（営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等）については補償できません。

AC100V以外（海外）では使用できません。

保証は日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

ご質問、ご相談は当社品質保証部または当社製品取扱店にお問い合わせいたします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
〒225-8508 横浜市青葉区新石川 2-14-10
TEL 045 (901) 2771 (代表)
FAX 045 (901) 8995

当社のホームページ上で修理の問い合わせが可能です。

<http://www.accuphase.co.jp/~service>

修理依頼の場合には

“故障かな？と思われるときには”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。（保証書参照）

モデル名、シリアル番号	ご住所、氏名、電話番号
ご購入日、ご購入店	故障状況：できるだけ詳しく

梱包材は、輸送時に必要となりますので、保管しておいてください。



ACCUPHASE LABORATORY INC

アキュフェーズ株式会社

横浜市青葉区新石川 2-14-10
〒225-8508 TEL (045) 901-2771(代)